

授 業 計 画

2 0 2 0

日本大学大学院歯学研究科

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

・日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

・多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

・社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

<自ら学ぶ>

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

・世界の現状を理解し、説明する力

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

<自ら考える>

・論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

<自ら道をひらく>

・挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

・コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

・リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

・省察力

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

大学院歯学研究科における研究活動

研究担当 佐藤 秀一

日本大学大学院歯学研究科は、歯科医学の研究活動に必要な高度の研究能力およびその基盤となる豊かな学識とともに、歯科医学の学術発展に寄与しうる研究を指導する能力を養うことを目的とし、昭和31年4月に私立歯科大学の中で最初に開設されました。現在までに、歯学研究科を修了して博士の学位を授与された者は、1,400人を越えています。

平成17年度からは、歯学専攻の中に基礎系と臨床系とが共同で研究を推進しうる枠組みとして、「口腔構造機能学分野」、「応用口腔科学分野」および「口腔健康科学分野」の3分野を配置しました。また、平成19年度からは、地域歯科医療に貢献している歯科医師も研究活動の機会が得られるように、社会人大学院制度を導入しました。平成22年度からは、学位請求論文審査に関する要項の一部改訂に伴い、総括論文によって学位を請求することができる選択肢を増やしました。令和2年度からは、インパクトファクター（IF）を有する国際水準の専門誌等に筆頭著者として掲載されている原著論文を基幹とし、学位論文を提出する場合、学位請求に必要な原著論文数を1編以上としました。この改訂によって、さらに、じっくりと自分の研究に取り組みます。自分の研究成果がIF値のより高い学術雑誌に掲載されるようチャレンジして戴きたいと思います。

本学大学院は、日本大学の教育理念である、「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道を開く」能力を身につけ、ものごとを広い視点から客観的に考えることができる優秀な人材を育成し、世に送り出すことを目的としています。したがって、大学院における研究は、当然、質の高い水準に達していなければならず、新規性や独創性が要求され、その成果を国際水準のより高い専門誌等に公表することが望まれます。

本授業計画は、これらの目的を達成するために作成されたものです。授業科目は主科目に加えて、副科目と選択科目があり、それらの履修は、広い研究上の視野を育成するために欠かせません。また、総合特別講義として設定されている統計学の履修は、実験計画の立案や結果の妥当性を客観的に解析する助けとなるものです。グローバル化の進んだ現在、成果の公表を科学分野の公用語である英語で発表することは必須です。その能力を養う目的で「英語論文の書き方」や「海外客員教授による講義」が必修科目として設定されています。さらに、教育学や研究を行う上で必要とされる倫理指針に関する講義も行われます。

なお、社会人大学院学生が副科目、選択科目および総合特別講義を履修する際には、実施期日・時間等においてできる限り便宜を図りますので、担当教員に必ず事前に相談してください。

主科目とこれらの履修科目を有効に活用し、本大学院での研究生生活を通して、将来、専攻分野で世界をリードする研究者・教育者としての素地を養って戴けることを期待しております。

研究科及び専攻における人材の養成に関する目的その他の 教育研究上の目的について

「歯学研究科」

歯科医学の教育・研究活動に必要な深い教養と高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識とともに、歯科医学の発展に寄与しうる教育・研究を指導する能力を養うことを目的とする。

専攻分野の教育者及び研究者として自立した活動を行い、さらに歯科医学教育・先端的歯科診療等の指導に従事するために必要な深い教養と高度の研究能力の養成及びその基盤となる豊かな学識を養うことを目的とする。

「歯学専攻」

多岐にわたる歯科医学の高度にしてより幅広い知識と先進的医療技術を有す教育者及び研究者の育成を図るべく、口腔構造機能学分野、応用口腔科学分野、口腔健康科学分野の3分野を設置している。これらは、歯科基礎系と歯科臨床系を融合した分野であり、学際領域の推進により複数の教員による指導体制のもとに、教育及び臨床に直結した歯学研究、専門医養成することを目的とする。

歯学研究科3つのポリシーについて

ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

歯学研究科博士課程に所定の修業年限以上在学し、修了に必要な所定の単位（30単位以上）を修得し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験において、専攻分野に新たな知見を与え、歯科医学の発展に寄与し、教育・研究者としての豊かな学識と高度な技術が認められた者に博士（歯学）の学位を授与する。

なお、学位審査では、その研究が一定以上の水準を示すインパクトファクターの付与された研究雑誌に筆頭著者として受理された論文を提出するよう推奨している。

<自ら学ぶ>

DP1

コンピテンス：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

コンピテンシー：生命の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な研究が実践できる。

DP2

コンピテンス：世界の現状を理解し、説明する力

コンピテンシー：国際社会における科学の現状や背景を把握し、世界の医療・保健・福祉の役割を理解して、研究に取り組むことができる。

<自ら考える>

DP 3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：新たな創造をめざし、得られた多岐にわたる知識や情報を基に、論理的で批判的な思考力で、最先端の独創的な研究を行うことができる。

DP 4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自らの研究課題や問題を見つけ、その解決のために必要な研究ができる。

<自ら道をひらく>

DP 5

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな研究課題に積極的に挑戦し続け、自らの道をひらくことができる。

DP 6

コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：歯科医学研究を含む自然科学を探究するための必要なコミュニケーションが実践でき、自らの考えを世界に発信することができる。

DP 7

コンピテンス：リーダーシップ・協働力

コンピテンシー：歯科医学を探究するための責任ある研究を実践するリーダーシップと協働力を養うことができる。

DP 8

コンピテンス：省察力

コンピテンシー：歯科医学研究者・教育者として生涯にわたり、振り返りを行うことができ、自然科学領域の研究活動において自らを高めることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

自主創造の気風を自ら実践し、歯科医学の研究・教育活動に必要な高い教養と研究能力及びその基礎となる科学的思考力とともに、自立して研究を遂行・展開することができ、歯科医学の発展に寄与しうる豊かな学識と人間性を兼備した教育・研究者の育成を目的とする。

<自ら学ぶ>

CP 1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、社会人としての品格と研究・教育者となるために必要な倫理観や自覚を育成する。

CP 2 世界の現状を理解し、説明する力

主科目、選択科目および総合特別講義の履修および基礎・臨床・社会医学の研究成果を基に、国際社会での研究活動で活躍できる能力を養う。

<自ら考える>

CP3 論理的・批判的思考力

主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を有する研究者・教育者を育成する。

CP4 問題発見・解決力

主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、歯科医学研究に必要な知識を幅広く体系的に学修し、リサーチマインドに必要な探求心と問題解決する力を養成する。

<自ら道をひらく>

CP5 挑戦力

研究によって明らかとなる新たな知見から、さらに課題を見つけ出し、それに挑戦し続けるリサーチマインドを持った研究者・教育者を養成する。

CP6 コミュニケーション力

国際的な研究活動を積極的に行う中で、適切なコミュニケーション力を養い、国際的・学術的研究を進めるための能力を育てる。

CP7 リーダーシップ・協働力

他分野の研究者と連携と協働し、良好な人間関係を構築しながら、広い視野を持つ国際的なリーダーシップが執れる研究者を育成する。

CP8 省察力

主科目、選択科目および総合特別講義の履修と研究活動を通じて、自己の向上の必要性を理解し、研究・教育者として生涯にわたる向上に努める姿勢を身につける。

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

歯科医学に関する豊かな知識と高いリサーチマインドを有し、優れた教育・研究者を志す人材を求める。

AP1

自主創造の精神に基づき、独創的な研究ができる人。

AP2

研究者または教育者となる強い目的意識と高い倫理観をもつ人。

AP3

自己課題とさらなる探究心に挑戦する力を持ち続けて努力する人。

AP4

生涯にわたる探求意欲を持続し、国際的な視点から社会貢献したい人。

学位論文の審査基準について

歯学研究科における論文の審査については、歯学研究科のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の基準により総合的に評価する。

- ① 研究の内容に独創性と新規性があること。
- ② 研究の目的・背景が明確に記述されていること。
- ③ 研究の計画・方法について明確かつ具体的に記載されていること。
- ④ 客観的な研究結果に基づき、論理的な考察が成されていること。
- ⑤ 適切に文献が引用されていること。
- ⑥ 研究倫理を遵守して行われた研究であること。
- ⑦ 学術的価値が認められる研究であること。

目 次

大学院歯学研究科における研究活動

1. 履修方法及び授業科目	1
2. 総合特別講義の履修	2
3. 成績評価	2
授業時間割	
令和2年度大学院歯学研究科前期授業時間割	4
令和2年度大学院歯学研究科後期授業時間割	6
令和2年度大学院歯学研究科（副科目・選択科目）一覧表	8
令和2年度大学院歯学研究科（副科目・選択科目）一覧表【社会人】	9
大学院担当教員一覧	10

主 科 目

解剖学	13
発生・組織学, 口腔解剖学	14
生理学, 口腔生理学 - 神経生理学 -	15
歯科薬理学, 薬理学	16
口腔外科学	17
歯科矯正学	19
歯科麻酔学	20
口腔生化学, 生化学	21
病理学, 口腔病理学	22
歯科理工学	23
保存修復学	24
歯内療法学	25
歯周病学	26
総義歯補綴学	27
局部床義歯学	29
クラウン・ブリッジ学	30
口腔細菌学, 細菌学	31
口腔衛生学, 衛生学	33
歯科法医学, 法医学	34
歯科放射線学	35
小児歯科学	36
口腔診断学, 口腔ペインクリニック学	37
摂食機能療法学	38

副科目・選択科目

解剖学	44
発生・組織学	46
口腔生理学	50
歯科薬理学	52
口腔外科学	56
歯科矯正学（一般）	58
歯科矯正学（社会人）	60
歯科麻酔学	62
口腔生化学，生化学	64
口腔病理学	66
歯科理工学	68
保存修復学（一般）	70
保存修復学（社会人）	72
歯内療法学	74
歯周病学	76
総義歯補綴学	78
局部床義歯学	80
クラウン・ブリッジ学	82
口腔細菌学	86
口腔衛生学	88
歯科法医学	90
歯科放射線学	94
小児歯科学	96
口腔診断学，口腔ペインクリニック学	100
摂食機能療法学	102
統合科目Ⅰ〔審美歯科学 Esthetic dentistry〕	104
統合科目Ⅱ〔口腔インプラント学〕	106
統合科目Ⅲ〔画像解析学〕	108
総合特別講義（一般）	110
総合特別講義（社会人）	112
日本大学学則（大学院）抜粋	115
学位請求論文審査に関する要項	126
学位の申請について（課程博士）	131

1. 履修方法及び授業科目

2. 総合特別講義の履修

3. 成績評価

1. 履修方法及び授業科目

各分野の中から主科目 20 単位以上，副科目 4 単位以上，選択科目のうちから必修科目 2 単位を含め 6 単位以上，合計 30 単位以上を履修し，かつ必要な指導を受け学位論文 1 編・原著論文 1 編以上を提出しなければならない。

なお，学位論文については，「学位請求論文審査に関する要項」，「学位の申請について（課程博士）」を参照すること。

また，標準修業年限は 4 年とし在学年数は 8 年を超えることができない。

(1) 主科目は分野ごとに以下の表に定められたものとする。

分 野	主 科 目	単位数
口腔構造機能学分野	解剖学	20
	発生・組織学	10
	口腔解剖学	10
	口腔生理学	10
	生理学	10
	歯科薬理学	10
	薬理学	10
	口腔外科学	20
	歯科矯正学	20
	歯科麻酔学	20
応用口腔科学分野	口腔生化学	10
	生化学	10
	口腔病理学	10
	病理学	10
	歯科理工学	20
	保存修復学	20
	歯内療法学	20
	歯周病学	20
	総義歯補綴学	20
	局部床義歯学	20
	クワン・ブリッジ学	20
口腔健康科学分野	口腔細菌学	10
	細菌学	10
	口腔衛生学	10
	衛生学	10
	歯科法医学	10
	法医学	10
	歯科放射線学	20
	小児歯科学	20
	口腔診断学	10
	口腔ペインクリニック学	10
	摂食機能療法学	20

- (2) 副科目及び選択科目は、2年次及び3年次で授業時間割に記載された科目の中から選択し履修するものとする。指導教授と相談のうえ、日本大学大学院相互履修科目の中から選択することもできる。

なお、選択科目の必修科目である総合特別講義を受講しなければならない。

2. 総合特別講義の履修

研究の質的レベルアップを目的に、遺伝子研究、疫学研究などに関する倫理指針や、インフォームド・コンセント等を充実させ、大学院学生教育に教育者として自覚を促す目的で、教育学を導入し、必修科目とした。

- ① 講義日程は現在の講義内容に加え、倫理、教育等の特色ある講義をオムニバス方式で、講義30時間を半期完結型で実施する。
- ② 評価方法は、客員教授等を招聘した講座の担当者により点数化された講義レポート等を参考にして指導教授が評価点を提出し、研究科分科委員会に諮り、単位の認定を受ける。

3. 成績評価

- ① 学業成績の判定は、S、A、B、C及びDの5種をもってこれを表し、Sは90点以上、Aは80点以上、Bは70点以上、Cは60点以上、Dは59点以下とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。合格した科目については所定の単位数が与えられる。
- ② 副科目及び選択科目は学期の終わりに成績評価を行ない、主科目については大学院在籍期間を通じての評価とする。

※GPA (Grade Point Average)

厳格な成績評価、綿密な履修指導による修了生の質の保証等のために、GPA制度を導入する。

各授業科目の評価に対する係数は、つぎのとおり定める。

$$S = 4, A = 3, B = 2, C = 1, D = 0$$

科目担当教員から提出された成績表の素点から評価を導き出し、その評価に該当する係数に各科目の単位数を掛けたものがポイント数となり、ポイント数の総計を総履修単位数（Dの単位数も含める）で除したものがGPAとなる。GPAは小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までを有効とする。

$$\frac{(4 \times S \text{ の修得単位数}) + (3 \times A \text{ の修得単位数}) + (2 \times B \text{ の修得単位数}) + (1 \times C \text{ の修得単位数})}{\text{総履修単位数(Dの単位数も含める)}}$$

授業時間割

令和2年度大学院歯学研究科前期授業時間割

学年	曜日	時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限	場所						
		時間	9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50							
第1年次	月	主科目講義及び実験のほかに総合特別講義									各講座研究室						
	火																
	水																
	木																
	金																
	土																
学年	曜日	時間	9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50	場所						
第2年次	月	統合科目Ⅲ〔画像解析学〕					解剖学				各講座研究室						
	火																
	水																
	木											口腔生化学		主科目講義及び実験のほかに論文作成			
	金											口腔病理学					
	土											保存修復学(社会人)					
学年	曜日	時間	9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50	場所						
第3年次	月	歯内療法学				保存修復学				各講座研究室							
	火	クラウン・ブリッジ学				主科目講義及び実験											
	水	局部床義歯学															
	木	総義歯補綴学									歯科矯正学(社会人)						
	金	歯周病学															
	土																
学年	曜日	時間	9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50	場所						
第4年次	月	主科目講義及び実験のほかに論文作成					主科目講義及び実験のほかに論文作成				各講座研究室						
	火																
	水																
	木																
	金																
	土																

学年		時限		9時限	10時限	11時限	12時限					場所
		時間		18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50					
曜日												
第1年次	月	主科目講義及び実験のほかに総合特別講義										各講座研究室
	火											
	水											
	木											
	金											
	土											
学年		時間		18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50					場所
曜日												
第2年次	月	口腔生理学										各講座研究室
	火	解剖学(社会人)										
	水											
	木	口腔生化学(社会人)										
	金	口腔病理学(社会人)										
	土											
学年		時間		18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50					場所
曜日												
第3年次	月	歯内療法学(社会人)										各講座研究室
	火	クラウン・ブリッジ学(社会人)										
	水	局部床義歯学(社会人)										
	木	総義歯補綴学(社会人)										
	金											
	土											
学年		時間		18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50					場所
曜日												
第4年次	月	主科目講義及び実験のほかに論文作成										各講座研究室
	火											
	水											
	木											
	金											
	土											

履修方法

主科目 20 単位以上、副科目 4 単位以上、選択科目 6 単位以上、合計 30 単位以上を履修し、かつ必要な指導を受け

主論文 1 編・副論文 1 編以上を提出しなければならない。

また、それぞれ指定された学年において、主科目講義及び実験のほかに総合特別講義（2 単位）を受講しなければならない。

備考

1 単位は、次のとおり

講義科目・・・15 時間の授業

実験科目・・・45 時間の授業

令和2年度大学院歯学研究科後期授業時間割

学年	曜日	時限								場所	
		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限		
時間		9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50	場所	
第1年次	月	主科目講義及び実験のほかに総合特別講義								各講座研究室	
	火										
	水										
	木										
	金										
	土										
学年	曜日	時間	9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50	場所
第2年次	月	歯科麻酔学				歯科矯正学				各講座研究室	
	火	歯科理工学				発生・組織学					
	水	歯科法医学				主科目講義及び実験のほかに論文作成					
	木	口腔衛生学									
	金	口腔細菌学									
	土	歯科薬理学									
学年	曜日	時間	9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50	場所
第3年次	月	口腔外科学				歯科矯正学				各講座研究室	
	火	主科目講義及び実験のほかに論文作成									
	水	小児歯科学				統合科目Ⅰ〔審美歯科学〕					
	木	摂食機能療法学				口腔診断学					
	金	歯科放射線学				統合科目Ⅱ〔口腔インプラント学〕					
	土										
学年	曜日	時間	9:00 9:50	10:00 10:50	11:00 11:50	13:00 13:50	14:00 14:50	15:00 15:50	16:00 16:50	17:00 17:50	場所
第4年次	月	主科目講義及び実験のほかに論文作成				主科目講義及び実験のほかに論文作成				各講座研究室	
	火										
	水										
	木										
	金										
	土										

学年	時限		9時限	10時限	11時限	12時限					場所	
	曜日	時間	18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50						
第1年次	月	主科目講義及び実験のほかに総合特別講義									各講座研究室	
	火											
	水											
	木											
	金											
	土											
学年	曜日	時間	18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50					場所	
第2年次	月										各講座研究室	
	火											歯科理工学(社会人)
	水											歯科法医学(社会人)
	木											口腔衛生学(社会人)
	金											口腔細菌学(社会人)
	土											
学年	曜日	時間	18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50					場所	
第3年次	月										各講座研究室	
	火											口腔外科学(社会人)
	水											小児歯科学(社会人)
	木											摂食機能療法学(社会人)
	金											歯科放射線学(社会人)
	土											
学年	曜日	時間	18:00 18:50	19:00 19:50	20:00 20:50	21:00 21:50					場所	
第4年次	月	主科目講義及び実験のほかに論文作成									各講座研究室	
	火											
	水											
	木											
	金											
	土											

令和2年度大学院歯学研究科（副科目・選択科目）一覧表

時期	曜日	時限	授業科目	授 業 内 容 (課 題)	場 所
2年前期	火	5～8	解 剖 学	1間葉系幹細胞の分化メカニズム 2転写因子の構造と機能 3細胞分化の研究手法	解剖学Ⅰ研究室
2年後期	水	5～8	発生・組織学	1コモンセンスと倫理 2顕微解剖学の文化 3顕微解剖学の実際	解剖学Ⅱ研究室
2年前期	月	9～12	口 腔 生 理 学	1痛みの受容機構 2病態時の痛覚受容機構	生理学研究室
2年後期	土	1～4	歯 科 薬 理 学	1神経科学の基礎（ニューロン・シナプスの特性） 2大脳基底核機能と顎運動制御機構	薬理学研究室
3年後期	月	1～4	口 腔 外 科 学	1口腔悪性腫瘍の外科治療 2口腔顎顔面再建手術 3顎変形症に対する外科的治療	口腔外科学研究室
3年後期	月	5～8	歯 科 矯 正 学	1不正咬合の診断と治療方針の決定 2矯正治療の考え方と治療ステップ	歯科矯正学研究室
2年後期	月	5～8	歯 科 麻 酔 学	1麻酔の基礎となる薬理，生理，解剖を学ぶ 2各麻酔薬を理解し，生体の評価を学ぶ	歯科麻酔学研究室
2年前期	木	1～4	口 腔 生 化 学	1細胞生物学的・分子生物学的研究へのアプローチ法 2硬組織の生化学・分子生物学（骨芽細胞の分化や骨基質タンパク質の研究法について）	生化学研究室
2年前期	金	1～4	口 腔 病 理 学	1 alarmin の基礎について 2脳梗塞虚血モデルにおける alarmin 分子の動態	病理学研究室
2年後期	火	1～4	歯 科 理 工 学	1歯科材料の物性 2機器分析の原理と実際	歯科理工学研究室
3年前期	月	5～8	保 存 修 復 学	1 Minimal Intervention に基づいたカリオロジー 2歯質接着修復の理論と実際	歯科保存学Ⅰ研究室
3年前期	月	1～4	歯 内 療 法 学	1歯内療法の実際と新しい概念・治療法	歯科保存学Ⅱ研究室
3年前期	金	1～4	歯 周 病 学	1現代の歯周治療の理論と実際	歯科保存学Ⅲ研究室
3年前期	木	1～4	総義歯補綴学	1総義歯補綴学 2高齢者歯科疫学研究の要点	歯科補綴学Ⅰ研究室
3年前期	水	1～4	局 部 床 義 歯 学	1顎顔面補綴学 2磁気補綴学 3再生歯学 4スポーツ歯学	歯科補綴学Ⅱ研究室
3年前期	火	1～4	クラウン・ブリッジ学	1歯冠色修復と欠損補綴 2接着材と補綴治療 3歯科インプラント 4審美歯科と補綴治療	歯科補綴学Ⅲ研究室
2年後期	金	1～4	口 腔 細 菌 学	1感染と免疫 2う蝕と歯周病の分子生物学 3口腔感染症を誘因とする全身疾患	細菌学研究室
2年後期	木	1～4	口 腔 衛 生 学	1疫学研究の基礎 2歯周病と全身との関連性 3細胞培養研究の実際	衛生学研究室
2年後期	水	1～4	歯 科 法 医 学	1歯科法医学的手法による個人識別（口腔内所見，血液型，DNA型）	法医学研究室
3年後期	金	1～4	歯 科 放 射 線 学	1 MultidetectorCT と歯科用 CT の画像診断 2 デジタル画像診断 3 <i>in vivo</i> micro CT による画像分析	歯科放射線学研究室
3年後期	水	1～4	小 児 歯 科 学	1遺伝子変異と摂食機能発達の異常 2頭蓋・顎顔面ならびに歯の発生・発育と遺伝子	小児歯科学研究室
3年後期	金	5～8	口 腔 診 断 学	1口腔顔面痛の診査・診断 2口腔顔面痛患者の治療	口腔診断学研究室
3年後期	木	1～4	摂食機能療法学	1摂食機能療法における診断，理念，手技，科学的根拠	摂食機能療法学研究室
3年後期	木	5～8	統 合 科 目 Ⅰ	審美歯科学	未 定
3年後期	土	1～4	統 合 科 目 Ⅱ	口腔インプラント学	未 定
2年前期	火	1～4	統 合 科 目 Ⅲ	画像解析学	歯科放射線学研究室
1 年			総合特別講義	統計学，英語論文の書き方，海外客員教授による特別講義等	未 定

授業時間 1時限～4時限 9：00～13：50／5時限～8時限 14：00～17：50／9時限～12時限 18：00～21：50

授業期間 前期：4月1日から9月30日 後期：10月1日から3月31日

令和2年度大学院歯学研究科（副科目・選択科目）一覧表【社会人】

時期	曜日	時限	授業科目	授 業 内 容 (課 題)	場 所
2年前期	火	9～12	解 剖 学	1 間葉系幹細胞の分化メカニズム 2 転写因子の構造と機能 3 細胞分化の研究手法	解剖学 I 研究室
2年後期	水	5～8	発 生・組 織 学	1 コモンセンスと倫理 2 顕微解剖学の文化 3 顕微解剖学の実際	解剖学 II 研究室
2年前期	月	9～12	口 腔 生 理 学	1 痛みの受容機構 2 病態時の痛覚受容機構	生理学 研究室
2年後期	土	1～4	歯 科 薬 理 学	1 神経科学の基礎（ニューロン・シナプスの特性） 2 大脳基底核機能と顎運動制御機構	薬理学 研究室
3年後期	月	9～12	口 腔 外 科 学	1 口腔悪性腫瘍の外科治療 2 口腔顎顔面再建手術 3 顎変形症に対する外科的治療	口腔外科学 研究室
3年前期	木	5～8	歯 科 矯 正 学	1 不正咬合の診断と治療方針の決定 2 矯正治療の考え方と治療ステップ	歯科矯正学 研究室
2年後期	月	5～8	歯 科 麻 酔 学	1 麻酔の基礎となる薬理, 生理, 解剖を学ぶ 2 各麻酔薬を理解し, 生体の評価を学ぶ	歯科麻酔学 研究室
2年前期	木	9～12	口 腔 生 化 学	1 硬組織の生化学・分子生物学（骨形成と骨吸収, 軟骨分化など） 2 歯槽骨の再生（当教室の既存データと最新情報からの考察）	生化学 研究室
2年前期	金	9～12	口 腔 病 理 学	1 alarmin の基礎について 2 脳梗塞虚血モデルにおける alarmin 分子の動態	病理学 研究室
2年後期	火	9～12	歯 科 理 工 学	1 歯科材料の物性 2 機器分析の原理と実際	歯科理工学 研究室
2年前期	土	1～4	保 存 修 復 学	1 Minimal Intervention に基づいたカリオロジー 2 歯質接着修復の理論と実際	歯科保存学 I 研究室
3年前期	月	9～12	歯 内 療 法 学	1 歯内療法の実際と新しい概念・治療法	歯科保存学 II 研究室
3年前期	金	1～4	歯 周 病 学	1 現代の歯周治療の理論と実際	歯科保存学 III 研究室
3年前期	木	9～12	総義歯補綴学	1 総義歯補綴学 2 高齢者歯科疫学研究の要点	歯科補綴学 I 研究室
3年前期	水	9～12	局 部 床 義 歯 学	1 顎顔面補綴学 2 磁気補綴学 3 再生歯学 4 スポーツ歯学	歯科補綴学 II 研究室
3年前期	火	9～12	クラウン・ブリッジ学	1 歯冠色修復と欠損補綴 2 接着材と補綴治療 3 歯科インプラント 4 審美歯科と補綴治療	歯科補綴学 III 研究室
2年後期	金	9～12	口 腔 細 菌 学	1 感染と免疫 2 う蝕と歯周病の分子生物学 3 口腔感染症を誘因とする全身疾患	細菌学 研究室
2年後期	木	9～12	口 腔 衛 生 学	1 疫学研究の基礎 2 歯周病と全身との関連性 3 細胞培養研究の実際	衛生学 研究室
2年後期	水	9～12	歯 科 法 医 学	1 歯科法医学的手法による個人識別（口腔内所見, 血液型, DNA型）	法医学 研究室
3年後期	金	9～12	歯 科 放 射 線 学	1 MultidetectorCT と歯科用 CT の画像診断 2 デジタル画像診断 3 <i>in vivo</i> micro CT による画像分析	歯科放射線学 研究室
3年後期	水	9～12	小 児 歯 科 学	1 遺伝子変異と摂食機能発達の異常 2 頭蓋・顎顔面ならびに歯の発生・発育と遺伝子	小児歯科学 研究室
3年後期	金	5～8	口 腔 診 断 学	1 口腔顔面痛の診査・診断 2 口腔顔面痛患者の治療	口腔診断学 研究室
3年後期	木	9～12	摂食機能療法学	1 摂食機能療法における診断, 理念, 手技, 科学的根拠	摂食機能療法学 研究室
3年後期	木	5～8	統 合 科 目 I	審美歯科学	未 定
3年後期	土	1～4	統 合 科 目 II	口腔インプラント学	未 定
2年前期	火	1～4	統 合 科 目 III	画像解析学	歯科放射線学 研究室
1 年			総合特別講義	統計学, 英語論文の書き方, 海外客員教授による特別講義等	未 定

授業時間 1時限～4時限 9:00～13:50 / 5時限～8時限 14:00～17:50 / 9時限～12時限 18:00～21:50

授業期間 前期 : 4月1日から9月30日 後期 : 10月1日から3月31日

大学院担当教員一覧

2020年4月1日現在

分野	構成科目	教授	准教授	専任講師	助教	助手
口腔構造機能学分野	解剖学	○高橋 富久	◇二宮 禎 ◇藤原 恭子		◇大橋 晶子	
	発生・組織学 口腔解剖学	○磯川桂太郎	◇山崎 洋介			湯口 眞紀
	口腔生理学 生理学	○篠田 雅路		◇坪井 美行	◇林 良憲 人見 涼露	
	歯科薬理学 薬理学	○小林 真之			◇山本 清文 ◇中谷 有香 大橋 一徳	
	口腔外科学	○外木 守雄		◇佐藤 貴子 田中 孝佳	◇篠塚 啓二 ◇西久保周一 荻澤 翔平	
		○米原 啓之 ◇金子 忠良	◇清水 治	◇生木 俊輔	白土 博司 ◇古川 明彦 玉川 崇皓	
	歯科矯正学	○本吉 満	◇中嶋 昭 ◇馬谷原琴枝	田村 隆彦 ◇納村 泰弘	◇内田 靖紀 ◇稲葉 瑞樹	
	歯科麻酔学	○大井 良之	◇岡 俊一		◇小柳 裕子 関野 麗子 北山 稔恭 里見ひとみ 山口 洋子	
応用口腔科学分野	口腔生化学 生化学	○鈴木 直人	◇田邊奈津子 ◇津田 啓方			
	口腔病理学 病理学	○浅野 正岳			福井 伶 角田麻里子 山本安希子	
	歯科理工学	○米山 隆之	◇小泉 寛恭	◇深瀬 康公 掛谷 昌宏		
	保存修復学	○宮崎 真至	◇黒川 弘康 ◇陸田 明智 ◇高見澤俊樹		◇辻本 暁正 石井 亮 小森谷康司	
	歯内療法学	○武市 収 ◇林 誠	◇清水 康平	◇勝呂 尚	◇羽鳥 啓介 ◇鈴木 裕介 安川 拓也	
	歯周病学	○佐藤 秀一	◇菅野 直之 ◇吉沼 直人 ◇高山 忠裕	◇西田 哲也	◇蓮池 聡 ◇間中総一郎	
	総義歯補綴学	○飯沼 利光	◇高津 匡樹	◇池田 貴之 ◇李 淳 伊藤 智加	◇浦田健太郎 ◇西尾 健介	
	局部床義歯学		◇月村 直樹	◇大山 哲生 大谷 賢二	◇秋田 大輔 安田 裕康	
	ワカシ・ブリッジ学	○松村 英雄	◇萩原 芳幸 ◇小峰 太		◇野川 博史 ◇本田 順一 ◇平場 晴斗 ◇小平 晃久	
口腔健康科学分野	口腔細菌学 細菌学	○今井 健一	◇田村 宗明 ◇神尾 宜昌	◇田中 一		
	口腔衛生学 衛生学	○川戸 貴行	◇田中 秀樹		◇中井久美子 ◇尾崎 愛美	
	歯科法医学	○網干 博文		◇堤 博文 ◇近藤 真啓	村山 良介	
	歯科放射線学	○本田 和也 ◇新井 嘉則	◇松本 邦史	◇澤田久仁彦 ◇江島堅一郎	雨宮 俊彦 出澤 幸	
	小児歯科学	○白川 哲夫		◇高森 一乗	◇武井 浩樹 ◇石山 未紗	
	口腔診断学 口腔ペインクリニック学	○今村 佳樹	◇岡田 明子 ◇野間 昇	◇篠崎 貴弘		
	摂食機能療法学	○植田耕一郎	◇阿部 仁子 ◇中山 洵利		◇佐藤 光保	
教養系その他		中島 一郎 尾崎 哲則 宮崎 洋一 山岡 大 中野 善夫 ◇藤田 智史	紙本 篤 田嶋 倫雄 佐藤 紀子	古地 美佳 関 啓介 上原 任 三澤麻衣子	竹内 義真 渡辺 孝康 鈴木 秀則	小林 理美
合計		32	32	26	49	2

○印：研究指導教員（○合）23名， ◇印：科目担当教員（合）77名， 無印：研究指導アドバイザー41名

主 科 目

授業科目：解剖学

担当教員：高橋富久，二宮 禎，藤原恭子，大橋晶子

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 下記の研究テーマから自ら研究計画の立案を行ない，研究の遂行から達成までの基礎知識と技術を修得する。研究遂行のために，参考書や専門書をひも解きながら基礎知識を身に付けるとともに，研究テーマに関連した論文の検索，論文の読み方や要点の捉え方を学び，研究に必要な情報収集力に加えて，考察能力と論文作成能力を養う。また，細胞培養実験および動物実験を行ない，遺伝子導入法や遺伝子改変動物を用いた形態・機能的解析手法を身につける。以上の学修によって，実験計画の立案から学術論文発表までの能力を有した研究者を育成する。</p>
<p>研究テーマ： 1. 間葉系細胞の分化メカニズムについての研究 2. 骨代謝についての研究 3. 組織修復メカニズムについての研究 4. 腫瘍の抗がん剤耐性獲得機構についての研究 5. 内因性補酵素テトラヒドロbiopterinの体内動態についての研究</p>
<p>一般目標（GIO）： 基礎歯科医学の研究活動に必要な高い研究能力と科学的思考力とともに，自立して研究を遂行・展開できる能力を身につける。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 研究者としての自覚と目的意識を身につける。 2. 問題解決のためのアプローチの仕方について分析・考察する能力を修得する。 3. 研究成果を発表するためのプレゼンテーション能力と学術論文を作成する能力を修得する。</p>
<p>授業の方法： 研究目的を達成するための実験に加えて，研究テーマに関連した基礎知識を身につけるために論文抄読会やグループディスカッションを行ない，個々の実験結果について分析・考察する能力を養うことで，研究の発展につなげる。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 分子生物学，細胞工学，癌治療の基礎研究に関する学術誌や専門書など。</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 得られたデータの解析力・考察力，文献読解力と研究に取り組む姿勢を勘案し，総合的に評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Forced expression of mouse progerin attenuates the osteoblast differentiation interrupting β-catenin signal pathway in vitro. <i>Cell Tissue Res</i>, 375(3), 655-664, 2019. 2. Establishment and characterization of a C57BL/6 mouse model of bone metastasis of breast cancer. <i>J Bone Miner Metab</i>, 37(2), 235-242, 2019. 3. Intermittent parathyroid hormone 1-34 induces oxidation and deterioration of mineral and collagen quality in newly formed mandibular bone. <i>Sci Rep</i>, 9(1), 8041, 2019. 4. Amyloid precursor protein, an androgen-regulated gene, is targeted by RNA-binding protein PSF/SFPQ in neuronal cells. <i>Genes Cells</i>, 24(11), 719-730, 2019. 5. Forced expression of NR4A3 induced differentiation of human neuroblastoma-derived NB1 cells. <i>Med Oncol</i>, 36(8), 66, 2019. 6. Molecular alterations of newly formed mandibular bone caused by zoledronate. <i>Int J Oral Maxillofac Surg</i>, 47(9), 1206-1213, 2018. 7. Cathepsin K inhibitor causes changes in crystallinity and crystal structure of newly- formed mandibular bone in rats. <i>Br J Oral Maxillofac Surg</i>, 56(8), 732-738, 2018. 8. Mapping of new skin tumor susceptibility loci by a phenotype-driven congenic approach. <i>Oncol Lett</i>. 16(5), 6670-6676, 2018. 9. Organic anion transporters, OAT1 and OAT3, are crucial biopterin tetrahydrobiopterin and exclusion of its excess. <i>Mol Cell Biochem</i>, 435(1-2), 97-108, 2017. 10. Lamin A overexpression promotes osteoblast differentiation and calcification in the MC3T3-E1 preosteoblastic cell line. <i>Biochem Biophys Res Commun</i>. 488(4), 664-670, 2017.</p>

授業科目：発生・組織学，口腔解剖学

担当教員：磯川桂太郎，山崎洋介

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： この課程では，学術論文を通して先人の足跡を読み取りながら，未知なるものを希求し，それを自らの手で見出すための努力を繰り返していくことになる。授けられて学ぶのではなく，先人の轍を敬虔に追いつつも，他者が気づかぬことに気づく細心さ，他者がなさないことをやり遂げる忍耐と頑固さ，そして，研究者としての高い倫理観の下に，課題をやり遂げる必要がある。その結果として，確かで揺るぎない知見を提示して研究報告をまとめあげることになる。</p>
<p>研究テーマ： 1. 非弾性組織における弾性系線維の分布とその進化発生的な意義に関する研究 2. 魚類の顎歯・咽頭歯の多様性に関する形態および組織学的研究 3. 魚類、両生類をモデルとした歯の発生学的研究 4. マルフアン症候群モデルマウス歯根膜の組織学的研究</p>
<p>一般目標（GIO）： 研究テーマに沿った課題に取り組み，形態学な視点や方略を基盤として研究活動を展開し，学術的な新知見を得て学会および学術誌で研究報告をする。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 研究テーマに沿った学術論文を系統的に追い，読解できる。 2. 研究試料の収集，処理と適切な管理ができる。 3. 研究手法（機器やソフトウェアのオペレーションを含む）に習熟している。 4. 根気，観察力，着想力，説明力を養って新知見を見出せる。 5. 研究記録やデータの厳格な管理・保全ができる。 6. 学会の抄録作成と発表，学術論文の執筆ができる。</p>
<p>授業の方法： 専任スタッフも大学院生も，前項のSBOsに沿って，日々絶え間なく学びと努力を重ね，互いに情報や意見を交わすその場が，授業の姿と現場そのものであると理解すること。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： ラボ内での研究の進捗状況および関連領域の最新論文・書籍などについては，オンラインシステム上で毎日，情報(URLを含む)の交換や討議を行っている。</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 各自の課題に沿った研究の遂行・完了をもって単位取得見込みとなるが，学位授与のためには，学術論文2報分のサイエンスに実質的な貢献をし，学位論文を執筆・完成させて学術雑誌にアクセプトされることが必要となる。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Kanazawa H, Yuguchi M, Yamazaki Y, Isokawa K (2020) The teeth and dentition of a filefish (<i>Stephanolepis cirrifer</i>) revisited tomographically. <i>J Oral Sci, in press</i> 2. Usami S, Yuguchi M, Yamazaki Y, Kanazawa H, Isokawa K (2020) Temporospatial distribution of osteogenic and osteoclastic cells during development of the tarsometatarsal skeleton in the chick embryo (<i>Gallus gallus</i>). <i>J Oral Sci, in press</i> 3. Shiroto Y, Terashima S, Hosokawa Y, Oka O, Isokawa K, Tsuruga E (2017) The effect of ultraviolet B on fibrillin-1 and fibrillin-2 in human non-pigmented ciliary epithelial cells in vitro. <i>Acta Histochem Cytochem</i> 50, 105-109. 4. Kubota S, Yuguchi M, Yamazaki Y, Kanazawa H, Isokawa K (2016) Highly reproducible skeletal deformities induced by administration of β-aminopropionitrile to developing chick embryos. <i>J Oral Sci</i> 58, 255-263. 5. Shinozuka K, Yamazaki Y, Yuguchi Y, Toriumi T, Suzuki R, Tsuruga E, Isokawa K (2013) Progressive bundling of fibrillin microfibrils into oxytalan fibers in the chick presumptive dermis. <i>Anat Rec</i> 296, 71-78. 6. Yamazaki Y, Mikami Y, Yuguchi M, Namba Y, Isokawa K (2012) Development of collagen fibres and lysyl oxidase expression in the presumptive dermis of chick limb bud. <i>Anat Histol Embryol</i> 41, 68-74. 7. Tsuruga E, Oka K, Hatakeyama Y, Isokawa K, Sawa Y (2013) Latent transforming growth factor-β binding protein 2 negatively regulates coalescence of oxytalan fibers induced by stretching stress. <i>Connect Tissue Res</i> 53, 521-527. 8. Yamazaki Y, Yuguchi M, Kubota S, Isokawa K (2011) Whole-mount bone and cartilage staining of the chick embryo with minimal decalcification. <i>Biotech Histochem</i> 86, 351-358. 9. Namba Y, Yamazaki Y, Yuguchi M, Kameoka S, Usami S, Honda K, Isokawa K (2010) Development of the tarsometatarsal skeleton by the lateral fusion of three cylindrical periosteal bones in the chick embryo (<i>Gallus gallus</i>). <i>Anat Rec</i> 293, 1527-1535.</p>

授業科目：生理学，口腔生理学－神経生理学－

担当教員：篠田雅路，坪井美行，林 良憲

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 痛覚は，人類にとって無視することのできない重要な感覚の一つである。我々は侵害的な刺激が身体のどこかに与えられると，その刺激によって痛みを認知する。この時に生じた痛みは，どこに，どのような侵害刺激が加えられたかを知る重要な警告信号である。これが，痛みが人類にとって大変重要な感覚であるといわれている所以である。しかし，一度末梢組織に炎症や神経損傷が引き起こされると，人類にとって不必要な慢性的な痛みが発症してしまうことがある。この痛みは臨床的にも治療が困難で重篤な痛みとなることが多い。生理学講座では，正常な痛みおよび病的な痛みの発症機構に関する研究を行い，論文を読み，そのメカニズムを理解することを最終到達目標としている。</p>
<p>研究テーマ： 1. 三叉神経系侵害情報伝達経路 2. 顎顔面領域における異常疼痛の発症機構</p>
<p>一般目標（GIO）： 三叉神経系侵害情報の末梢および中枢における処理機構および各種疾患による可塑的变化を理解する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 三叉神経系侵害情報の末梢処理機構を説明できる。 2. 三叉神経系侵害情報の中枢処理機構を説明できる。 3. 各種顎顔面口腔領域の病態による三叉神経系の可塑的变化を説明できる。</p>
<p>授業の方法： 講義およびアクティブラーニング</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： TEXTBOOK OF PAIN Sixth Edition, Churchill Livingstone 出版</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 研究に関する発表および口頭試問で評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Sugawara S, Shinoda M, Hayashi Y, Saito H, Asano S, Kubo A, Shibuta I, Furukawa A, Toyofuku A, Iwata K. (2019) Increase in IGF-1 Expression in the Injured Infraorbital Nerve and Possible Implications for Orofacial Neuropathic Pain. <i>Int J Mol Sci</i>. In press. 2. Shinoda M, Kubo A, Hayashi Y, Iwata K. (2019) Peripheral and Central Mechanisms of Persistent Orofacial Pain. <i>Front Neurosci</i>. 13:1227. 3. Shinoda M, Fukuoka T, Takeda M, Iwata K, Noguchi K. (2019) Spinal glial cell line-derived neurotrophic factor infusion reverses reduction of Kv4.1-mediated A-type potassium currents of injured myelinated primary afferent neurons in a neuropathic pain model. <i>Mol Pain</i>. 15:1744806919841196. 4. Furukawa A, Shinoda M, Kubo A, Honda K, Akasaka R, Yonehara Y, Iwata K. (2018) Endothelin signaling contributes to modulation of nociception at early stage tongue cancer in rats. <i>Anesthesiology</i>. 128(6):1207-1219.</p>

授業科目：歯科薬理学，薬理学

担当教員：小林真之，山本清文，中谷有香

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 薬理学講座における大学院での最終目標は，広い視点で客観的に物事を考える能力を養うことにより，将来研究者として独立できる能力を身につけることである。そのために，基礎的な神経科学の研究手法を学びつつ，先端的な研究課題に取り組む。主要な研究テーマは，下記の通り顎口腔機能の神経メカニズムの解明である。研究に対する自発的な姿勢と忍耐力，共同研究を行う上での責任感と協調性が求められる。研究成果については，国際的な学術雑誌に発表するとともに，国際学会で発表する機会を積極的に提供し，海外の研究者とのコミュニケーションを通じて研究の楽しさに触れる機会を設けている。</p>
<p>研究テーマ： 1. 大脳皮質感覚野における情報伝達のメカニズムの解明 2. 1.で明らかにしたメカニズムに対する各種薬物の修飾作用の解明 3. 味覚，痛覚などの口腔感覚機能の神経生理学的手法による研究</p>
<p>一般目標（GIO）： 薬理学ならびに歯科薬理学に関して特に神経系の最新の知識を学修し，自ら考える姿勢を養う。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 薬理学の基礎的知識について理解する。 2. 歯科医療に応用する薬理学的知識を身につける。 3. 神経科学の基礎的知識を理解する。 4. 最新の知識を文献から学ぶ技術を身につける。 5. 自ら実験を組み立てられる思考力を養う。</p>
<p>授業の方法： 研究手法は，ヒトにおける脳機能イメージングから遺伝子改変動物を用いたパッチ・クランプ法やカルシウムイメージング法まで多岐にわたる。大学院生は，自らの研究テーマについて理解すると共に，講座内で行われている他の実験についても理解を深めることにより，神経科学全般の知識を身につける。研究成果については，国内の学会で発表してそのスキルを身につける。また，知識習得と語学教育を含めたJournal Clubに参加することで，4年次における海外での国際学会での発表や将来の海外留学に備える。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： Principles of Neural Science (5th ver. Mc Graw Hill)</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 教室内セミナーおよび個別チーム内での研究発表状況と，その成果物の完成度によって行う。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Fujita S, Yamamoto K, Kobayashi M (2019) Trigeminal nerve transection-induced neuroplastic changes in the somatosensory and insular cortices in a rat ectopic pain model. <i>eNeuro</i>, 6, e0462-18. 2. Usui M, Kaneko K, Oi Y, Kobayashi M (2019) Orexin facilitates GABAergic IPSCs via postsynaptic OX1 receptors coupling to the intracellular PKC signalling cascade in the rat cerebral cortex. <i>Neuropharmacology</i>, 149, 97-112. 3. Murayama S, Yamamoto K, Fujita S, Takei H, Inui T, Ogiso B, Kobayashi M (2019) Extracellular glucose-dependent IPSC enhancement by leptin in fast-spiking to pyramidal neuron connections via JAK2-PI3K pathway in the rat insular cortex. <i>Neuropharmacology</i>, 149, 133-148. 4. Yamamoto K and Kobayashi M (2018) Opposite roles in short-term plasticity for N-type and P/Q-type voltage-dependent calcium channels in GABAergic neuronal connections in the rat cerebral cortex. <i>J Neurosci</i>, 38, 9814-9828.</p>

授業科目：口腔外科学

担当教員： 外木守雄，米原啓之，金子忠良，清水 治，佐藤貴子，生木俊輔，西久保周一，
篠塚啓二，古川明彦

学年・学期：1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：

1. 顎変形症は顎骨の大きさや形，位置などの異常，上下顎関係の異常などによって顎顔面形態異常と咬合異常をきたすものである。その成因や実際に行われる顎矯正手術について学ぶ。また，顎矯正手術時の顎骨の移動量および移動方向と上気道形態および容積の変化量の関係を検討し，睡眠時無呼吸症の改善も考慮した手術前後の気道形態の変化および病態についても学修する。
2. 外傷，先天異常および腫瘍切除後には舌，口腔粘膜，顎骨などの組織欠損が見られ，咬合などの口腔機能を回復するための顎骨および軟部組織の再建術が必要となる。この欠損に対して骨造成，骨および人工骨移植による硬組織再建やインプラント埋入による咬合再建など様々な方法が採られる。また軟部組織欠損に対しては遊離植皮術，顕微鏡下血管柄付き皮弁移植や有茎皮弁移植などが行われる。本授業では口腔領域における各種再建手術法を学修するとともに，各種再建手術後の骨再生過程の評価を行い，骨移植術・インプラント埋入術などの術後成績および機能回復の要因を学修する。
3. 口腔がんの原発巣と頸部リンパ節転移に対する診断法および治療法を学び，さらに術後化学療法および放射線療法の基礎的知識を学習し，治療成績の向上をいかに図るべきかを検討する。

研究テーマ：

1. 顎矯正手術の実際と手術前後の気道形態の変化
2. 睡眠時無呼吸症患者の効率的な顎骨移動に関する検討と病態解明
3. 顎骨および口腔軟部組織の再建および咬合機能再建
4. 口腔がんにおける新規診断法および治療法の開発

一般目標（GIO）：

口腔外科で取り扱う疾患について各種診断方法とその治療法，その利点欠点を理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 顎変形症手術の診断方法，治療について説明できる。
2. 顎変形と気道の関連性について説明できる。
3. 顎骨欠損の再建方法を列記して各々の利点欠点を説明できる。
4. 組織再生について理解し，その利点欠点を説明できる。
5. 口腔がんの発生機序を理解し，その診断方法治療法を説明できる。

授業の方法：

1. 顎矯正手術方法，周術期管理について学ぶとともに手術前後の気道形態の変化に関する理解を深める。
2. 睡眠時無呼吸症の病態を理解し，睡眠外科療法としての適正な顎骨移動について学ぶ。
3. 顎骨や軟部組織欠損に対する再建手術を検討し，それに基づく創傷治癒過程，骨移植術後の移植骨生着過程，骨延長術後の骨再生様式および術後機能回復に関する理解を深める。
4. 口腔がんの診断，治療法について学ぶとともに新たな診断法，治療法を検討する。

教材（教科書・参考書等）：

口腔外科学第5版，（学研書院）など

成績評価の方法及び基準：

各授業終了時に口頭試問を行い評価する。

講座の主な研究業績：

1. Runx1 and Runx3 are downstream effectors of Nanog in the promoted osteogenic differentiation of the mouse mesenchymal cell line C3H10T1/2. *Cellular Reprogramming* 17, 227-234, 2015.
2. Augmentation of flat bone area using Tetrapod-shaped artificial bone in rats. *J Hard Tissue Biol* 24, 69-76, 2015.
3. Involvement of Microglial P2Y₁₂ Signaling in Tongue Cancer Pain. *J Dent Res* 1176-1182, 2016.
4. Endothelin Signaling Contributes to Modulation of Nociception in Early-stage Tongue Cancer in Rats. *Anesthesiology*, 128, 1207-1209, 2018.
5. Efficacy and optimal timing of tongue reduction surgery in three patients with Beckwith–Wiedemann syndrome. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*, 29 : 358-362, 2017.
6. Cephalometric Analysis of the Pharyngeal Airway Space following Maxillary Advancement Surgery. *J Oral Sci*, 2019 (in press)
7. Rapid detection of *Candida albicans* in oral exfoliative cytology samples by loop-mediated isothermal amplification. *J Oral Sci*, 59, 541-547, 2017.
8. Comparison of gene expression profiles of gingival carcinoma Ca9-22 cells and colorectal adenocarcinoma HT-29 cells to identify candidates playing an important role in SLPI-induced cell migration. *J Oral Sci*, 59, 279-287, 2017.
9. The distribution of aquaporin-5, transforming growth factor- β_1 and laminin in the regeneration of atrophied rat submandibular glands after duct ligation. *J Oral Sci*, 60,595-600, 2018.

授業科目：歯科矯正学

担当教員：本吉 満，中嶋 昭，馬谷原琴枝，納村泰弘，内田靖紀，稲葉瑞樹

学年・学期：1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：

歯科矯正学の基礎的，臨床的知識を理解し，最新の研究について学修する。研究課題については歯科矯正学分野における新規性のあるテーマを指導教員と共に企画立案し，研究計画に従って研究を実施する。最終学年には，その成果を基に学位論文を作成して提出する。

研究テーマ：

1. メカニカルストレスに対する歯周組織の応答性と加齢変化
2. レーザー及びLEDの骨形成促進及び抗炎症メカニズムの解明と臨床応用
3. 口蓋の発生とその異常の解明
4. チタンスクリーを固定源とする矯正治療法の開発
5. 不正咬合の診断と治療法の習得

一般目標（GIO）：

歯科矯正学に関する知識を習得し，歯科矯正学分野における独創的で且つ新規性のある研究を行い，学位論文を作成して学位を取得する。

到達目標（SBOs）：

1. 不正咬合の診断と治療法を習得する。
2. メカニカルストレスに対する歯周組織の応答性を理解する。
3. 歯科矯正学分野における独創的で且つ新規性のある研究を行い，学位論文を作成する。

授業の方法：

歯科矯正学講座の指導教員が研究課題を実施するために必要とする講義，ディスカッションを行い，これらを通して研究指導を行う。

教材（教科書・参考書等）：歯科矯正学第5版 医歯薬出版

臨床家のための矯正 Year book 2001 クインテッセンス

成績評価の方法及び基準：

研究内容の理解及び進行度と研究業績発表による評価判定。

提出した矯正治療終了症例の診断，治療法に対する理解度と，その治療結果の評価判定

講座の主な研究業績

1. Effect of the vertical position of the canine on the frictional/orthodontic force ratio of Ni-Ti archwires during the leveling phase of orthodontic treatment. J Oral Sci, 60(3):336-343. 2018.
2. Easy debonding of ceramic brackets bonded with a light-cured orthodontic adhesive containing microcapsules with a CO2 laser. Photomed Laser Surg, 36(3):162-168.2018
3. The effect of mechanical strain-induced PGE2 production on bone nodule formation by rat calvarial progenitor cells. J Oral Sci, in press.
4. PYK2 mediates BzATP-induced extracellular matrix proteins synthesis. Biochem Biophys Res Commun 494, 663-667, 2017.
5. Physiological profiles of cortical responses to mechanical stimulation of the tooth in the rat: An optical imaging study. Neuroscience 358, 170-180, 2017.

授業科目：歯科麻酔学

担当教員：大井良之，岡 俊一，小柳裕子

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 麻酔薬の発展を歴史から学び，麻酔にとって重要な生理機能を理解する。その上で生体が機能を維持するための基本となる知識を養い，各テーマに関連する基礎医学を重点的に学ぶ。これらを基礎として研究を実行して，定期的に公の場で情報を発信し，最終学年ではそれらの成果を学位論文として提出する。</p>
<p>研究テーマ： 1. 麻酔関連薬物と神経伝達機構 2. 麻酔薬と生体反応 3. 疼痛・鎮痛機構</p>
<p>一般目標（GIO）： 麻酔学に関連する解剖・生理・薬理の概要を学び，各自の課題に関連する分野を文献や研究発表を通して集中的に学ぶ。その成果を学位論文として提出する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 侵襲（外科的手術，痛みなど生体に異常な刺激が加わった状態）下で生体がどのように反応（防御反応）するかを理解する。 2. 侵襲下で薬剤（麻酔薬，循環作動薬など）がどのように作用して効果を発現するかを理解する。 3. 各テーマの結果が臨床においていかなる状況と関連するか考察し，独自性のある論文を仕上げる。</p>
<p>授業の方法： 講座ならびに関連する研究室の指導教員が，研究課題を遂行するために必要な講義，ディスカッションならびに技術的指導を行う。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： Miller's Anesthesia (9th), Basics of ANESTHESIA, 研究課題に関連する教科書，適宜プリント配布。</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 各自の研究課題について定期的に発表する場を設け，研究内容の理解度や達成度，さらには論文作成能力などで総合的に評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Propofol decreases spike firing frequency with an increase in spike synchronization in the cerebral cortex. <i>J of Pharmacological Sciences</i>, 2019 (in press). 2. Orexin facilitates GABAergic IPSCs via postsynaptic OX₁ receptors coupling to the intracellular PKC signaling cascade in the rat cerebral cortex. <i>Neuropharmacology</i> 149, 97-112, 2019 3. Opioid subtype- and cell-type-dependent regulation of inhibitory synaptic transmission in the rat insular cortex. <i>Neuroscience</i> 339, 478-90, 2016 4. Propofol-induced spike firing suppression is more pronounced in pyramidal neurons than in fast-spiking neurons in the rat insular cortex. <i>Neuroscience</i> 339, 548-60, 2016 5. Opposite effects of mu and delta opioid receptor agonists on excitatory propagation induced in rat somatosensory and insular cortices by dental pulp stimulation. <i>Neurosci Lett</i> 628, 52-8, 2016 6. Presynaptic cell type-dependent regulation of GABAergic synaptic transmission by nitric oxide in rat insular cortex. <i>Neuroscience</i> 284, 65-77, 2015. 7. Fast-spiking cell to pyramidal cell connections are the most sensitive to propofol-induced facilitation of GABAergic currents in rat insular cortex. <i>Anesthesiology</i> 121, 68-78, 2014. 8. Involvement of AMPA receptor GluR2 and GluR3 trafficking in trigeminal spinal subnucleus caudalis and C1/C2 neurons in acute-facial inflammatory pain. <i>PLoS One</i> 7, e44055, 2012.</p>

授業科目：口腔生化学，生化学

担当教員：鈴木直人，田邊奈津子，津田啓方

学年・学期：1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：

口腔生化学および生化学に関する基礎的事項ならびに生化学的実験手法について理解する。さらに，口腔生化学および生化学の最近の研究，具体的には結合組織，硬組織や歯周病と全身疾患との関連について学修する。それらの学修を基に，口腔生化学および生化学分野ならびに関連分野について研究課題を指導教員とともに企画・立案し，実際に研究を実施する。最終学年では，それらの成果を学位論文として提出・公表する。口腔生化学・生化学の研究では，「未知の世界に踏み込んで光明を見いだす喜びを」知ってもらえるように心がけています。

研究テーマ：

1. 硬組織形成細胞の分化機構の解明
2. 口腔内細菌の病原性因子の解明
3. 最終糖化産物(AGEs)が硬組織形成細胞に及ぼす影響の解明
4. 酸化還元による細胞機能の調節機構の解明

一般目標 (GIO)：

口腔生化学・生化学に関する知識を習得し，当講座の研究テーマに沿った独創的で新規性のある研究を行い，学位論文を作成して学位を取得する。

到達目標 (SBOs)：

1. 口腔生化学・生化学に関する基礎的ならびに臨床と関連した知識を習得する。
2. 最先端の生化学的実験手法を習得する。
3. 口腔生化学・生化学分野における独創的で新規性のある研究を遂行する。
4. 独創的かつ新規性のある学位論文を作成する。

授業の方法：

一方通行的な講義形式ではなく，担当教員と討議することで理解を深めていきたいと考えている。また，定期的に研究成果を発表してもらい，担当教員との自由討論を通じて研究内容ならびに関連事項に関する理解度を確認しながら進めて行く。

教材（教科書・参考書等）：

特に指定はない。適宜プリントを配布する。

成績評価の方法及び基準：

研究課題の進行状況に応じ，研究内容の理解度，達成度によって総合的に成績を評価する。

講座の主な研究業績：

1. Sekino J, Nagao M, Kato S, Sakai M, Abe K, Nakayama E, Sato M, Nagashima Y, Hino H, Tanabe N, Kawato T, Maeno M, Suzuki N, Ueda K. (2018) Low-intensity pulsed ultrasound induces cartilage matrix synthesis and reduced MMP13 expression in chondrocytes. *Biochem Biophys Res Commun.*506(1) 290-297.
2. Matsui S, Zhou L, Nakayama Y, Mezawa M, Kato A, Suzuki N, Tanabe N, Nakayama T, Suzuki Y, Kamio N, Takai H, Ogata Y. (2018) MiR-200b attenuates IL-6 production through IKK β and ZEB1 in human gingival fibroblasts. *Inflamm Res.* 67(11-12):965-973.
3. Murofushi T, Tsuda H, Mikami Y, Yamaguchi Y, Suzuki N. (2017) CAY10591, a SIRT1 activator, suppresses cell growth, invasion, and migration in gingival epithelial carcinoma cells. *J Oral Sci.*59(3):415-423.
4. Yasukawa T, Hayashi M, Tanabe N, Tsuda H, Suzuki Y, Kawato T, Suzuki N, Maeno M, Ogiso B. (2017) Involvement of the calcium-sensing receptor in mineral trioxide aggregate-induced osteogenic gene expression in murine MC3T3-E1 cells. *Dent Mater J.* 36(4):469-475.

授業科目：病理学，口腔病理学

担当教員：浅野正岳

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 病理学では，日常的な病理診断業務を通じて，細胞の形態や機能の変化を捕らえ，病変の成り立ち，病態，予後など，病気の全体像の理解を図る。実践的な病理組織診断技術の習得を通じて，口腔病理の専門的知識をもって歯科医学の発展に貢献できる指導者の育成を目指す。 研究面では，障害を受けた細胞から放出される alarmin の基礎について学修する。また，これに関連してラット及びマウス脳虚血モデルにおいて，脳をはじめ各臓器における alarmin の発現変化について研究することを目的として，生化学的・分子生物学的研究手技を習得する。これらの学修を通じて，実験計画を立案し，これを遂行し，さらに研究成果を論文として発表できる能力を備えた研究者の育成を図る。</p>
<p>研究テーマ： 1. 口腔病理標本の診断 2. alarmin の基本的概念 3. 脳虚血モデルにおける alarmin の発現変化</p>
<p>一般目標（GIO）： 日常の診断業務を通じて組織診，細胞診，術中迅速生検等の実際について学修する。また，日本大学医学部などにおける研修を通じて口腔病理専門医試験の受験資格の獲得に向けた準備を行う。研究については，上記2,3のテーマに基づいた実験を行い，得られた成果を学術雑誌への投稿や学会発表などにより公表する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 口腔病理専門医資格を取得する。 研究については，GIOを通して種々の実験手法について学習し，その技術を習得することにより，研究計画を自ら立案し実行する能力を養う。</p>
<p>授業の方法： 日々の病理組織診断， ディスカッション</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 特になし</p>
<p>成績評価の方法及び基準： ・診断能力の判定 ・実験手技の理解度 ・実験の立案，遂行，成績の解釈能力・国内外での学会活動（研修参加，学会発表，論文公表など） ・論文作成能力を勘案する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Bone regeneration is enhanced by the combined use of acid-electrolyzed functional water with hydroxyapatite/collagen composite. Ozawa Y, Gojoubori T, Ota H, Sato S, Asano M. J Biomed Mater Res B Appl Biomater, 2019 in press. 2. Comparison of the bone augmentation ability of absorbable collagen sponge with that of hydroxyapatite/collagen composite. Ozawa Y, Kubota T, Yamamoto T, Tsukune N, Koshi R, Nishida T, Asano M, Sato S. J Oral Sci. 2018, 60(4):514-518. 3. Acid-electrolyzed functional water induces the secretion of extracellular matrix metalloproteinase inducer. Kusunoki M, Sata E, Nishio K, Tanaka T, Nishida T, Sugano N, Sato S, Asano M. Int J Med Sci. 2018, 15(12):1365-1372. 4. Functional comparison of high and low molecular weight basic fibroblast growth factors. Motozawa K, Motoyoshi M, Saiki A, Sasaki H, Shimizu N, Asano M. 2018, J Cell Biochem 2018, 119(9):7818-7826.</p>

授業科目：歯科理工学

担当教員：米山隆之，小泉寛恭，深瀬康公

<p>学年・学期： 1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 歯科理工学は，歯科医療の中で使用する様々な材料および器械・器具について，その性質や構造および性能などを物理学，化学，生物学および生体安全性の立場から研究する学問である。したがって，研究開発においては，材料・機器を取り扱うすべての歯科臨床系分野と結びついているばかりでなく，一般工業界とも密接な関係を持っている。このような背景を認識し，新しい歯科材料・生体材料の開発および応用研究，新技術の開発と理論的考察を通じ，歯科医学における研究活動の基盤となる学識を修得するとともに，歯科医学の発展に寄与しうる研究指導者としての能力を養成する。</p>
<p>研究テーマ： 1. 生体用チタン合金・超弾性合金の特性と歯科応用 2. 歯科用金属，セラミックスおよび高分子材料の接合と複合化 3. 歯科材料の力学的性質評価法 4. 骨補填材の開発と応用 5. チタン合金の鋳造とレーザー溶接</p>
<p>一般目標（GIO）： 1. 歯科臨床における材料の重要性を理解し，その選択基準を判断する。 2. 材料の性質についての詳細を知り，その評価方法を理解する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 歯科臨床における材料の重要性を理解し，その選択基準を判断し，応用できるようになる。 2. 材料の性質についての詳細を知り，その評価方法を理解するとともに，実際に応用できるようになる。</p>
<p>授業の方法： 歯科医学研究における材料学的基礎的知識および評価法ならびに各々の研究テーマについての学術的背景，材料学的性質の評価法を指導した上で，研究の実施を援助し，得られた成果を学術雑誌に報告させる。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 1. スタンダード歯科理工学，学建書院 2. 分析機器の手引き 日本分析機器工業会</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 歯科生体材料の材料学的性質に関する理解度，研究の実施内容および研究成果により総合的に評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Okamura K, Koizumi H, Kodaira A, Nogawa H, Yoneyama T (2019) Surface properties and gloss of CAD/CAM composites after toothbrush abrasion. J Oral Sci 61, 358-363. 2. Akazawa N, Koizumi H, Nogawa H, Kodaira A, Burrow MF, Matsumura H (2019) Effect of etching with potassium hydrogen difluoride and ammonium hydrogen difluoride on bonding of a tri-n-butylborane initiated resin to zirconia. Dent Mater J 38, 540-546. 3. Kodaira A, Koizumi H, Nogawa H, Okamura K, Nakamura M, Yoneyama T (2019) Effect of a self-etching primer containing 4-META and sodium sulfite after phosphoric acid etching on bonding strength of MMA-TBB resin to human enamel. J Prosthodont Res 63, 145-149. 4. Hiraba H, Nogawa H, Koizumi H, Kodaira A, Akahane S (2019) Effect of multi-purpose primers on the bond durability between tri-n-butylborane initiated resin and gold alloy. J Prosthodont Res 63, 95-99. 5. Kato M, Namura Y, Yoneyama T, Shimizu N (2018) Effect of the vertical position of the canine on the frictional/orthodontic force ratio of Ni-Ti archwires during the levelling phase of orthodontic treatment. J Oral Sci 60(3), 336-343. 6. Koizumi H, Ishii T, Okazaki T, Kaketani M, Matsumura H, Yoneyama T (2018) Castability and mechanical properties of Ti-15Mo-5Zr-3Al alloy in dental casting. J Oral Sci 60, 285-292.</p>

授業科目：保存修復学

担当教員：宮崎真至，陸田明智，黒川弘康，高見澤俊樹，辻本暁正

<p>学年・学期： 1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 齲蝕およびこれに関連する硬組織疾患の発症からその処置法に関する知識を得るとともに，Minimal Intervention という治療概念のもとに，保存修復学的見地からの基礎ならびに臨床的知識を統合させることを目的としている．すなわち，齲蝕に関連する硬組織疾患の疫学ならびに病理組織学的背景を理解するとともに，臨床的には再石灰化療法を含めて，的確な診断ならびに治療方針の立案にあたって求められる科学的根拠を提示する能力を獲得する．さらに，歯質接着性材料を含めた修復材について，それらの生体材料としての特性および最新の臨床技法について理解を深めるとともに，各種修復材の物理試験，接着試験あるいは生体安全性試験の方法を理解し，研究計画を立案，これを行う．</p>
<p>研究テーマ： 齲蝕および歯質接着性材料に関する基礎および臨床的検討</p>
<p>一般目標（GIO）： Minimal Intervention という治療概念とともに最新の予防および修復材料について学び，その適切な使用法と評価法を知ることによって，科学的根拠に基づいた齲蝕制御法を理解する．</p>
<p>到達目標（SBOs）： 齲蝕の予防法を適切に説明できる． 齲蝕の治療法あるいは管理法を適切に選択できる． 齲蝕の治療・管理に関わる材料を適切に説明できる． 臨床予後に関する評価法を適切に説明できる．</p>
<p>授業の方法： 研究論文の抄読，グループ討論ならびに学会への参加を通して自らの研究テーマについての研究計画を立案し，それにしたがって実施する．</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： テーマに即した英語論文あるいは専門図書を必要に応じて提示する．</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 論文抄読における理解度ならびにグループ討論への積極的参加と発言内容を総合的に評価する．また，実験計画の立案とそれに沿った研究を行う能力に関して，これを論文としてまとめることによって評価する．なお，論文は言語として英語を用いることが望ましい．</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Imai A, Takamizawa T, Sugimura R, Tsujimoto A, Ishii R, Kawazu M, Saito T, Miyazaki M (2019) Interrelation among the handling, mechanical, and wear properties of the newly developed flowable resin composites. J Mech Behav Biomed Mater, 89, 72-80. 2. Moritake N, Takamizawa T, Ishii R, Tsujimoto A, Barkmeier WW, Latta MA, Miyazaki M (2019) Effect of active application on bond durability of universal adhesives. Oper Dent, 44, 188-199. 3. Shimatani Y, Tsujimoto A, Nojiri K, Nagura Y, Takamizawa T, Barkmeier WW, Latta MA, Miyazaki M (2019) Enamel etching reconsideration: Effect of etching method and etching time for universal adhesives. J Adhes Dent, 21, 345-354. 4. Sugimura R, Tsujimoto A, Hosoya Y, Fischer NG, Barkmeier WW, Takamizawa T, Latta MA, Miyazaki M (2019) Surface moisture influence on etch-and-rinse universal adhesive bonding. Am J Dent, 32, 33-38. 5. Nagura Y, Tsujimoto A, Fisher NG, Baruth AG, Barkmeier WW, Takamizawa T, Latta MA, Miyazaki M. Effect of reduced application time of universal adhesives on enamel bond fatigue durability and surface morphology. Oper Dent 2019; 44(1): 42-53.</p>

授業科目：歯内療法学

担当教員：武市 収，林 誠，清水康平，勝呂 尚，羽鳥啓介，鈴木裕介

学年・学期：1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：歯内療法学領域では、「象牙質・歯髄複合体」「歯髄・歯周組織疾患」などの新しい概念の登場により治療あるいは研究の方向性は大きく変化していることを理解すると共に，本教室の研究の経緯ならびに現在進行している各種基礎的および臨床的研究の概要を知ることによって将来に向けての研究展望を思考することを目標としている。とくに「歯髄組織および根尖周囲歯周組織の常態と病態の解明」に関わる研究を基本として，研究成果を臨床的研究に反映させ，将来の臨床に貢献する新しい考え方や治療手技，また器機・素材の開発などについて幅広い見地で考察することを学ぶ。

研究テーマ：

1. 歯髄・根尖歯周組織の常態と病態
2. 新時代の歯髄・根尖歯周疾患の診査・診断法と治療法
3. ウイルスがもたらす歯髄と根尖歯周組織の炎症反応
4. 新規骨補填材の歯髄・細胞に対する影響

一般目標（GIO）：

歯髄・根尖歯周組織の炎症に対する基礎的・臨床的研究の意義と目的について知る。

到達目標（SBOs）：

1. 歯髄・根尖歯周組織の常態と病態を説明できる。
2. 歯髄・根尖歯周疾患の診査・診断法と治療法を説明できる。
3. ウイルスの構造と特徴および生体に及ぼす影響を説明できる。
4. 骨補填材の種類と特徴および細胞や生体に及ぼす効果を説明できる。

授業の方法：

講義および見学

教材（教科書・参考書等）：

Pathway of the Pulp 11th, Kenneth Hargreaves, Stephen Cohen (eds)

Endodontology, Domenico Ricucci (ed)

成績評価の方法及び基準：

授業に対する意欲，研究提出物，レポート，口頭試問などによる総合的評価

講座の主な研究業績：

1. Himi K, Takeichi O, Imai K, Hatori K, Tamura T, Ogiso B (2019) Epstein-Barr virus reactivation by persistent apical periodontal pathogens. *Int Endod J*, in press.
2. Kudo H, Takeichi O, Hatori K, Makino K, Himi K, Ogiso B (2018) A potential role for the silent information regulator 2 homologue 1 (SIRT1) in periapical periodontitis. *Int Endod J* 51, 747-757.
3. Makino K, Takeichi O, Imai K, Inoue H, Hatori K, Himi K, Saito I, Ochiai K, Ogiso B (2018) *Porphyromonas endodontalis* reactivates latent Epstein-Barr virus. *Int Endod J* 51, 1410-1419.
4. Watanabe K, Hayashi M, Young A, Yan Z, Imamura Y, Noma N (2018) Midface migraine with concomitant dental disease: A report of two cases, *Quintessence Int*, 49, 849-854.
5. Watase T, Shimizu K, Ohara K, Komiyama H, Kanno K, Hatori K, Noma N, Honda K, Tsuboi Y, Katagiri A, Shinoda M, Ogiso B, Iwata K (2018) Role of medullary astroglial glutamine synthesis in tooth pulp hypersensitivity associated with frequent masseter muscle contraction. *Mol Pain*. Jan-ec;14:1744806918763270.

授業科目：歯周病学

担当教員：佐藤秀一，菅野直之，吉沼直人，高山忠裕，西田哲也，蓮池 聡，間中総一郎

学年・学期：1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：

歯周病学のおよび歯周治療に関する基礎的ならびに臨床的知識を理解する。さらに，歯周病学および歯周治療学についての最新の研究について学修する。それらの学修を基に，歯周病学分野ならびに関連分野についての研究課題を指導教員とともに企画立案し，研究を実施する。最終学年では，その成果を学位論文として提新規出する。

研究テーマ：

1. 歯周病の原因，病態の解明に関する研究
2. 歯周病の診断法の研究
3. 歯周組織再生・骨再生に関する研究
4. 歯周病が全身に与える影響に関する研究
5. インプラント治療に関する研究

一般目標（GIO）：

歯周病学ならびに歯周治療学に関する知識を習得し，歯周病学分野における独創的で新規性のある研究を行い，学位論文を作成し学位を取得する。

到達目標（SBOs）：

1. 歯周病学に関する基礎的ならびに臨床的な知識を理解する。
2. 高度で先端的な歯周治療を理解する。
3. 歯周病学分野における独創的で新規性のある研究を遂行し，学位論文を作成する。

授業の方法：

主科目講座ならびに関連分野の指導教員が各自の研究課題を遂行するために必要な講義，ディスカッションならびに具体的な研究指導を行う。

教材（教科書・参考書等）：

歯周病学ならびに関連分野の学術誌や教科書，参考書など。

成績評価の方法及び基準：

各自の研究課題の進行状況に応じ，研究内容の理解度，達成度によって総合的に成績評価・判定する。

講座の主な研究業績：

1. Watanabe N, Nodomi K, Koike R, Kato A, Takeichi O, Kotani AI, Kaneko T, Sakagami H, Takei M, Ogata Y, Sato S, Imai K (2019) EBV LMP1 in gingival epithelium potentially contributes to human chronic periodontitis via inducible IL8 production. *In Vivo* (in press)
2. Hasuike A, Ujiie H, Senoo M, Furuhashi M, Kishida M, Akutagawa H, Sato S (2019) Pedicle periosteum as a barrier for guided bone regeneration in the rabbit frontal bone. *In Vivo* 33, 717-722.
3. Ozawa Y, Kubota T, Yamamoto T, Tsukune N, Koshi R, Nishida T, Asano M, Sato S (2018) Comparison of the bone augmentation ability of absorbable collagen sponge with that of hydroxyapatite/collagen composite. *J Oral Sci* 60, 514-518.
4. Ozaki M, Takayama T, Yamamoto T, Ozawa Y, Nagao M, Tanabe N, Nakajima A, Suzuki N, Maeno M, Yamano S, Sato S (2017) A collagen membrane containing osteogenic protein-1 facilitates bone regeneration in a rat mandibular bone defect. *Arch Oral Biol* 84, 19-28.

授業科目：総義歯補綴学

担当教員：飯沼利光，高津匡樹，池田貴之，李 淳，浦田健太郎，西尾健介

学年・学期：1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：

下顎運動制限や開閉口時における関節雑音などの臨床症状を呈し，診査の結果で顎機能障害と診断できる患者は年々増加している。しかも，その予備軍と推察される潜在患者が多数存在することは，周知の事実である。この様に歯科第三の疾患として注目されている顎機能障害は，その発症過程に不明な点が未だ多く，診査・診断および治療に際しては，顎機能が骨，筋，神経等の複数の組織による複雑な協調機能として成り立っているため，そのメカニズムを十分に理解することが重要となる。そこで本授業では，顎機能の運動学的及び力学的解析結果から，顎機能障害発症過程について考察する。さらに開口障害，疼痛，関節雑音など顎機能障害の臨床的症狀について，顎機能の運動学的および力学的解析結果から検討を行い，これらの関係性について基礎的，臨床的見地から解明を行う。

研究テーマ：

1. 顎機能の運動学的および力学的特徴を理解する。
2. 顎機能分析法について理解する。
3. 顎機能障害の臨床的症狀と運動学的および力学的な分析結果との関係を理解する。
4. 症例に対し分析結果を応用して治療計画の立案を行う。

一般目標（GIO）：

歯科補綴学で重要となる咬合学ならびに顎機能診断ならびに治療学に関する知識を取得し，歯科補綴学における独創的な研究を行い，その結果を学位論文とし発信することにより学位を取得する。

到達目標（SBOs）：

1. 顎機能を営む各組織の形態的・機能的役割を理解する。
2. 顎機能遂行の協調作用について運動学的および力学的な分析が行える。
3. 顎機能障害が発症した場合の発症過程を理解する。
4. 顎機能のメカニズムの解明さらには新しい治療方法について独創的な研究を遂行し，学位論文を作成する。

授業の方法：

主科目講座ならびに関連分野の指導教員が，各自の研究課題遂行のために必要な講義，実験，その結果についての検討会を通じて研究指導を行う。

教材（教科書・参考書等）：

歯科補綴学，顎機能学さらに関連分野の学術誌や教科書ならびに参考書などを用いる。

成績評価の方法及び基準：

各自の研究課題の進捗状況に応じてディスカッションを行い，研究内容および達成度等について総合的に評価を行う。さらに，学会発表等での第三者による評価を参考とし成績評価，判定を行う。

講座の主な研究業績：

1. Involvement of transient receptor potential vanilloid 2 in intra-oral incisional pain. *Oral Dis*, 24, 1093-1100, 2018.
2. Perceived swallowing problems and mortality risk in very elderly people ≥ 85 years old: Results of the Tokyo Oldest Old Survey on Total Health study. *Gerodontology*, 34(3), 313-319, 2017.
3. Association between maximum occlusal force and 3-year all-cause mortality in community-dwelling elderly people, *BMC Oral Health*, 16, 82, 2016.
4. Denture wearing during sleep doubles the risk of pneumonia in the very elderly, *J Dent Res*, 94(3 Suppl), 28S-36S, 2015.
5. Prevalence and distribution of anomalies of permanent dentition in 9584 Japanese high school students, *Odontology*, 26, 2015.
6. Involvement of peripheral artemin signaling in tongue pain: possible mechanism in burning mouth syndrome, *Pain*, 156(12), 2528-37, 2015.
7. Involvement of TRPV1 and TRPA1 in incisional intra-oral and extra-oral pain, *J Dent Res*, 94(3), 446-54, 2014.

授業科目：局部床義歯学

担当教員：月村直樹，大山哲生，秋田大輔

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 歯科補綴学は臨床に立脚した分野であるが，臨床に追われ根拠が未だ不明瞭な事項が多い．このような事項を分析し，解明していく要素を学び，その研究方法と臨床現場への応用手段を考えたい。 現在，当教室は部分床義歯学，顎顔面補綴学，磁気歯科学，再生歯科学，スポーツ歯科医学などを念頭に置き，材料実験，模型実験，有限要素法による分析，口腔内常在菌の検索，骨再生に対する生体反射，臨床術式の検討，臨床実績の集積など多方面の視野から補綴学にアプローチしている．それぞれアプローチを理解し，その一助となる研究手段を習得する。</p>
<p>研究テーマ： 1)顎顔面補綴学 2) 磁気歯科学 3) スポーツ歯科医学 4) 補綴材料学 5) 再生歯学のテーマに則り，材料実験，模型実験，有限要素法による分析，口腔内常在菌の検索，骨再生に対する生体反射，臨床術式の検討，臨床実績の集積など多方面の視野にいれ学位取得に向け研鑽を積む。</p>
<p>一般目標（GIO）： 部分床義歯学，磁気歯科学，顎顔面補綴学およびスポーツ歯科医学に関する知識と技能を習得する。当該分野における独創的かつ新規性のある研究を行い，博士（歯学）の学位を取得する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 部分床義歯学，磁気歯科学，顎顔面補綴学およびスポーツ歯科医学の基礎知識を臨床に応用できる。 2. 研究内容を補綴歯科臨床に反映できる。 3. 独創的かつ新規性のある研究を行うことができる。</p>
<p>授業の方法： スライドを使用した講義と少人数でのディスカッションを通して理解を深める。深めた知識を，学会発表や学位論文に反映できるようにトレーニングを重ねる。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 部分床義歯補綴学，磁気歯科学，顎顔面補綴学およびスポーツ歯科医学野の学術雑誌等</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 口頭試問や学会発表などでその知識の習熟度を確認して，研究成果を報告した雑誌および論文の内容等により評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Obayashi-Ishii M, Saito S, Omagari D, Asano M, Ishigami T (2018) A static magnetic field inhibits the expression of platelet-derived growth factor-AA in human oral squamous cell carcinoma. J Oral Sci 60 (3) 374-380. 2. Lloyd JD, Nakamura WS, Maeda Y, Takeda T, Leesungbok R, Lazarchik D, Dorney B, Gonda T, Nakajima K, Yasui T, Iwata Y, Suzuki H, Tsukimura N, Churei H, Kwon KR, Choy MMH, Rock JB.(2017) Mouthguards and their use in sports: Report of the 1st International Sports Dentistry Workshop, 2016. Dent Traumatol, 33(6), 421-426. 3. Akita D, Kano K, Saito-Tamura Y, Mashimo T, Sato-Shionome M, Tsurumachi N, Yamanaka K, Kaneko T, Toriumi T, Arai Y, Tsukimura N, Matsumoto T, Ishigami T, Isokawa K, <u>Honda M</u> (2016) Use of Rat Mature Adipocyte-Derived Dedifferentiated Fat Cells as a Cell Source for Periodontal Tissue Regeneration. Front Physiol, doi: 10.3389/fphys 4. Tsukimura N, Koshi R, Ohno S, Akita D, Ito K, Kanazawa T, Sanada J, Kamimoto A, Uehara T, Tateno A, Saito S (2016) Changes in the pull-out stress of the Mouthguard materials under the low temperature. Int J Sports Dentistry, 9(1), 19-26</p>

授業科目：クラウン・ブリッジ学

担当教員：松村英雄，萩原芳幸，小峰 太，野川博史，本田順一，平場晴斗，小平晃久

学年・学期：1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：

本科目は歯科補綴学の中における歯冠補綴学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学の分野を対象とする。研究科修了時までには，当該分野における教育者，研究者，臨床医として独立して業務を遂行するに足る能力を修得することを目標として学修する。

1. 教育学関連：大学歯学部，歯学系研究科における歯冠修復および固定性義歯補綴の分野について，歯学部学生に対する教育の方法論等を考究する。
2. 研究関連：学位請求論文に関係する項目についての専門的知識を深める。
3. 臨床関連：基本的，先進的技法に対する理解を深める。
専門医，認定医関連：教員が所属する学会の専門医，認定医に関連する講義を行い，大学院在学中に資格取得のための準備を行う。

研究テーマ：

支台歯形成法，歯科補綴学教育法，固定性補綴装置の臨床技法，歯冠色補綴，インプラント，接着歯学，新素材の歯冠補綴への応用，補綴用材料と器械の評価，補綴装置の臨床成績評価，総合歯科と専門歯科の中における補綴歯科，認定医，専門医とは，など。

一般目標（GIO）：

歯冠補綴学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学に関する知識と技能を習得する。
当該分野における独創的かつ新規性のある研究を行い，博士（歯学）の学位を取得する。

到達目標（SBOs）：

1. 歯冠修復学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学の基礎知識を臨床に応用できる。
2. 研究内容を補綴歯科臨床に反映できる。
3. 独創的かつ新規性のある研究を行うことができる。

授業の方法：

講義，演習，討論および報告書作成とする。

教材（教科書・参考書等）：

歯冠補綴学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学分野の学術雑誌等

成績評価の方法及び基準：

研究課題の進行状況に応じ，研究内容の理解度，到達度を総合的に評価する。
研究成果を報告した雑誌および論文の内容等により評価する。

講座の主な研究業績：

1. Akazawa N, Koizumi H, Nogawa H, Kodaira A, Burrow MF, Matsumura H (2019) Effect of etching with potassium hydrogen difluoride and ammonium hydrogen difluoride on bonding of a tri-n-butylborane initiated resin to zirconia. Dent Mater J 38, 540-546.
2. Imai H, Koizumi H, Kodaira A, Okamura K, Akahane S, Matsumura H (2019) Properties of indirect composites polymerized with laboratory light-emitting diode units. J Oral Sci, 61, 178-183.
3. Kusaba K, Komine F, Honda J, Kubochi K, Matsumura H (2018) Effect of preparation design on marginal and internal adaptation of translucent zirconia laminate veneers. Eur J Oral Sci 126, 507-511.
4. Okazaki T, Koizumi H, Nogawa H, Kodaira A, Nihei T, Matsumura H (2018) Effect of silane compounds on bonding to fused quartz of tri-n-butylborane initiated resin. Dent Mater J 37, 429-436.
5. Takeuchi Y, Koizumi H, Furuchi M, Sato Y, Ohkubo C, Matsumura H (2018) Use of digital impression systems with intraoral scanners for fabricating restorations and fixed dental prostheses. J Oral Sci 60, 1-7.

授業科目：口腔細菌学，細菌学

担当教員：今井健一，田村宗明，神尾宜昌，田中 一

学年・学期： 1～4年次・通年

単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）

授業の概要：

歯の喪失の主な原因がう蝕から歯周病へと大きく変化しつつある。また，歯周病がさまざまな難治性全身疾患の誘因となることも明らかとなってきた。高齢化社会を背景に歯科医療は大きく変わり，口腔から全身を診ること，および全身の情報を基に歯科医療と患者支援を行うことが求められる時代となった。

Evidence-based Medicine の実践および医科歯科連携の推進には，全身疾患に最も深く関わっている微生物学・免疫学の知識と研究の推進が不可欠である。本講座では，感染を「生命間の相互作用」と考え，「宿主-寄生体相互作用」研究に加え，「細菌-ウイルス相互作用」という新たな視点から研究を進めている。将来自ら研究活動を行えるよう，下記研究テーマの実施を通して，実験方法は勿論のこと研究者としての考え方を学んでもらう。「広い視野を持つとともに，深く考え探求する姿勢」が必須で，疑問を自力で解決する過程の経験と努力が大きな意味を持つと考える。

研究テーマ：

1. 細菌-ウイルスの微生物間相互作用による歯周疾患発症機序の解明
2. 口腔疾患および加齢を誘因とする全身疾患（肺炎，COPD およびがん等）発症機序の解明
3. 疾患発症における潜伏感染ウイルス再活性化機序の解明
4. 高齢者および周術期における全身疾患予防法としての新規口腔ケア法の開発と臨床応用

一般目標（GIO）：

微生物学ならびに感染症学に関する知識を習得し，感染・免疫学分野における独創的で新規性のある研究を行い，学位論文を作成し学位を取得する。

到達目標（SBOs）：

1. 微生物学・免疫学に関する基礎的ならびに臨床的な知識を理解する。
2. 分子生物学および免疫学的実験手法を理解する。
3. 感染・免疫学分野における独創的で新規性のある研究を遂行し学位論文を作成する。

授業の方法：

以下の基礎知識と技術を修得する。

基礎知識：科学論文検索と論文の読み方，論文の構成と要点の捉え方

学会発表の基礎，論文投稿の実際，感染・免疫研究の最新情報

基礎実験法：細胞培養法と *in vivo* 実験の基礎

分子生物学および免疫学的実験法の基礎と応用

無菌操作および微生物学実験の基礎

教材（教科書・参考書等）：

テーマに関連した英語文献を随時参照する。

成績評価の方法及び基準：

研究への取り組み，実験の立案と遂行，学会発表および論文作成能力等から総合的に行う。

講座の主な研究業績：

1. EBV LMP1 in gingival epithelium potentially contributes to human chronic periodontitis via inducible IL-8 production. *In Vivo* (6):1793-1800. 2020
2. The Periodontopathic Bacterium *Fusobacterium nucleatum* Induced Proinflammatory Cytokine Production by Human Respiratory Epithelial Cell Lines and in the Lower Respiratory Organs in Mice. *Cell Physiol Biochem.*, 53(1):49-61. 2019
3. Cynaropicrin from *Cynara scolymus* L. suppresses *Porphyromonas gingivalis* LPS-induced production of inflammatory cytokines in human gingival fibroblasts and RANKL-induced osteoclast differentiation in RAW264.7 cells. *J Nat Med.*73(1), 114-123. 2019
4. Various cellular components change as the rat ages: An insight into the putative overall age-related cellular stress network. *Experimental Gerontology* 102, 36-42. 2018
5. Prevalence of Epstein-Barr virus DNA and *Porphyromonas gingivalis* in Japanese peri-implantitis patients. *BMC Oral Health* 17(1), 148. 2017

授業科目：口腔衛生学，衛生学

担当教員：川戸貴行，田中秀樹，中井久美子，尾崎愛美

<p>学年・学期： 1～4年次・通年 単位： 20単位（各年次講義 45 時間，実習 90 時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 高齢化が進むわが国では，日常生活が制限される原因となり得る生活習慣病の対策が急務とされている。また，口腔の疾病・異常が全身の健康状態に影響することが明らかになりつつある。これらを背景とした研究テーマのもと，口腔疾患が糖尿病をはじめとする生活習慣病に影響するメカニズムとその予防法に関する疫学や細胞・細胞生物学研究を立案し，研究を実施する。最終学年では，その成果を学位論文として提出する。</p>
<p>研究テーマ： 1. 歯周病と脂肪肝発症との関連性に関する疫学・細胞生物学研究 2. 歯周病に関連する炎症性物質が脂肪細胞からの心血管疾患リスク因子の発現に及ぼす影響の解明 3. 糖尿病と薬剤関連顎骨壊死の発症に関する細胞生物学研究 4. 電動歯ブラシ由来の振動が歯肉線維芽細胞による細胞外基質タンパク代謝に及ぼす影響 5. 骨芽細胞と破骨細胞の機能に及ぼす各種炎症性刺激の影響の解明</p>
<p>一般目標（GIO）： 口腔衛生学ならびに衛生学に関する知識を習得し，疫学・細胞生物学研究を行い，学論文を作成し学位を取得する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 口腔衛生学ならびに衛生学に関連する国内外の研究の動向を調べ，その知見を理解する。 2. 疫学・細胞生物学研究の方法論を理解するとともに，それらの手技を習得する。 3. 研究を立案，実施し，得られた結果を考察して，学位論文を作成する。</p>
<p>授業の方法： 主科目講座ならびに関連分野の指導教員が，大学院生による研究課題の遂行に必要となる講義，ディスカッション，および具体的な研究指導を行う。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 口腔衛生学と予防歯科学分野における疫学・細胞生物学研究に関する学術誌や教科書，参考書など</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 各自の研究課題の進行状況に応じ，研究内容の理解度，達成度によって総合的に成績評価・判定する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Morita T, Yamazaki Y, Seto M, Yamamoto T, Nakai K, Tanaka H, Ozaki M, Koshi R, Maeno M, Kawato T (2019) Effect of periodontitis and toothbrushing frequency on obesity onset: a cohort study. <i>Med Sci Monit</i>, in press. 2. Koshi R, Nakai K, Tanaka H, Kato K, Charleston-Coad T, Matsuike R, Nakasugi T, Shibuya K, Maeno M, Kawato T (2019) An extract of <i>Eisenia Bicyclis</i> stimulates mineralized nodule formation by osteoblasts. <i>J Hard Tissue Biol</i>, 28, 359-364. 3. Matsuike R, Nakai K, Tanaka H, Ozaki M, Kanda M, Nagasaki M, Shibata C, Mayahara Kotoe, Tanabe N, Koshi R, Nakajima A, Kawato T, Maeno M, Shimizu N, Motoyoshi M (2019) Continuous compressive force induces the differentiation of osteoclasts with high levels of inorganic dissolution. <i>J Hard Tissue Biol</i>, 25, 3902-3909. 4. Matsuike R, Tanaka H, Nakai K, Kanda M, Nagasaki M, Murakami F, Shibata C, Mayahara K, Nakajima A, Tanabe N, Kawato T, Maeno M, Shimizu N (2018) Continuous application of compressive force induces fusion of osteoclast-like RAW264.7 cells via upregulation of RANK and downregulation of LGR4. <i>Life Sci</i> 201, 30-36</p>

授業科目：歯科法医学，法医学

担当教員：網干博文，近藤真啓，堤 博文

<p>学年・学期： 1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 法医学は，人権が擁護される法治国家では不可欠の学問である。さまざまな事件や事故に遭遇した死体はもちろん，生体についても個人識別を行うことは，社会生活の秩序を守るために極めて重要である。識別のための検査試料を口腔領域に求め，これまでに確立された個体識別検査法を習得するとともに，新たな検査法の開発研究に参加することで，歯科法医学の重要性について知る。また，さまざまな状況に置かれた死体を観察することで生の尊厳を見極め，医療従事者としての倫理観を醸成させる。</p>
<p>研究テーマ： 1. 歯科所見からの個人識別 2. デジタルX線写真およびX線CT画像を利用した年齢推定法の研究 3. DNA型検査による歯からの個人識別 4. 歯より抽出したDNAのメチル化量に基づいた年齢推定法の開発</p>
<p>一般目標（GIO）： 歯科法医学の対象は，死体だけでなく，生体，さらには医療文書にもおよぶことを知り，社会生活における歯科法医学の貢献について理解する。歯からの性別判定，年齢推定および身元確認を行う手技および解析法を身に着け，導き出された結果が犯罪捜査や裁判等において証拠として重要な位置を占めることを理解する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 歯科医学的知識を個人識別に役立て社会に寄与できる。 2. 歯を含む骨・硬組織からの性別判定および年齢推定ができる。 3. DNAを用いた個人識別法について，その原理が説明できる。 4. 生前および死後の歯科記録が作成できる。 5. 生前および死後の歯科所見の比較・照合検査ができる。</p>
<p>授業の方法： 教科書および原著論文の抄読を中心に進めていく。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 教科書：1. 法医学 改訂3版 福島弘文著 南山堂 2. Tom Strachan (2014) Genetics and Genomics in Medicine, Garland Science 参考書：1. 法歯科医学 基礎知識から臨床・災害時の対応まで 都築民幸他編 永末書店</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 日々の研究態度および成果物の完成度により評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Asami R, Aboshi H, Iwawaki A, Ohtaka Y, Odaka K, Abe S, Saka H. (2019) Age estimation based on the volume change in the maxillary premolar crown using micro CT. Leg Med, 37: 18-24. 2. Vongsa S, Aboshi H, Ejirna K, Sidaphone B, Lyvongsa A, Ngoncpahady S, Sitthiphanh A, Nakajim I, Honda K, Hosono S, Otsuka K. (2018) Mandibular cortical width on panoramic images of children in the Lao people's democratic republic. J Hard Tissue Biol, 27(1): 23-28. 3. Suzuki T, Kondo M, Shibuta I, Nagashima H, Sugano N, Sato S, Iwata K. (2018) Medullary neural circuit regeneration after trigeminal nerve transection. J Oral Sci, 60(4): 500-506. 4. Hasegawa M, Kondo M, Suzuki I, Shimizu N, Sessle BJ, Iwata K. (2012) ERK is involved in tooth-pressure-induced Fos expression in Vc neurons. J Dent Res, 91(12): 1141-1146. 5. Kondo M, Iwata K. (2010) Regulation of complex brain wiring via diverse Ig receptor arising from a single gene. J Oral Biosci, 52(4): 378-387.</p>

授業科目：歯科放射線学

担当教員：本田和也，新井嘉則，松本邦史，江島堅一郎，澤田久仁彦

<p>学年・学期： 1～4年次・通年 単位： 20単位（各年次講義 45 時間，実習 90 時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 当研究室の先達が開拓した数々の足跡を基盤として，また教室のテーマとしている歯科用コーンビーム CT による研究，実験動物用 μ CT による研究，顎関節部の研究を通して歯科放射線学に関する新しい技術や新知見を得る事を目標とする。さらに本学部附属歯科病院における診療を通じて患者との接触を経験する事により問題点を認識し，関連する基礎的事項を学び，その成果を臨床へフィードバックする事がねらいである。歯科臨床全域にわたる最新の医療も可能な限り習得する。歯科領域以外の画像診断，悪性腫瘍の放射線治療に関しては日本大学病院放射線科との連携によって学ぶ。また，実験動物用 μ CT を使用した実験方法についても学ぶ。</p>
<p>研究テーマ： 歯科用コーンビーム CT の活用，顎関節の画像診断，摂食嚥下障害の画像診断，遠隔画像診断システムの活用，実験動物用 μ CT の実際と画像解析</p>
<p>一般目標（GIO）： 歯科放射線学・画像診断学のコンセプトとエビデンスに基づいた理論と実際について説明し実践できる。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 頭頸部・顎顔面歯科領域における歯科用コーンビーム CT の臨床応用を実践できる。 2. 顎関節疾患の画像診断と IVR について説明できる。 3. 摂食嚥下障害の画像診断について説明できる。 4. 歯科領域での遠隔画像診断について説明できる。 5. 実験動物用 μ CT による研究について説明できる。</p>
<p>授業の方法： スライドを使用した座学と実際の装置を使用してハンズオンセミナー形式で実施する。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： プリントを配布する。</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 授業への出席状況と態度，各テーマに関する質疑応答などを総合して，担当教員の合議にて行う。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Hayashi T, Arai Y, Chikui T, Hayashi-Sakai S, Honda K, Indo H, Kawai T, Kobayashi K, Murakami S, Nagasawa M, Naitoh M, Nakayama E, Nikkuni Y, Nishiyama H, Shoji N, Suenaga S, Tanaka R. (2018) Clinical guidelines for dental cone-beam computed tomography. <i>Oral Radiology</i>. 34(2):89-104. 2. Shimada A, Ideno H, Arai Y, Komatsu K, Wada S, Yamashita T, Amizuka N, Pöschl E, Brachvogel B, Nakamura Y, Nakashima K, Mizukami H, Ezura Y, Nifuji A. (2018) Annexin A5 involvement in bone overgrowth at the enthesis. <i>J Bone Miner Res</i>. 33(8):1532-1543. 3. Hirai S, Hayashi Y, Ito M, Amemiya T, Dezawa K, Arai Y, Ejima KI, Shimba S, Honda K. (2018) Micro-CT observation of in vivo temporal change in mandibular condyle morphology in BMAL1 knockout mice. <i>J Oral Sci</i>. doi: 10.2334/josnusd.17-0390. 4. Vongsa S, Aboshi H, Ejima K, Sidaphone B, Lyvongsa A, Ngonephady S, Sitthipanh A, Nakajima I, Honda K, Hosono S, Otsuka K (2018) Mandibular Cortical Width on Panoramic Images of Children in the Lao Peoples democratic Republic. <i>J. Hard Tissue Biology</i>, 27(1), 23-28.</p>

授業科目：小児歯科学

担当教員：白川哲夫，高森一乗，武井浩樹，石山未紗

<p>学年・学期：1～4年次・通年 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 摂食機能に関連する中枢の発達の基本的なプロセスを理解する。また実験動物を用いた電気生理学的ならびに分子生物学的研究法を学修するとともに，遺伝子変異あるいはDNAメチレーションの変化が中枢機能に及ぼす影響についての研究計画を指導教員と共に企画立案し実施する。また，頭蓋・顎顔面ならびに歯の形成とそれらの異常について基本的なメカニズムを理解する。</p>
<p>研究テーマ： 1. 障害児（者）にみられる呼吸・咀嚼・嚥下機能障害 2. 遺伝子変異による摂食機能発達の異常 3. 小児期の咬合異常と顎顔面領域の筋活動の関係 4. 頭蓋・顎顔面ならびに歯の形成と遺伝子</p>
<p>一般目標（GIO）： 小児歯科学ならびに小児の歯科医療に関する知識を習得し，小児歯科学分野における独創的で新規性のある研究を行い，学位論文を作成し学位を取得する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 小児歯科学に関する基礎的ならびに臨床的な知識を得る。 2. 科学的根拠に基づく歯科医療の重要性を理解する。 3. 小児歯科学分野における独創的で新規性のある研究を遂行し，学位論文を作成する。</p>
<p>授業の方法： 主科目講座ならびに関連分野の指導教員が，各自の研究課題を遂行するために必要な講義，ディスカッションならびに具体的な研究指導を行う。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 小児歯科学ならびに関連分野の学術誌や専門書，実験マニュアルなど。</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 各自の研究内容の理解度，達成度によって総合的に評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績： 1. Ishiyama M, Tamura S, Ito H, Takei H, Hoshi M, Asano M et al. (2019) Early postnatal treatment with valproate induces <i>Gad1</i> promoter remodeling in the brain and reduces apnea episodes in <i>Mecp2</i>-null mice. <i>Int J Mol Sci</i> 20, 5177. 2. Kifune T, Ito H, Ishiyama M, Iwasa S, Takei H, Hasegawa T et al. (2018) Hypoxia-induced up-regulation of angiogenic factors in immortalized human periodontal ligament fibroblasts. <i>J Oral Sci</i> 60, 519-525. 3. Ito H, Kifune T, Ishiyama M, Iwasa S, Takei H, Hasegawa T et al. (2018) Effect of hypoxia on the expression of CCAAT/enhancer-binding protein β and receptor activator of NF-κB ligand in periodontal ligament cells. <i>J Oral Sci</i> 60, 544-551. 4. Takei H, Yamamoto K, Bae YC, Shirakawa T, Kobayashi M (2017) Histamine H₃ heteroreceptors suppress glutamatergic and GABAergic synaptic transmission in the rat insular cortex, <i>Front Neural Circuits</i> 11, 85.</p>

授業科目：口腔診断学，口腔ペインクリニック学

担当教員：今村佳樹，岡田明子，野間 昇，篠崎貴弘

<p>学年・学期： 1～4年次・通年 単位： 20単位（各年次講義 45 時間，実習 90 時間以上の授業を実施する）</p>
<p>1. 研究法の学修 大学院では，既知の知識に基づいて新しい知見を得るための研究計画・研究遂行・論文作成の方法について学修する。臨床研究，基礎研究を計画，立案し，実行できるように知識を整理する。</p> <p>2. 指導者としての学修 次世代の講座，大学を担っていく研究者および指導者としての自覚を養い，指導法を身につける。</p> <p>3. 専門医療を行う上での基礎知識の習得 口腔診断学では，医科疾患（全身疾患）を有する患者の歯科治療を行うために全身疾患と歯科治療の関係について学修する。口腔ペインクリニック学では，口腔領域に見られる慢性疼痛について病因，症状と新しい治療法を学修する。</p>
<p>研究テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種病変のスクリーニングと鑑別診断の確立 2. 不安や疼痛を有した患者の身体・精神的状態の診断と管理（鎮静法等の全身管理を含む） 3. 口腔顔面領域の神経疾患（感覚障害，運動障害）の診断と治療法の理解 4. 関連痛と神経因性疼痛，特発性口腔痛（特に口腔灼熱症候群）の病態の解明と治療法の検討 5. 慢性痛における精神的要素の評価に関する研究
<p>一般目標（GIO）：</p> <p>独立した研究者となるために，研究計画の基礎を学び，独力で研究を遂行する知識と技術を身に付ける。次世代の研究者，教育者を育成するために，教授方法を学び，後進の指導を行うための指導法を身に付ける。</p>
<p>到達目標（SBOs）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯原性疼痛・非歯原性疼痛の鑑別方法を理解し，診断基準，診断方法を説明することができる。 2. 非歯原性疼痛としての筋筋膜痛の治療法を理解し，患者に説明することができる。 3. 研究方法を理解して，研究計画を立案することができる。 4. 立案した研究計画に沿って研究を遂行することができる。
<p>授業の方法：</p> <p>口腔診断学ならびに口腔ペインクリニック学に関する系統的な講義を行う。講義内容に関しては，事前学修を行うことを前提とし，講義の際の対話をもって理解を進める。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）：</p> <p>Orofacial Pains (ed. Barry J Sessle) IASP Press, Washington</p>
<p>成績評価の方法及び基準：</p> <p>実際の研究の遂行状況について，研究計画を基に評価する。 学会発表における準備状況，発表内容を評価する。</p>
<p>講座の主な研究業績：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. An updated review on pathophysiology and management of burning mouth syndrome with endocrinological, psychological and neuropathic perspectives. J Oral Rehabil.46:574–587, 2019. 2. A Perspective from Experimental Studies of Burning Mouth Syndrome. J Oral Sci in press 3. Predicting the therapeutic effect of carbamazepine in trigeminal neuralgia by analysis of neurovascular compression utilizing magnetic resonance cisternography. Int J Oral Maxillofac Surg 48, 480-487, 2019. 4. Time-dependent responses in brain activity to ongoing hot stimulation in burning mouth syndrome. J Oral Sci, in press 5. Association of somatosensory dysfunction with symptom duration in burning mouth syndrome. Clin Oral Investig. 23(9):3471-3477, 2019 6. Change in muscle hardness after trigger point injection and physiotherapy for myofascial pain syndrome. J Oral Sci. 61 (1) 36-44,2018..

授業科目：摂食機能療法学

担当教員：植田耕一郎，阿部仁子，中山潤利，佐藤光保

<p>学年・学期：3年・後期 単位：20単位（各年次講義45時間，実習90時間以上の授業を実施する）</p>
<p>授業の概要： 少子超高齢化が進むわが国において，疾患の重症化，複雑化，および障害の慢性化，長期化が加速している。我が国は世界に有数の長寿国家となったが，平均寿命と健康寿命の差は大きく，男女ともに10年前後の介護生活を余儀なくされているのが現状である。医療のあり方が見直され，国家的に在宅医療が推進されるなか，いかに生きるかといった生きる質が問われるようになった。そのなかで医科，歯科のみならず介護，福祉，保健の領域でも摂食機能障害が注目され，多職種連携・協働といった職種を超えたチーム医療の重要性が叫ばれている。そのなかで，歯科医療従事者の役割も大きく変わりつつあり，診療所での診療だけでなく訪問歯科診療といった新しい診療体制や，それにかかわる有病高齢者・要介護高齢者に対する全身管理や対応なども求められるようになってきている。 当講座では，以上の歯科医療環境をふまえた上，摂食機能療法の理念，診断，技術について臨床的視点にたった考察の習得を目的としている。</p>
<p>研究テーマ： 1. 摂食嚥下のメカニズムに関する研究 2. 摂食機能障害の診断に関する研究 3. 摂食機能療法の効果に関する研究 4. 摂食機能療法に関わる質的研究</p>
<p>一般目標（GIO）： 要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法の概念を理解するために，リハビリテーションの理念を理解し，摂食嚥下障害の診断法，アプローチ手技，および高齢者歯科医療に関する基本的な知識を身につける。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 要介護高齢者・有病高齢者に対する摂食機能療法におけるリハビリテーションの理念を理解する。 2. 摂食嚥下障害の診断法，摂食機能療法のアプローチ・手技を理解する。 3. 高齢者歯科医療に関する基本的な知識を習得する。 4. これからの高齢者歯科医療における歯科医師のあり方を理解する。 5. 発達期障害の患者に対する摂食機能療法を理解する。</p>
<p>授業の方法： 研究テーマに沿った内容の講義，文献の検索と研究指導を行う。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 脳卒中患者の口腔ケア第2版，摂食嚥下リハビリテーション第3版</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 成績評価は，各研究テーマについての理解度，達成度により総合的に評価・判定を行う。</p>

講座の主な研究業績:

1. Nakayama E, Tohara H, Sakai K, Hayata M, Ohnishi S, Sekino J, Tsuzuki H, Hirai T, Hayashi A, Ueda K (2017) Predictive Factors Associated with Oral Intake Ability in Gastrostomy Patients Under Long-Term Care. *J Nutr Health Aging* 21(6):715-720.
2. Sakai K, Nakayama E, Tohara H, Kodama K, Takehisa T, Takehisa Y, Ueda K (2017) Relationship between tongue strength, lip strength, and nutrition-related sarcopenia in older rehabilitation inpatients: a cross-sectional study. *Clin Interv Aging* 12:1207-1214.
3. Sakai K, Nakayama E, Tohara H, Takahashi O, Ohnishi S, Tsuzuki H, Hayata M, Takehisa T, Takehisa Y, Ueda K (2018) Diagnostic accuracy of lip force and tongue strength for sarcopenic dysphagia in older inpatients: A cross-sectional observational study. *Clin Nutr*. pii: S0261-5614(18)30017-7.
4. Sekino J, Nagao M, Kato S, Sakai M, Abe K, Nakayama E, Sato M, Nagashima Y, Hino H, Tanabe N, Kawato T, Maeno M, Suzuki N, Ueda K (2018) Low-intensity pulsed ultrasound induces cartilage matrix synthesis and reduced MMP13 expression in chondrocytes. *Biochem Biophys Res Commun*. 506 (1): 290-297.
5. Hayata M, Watanabe N, Kamio N, Tamura M, Nodomi K, Tanaka K, Iddamalgoda A, Tsuda H, Ogata Y, Sato S, Ueda K, Imai K (2018) Cynaropicrine from *Cynara scolymus* L. suppresses *Porphyromonas gingivalis* LPS-induced production of inflammatory cytokines in human gingival fibroblasts and RANKL-induced osteoclast differentiation in RAW264.7 cells. *Journal of Natural Medicines*.
6. 林晃成, 植田耕一郎, 佐藤光保 (2018) 咬合挙上と水平的な咬合位の変化が舌骨上筋群の筋活動に及ぼす影響. *日大歯学* 92 巻, 51-56.
7. 平井皓之 (2018) リクライニング位が咀嚼時の唾液分泌量に及ぼす影響. *日大歯学* 92, 19-25.
8. 植田耕一郎, 阿部仁子, 中山渕利 (2018) よくわかる高齢者歯科学, 永末書店, 180-190.
9. 中山渕利, 植田耕一郎 (2018) 摂食嚥下障害の病態. よくわかる高齢者歯科, 永末書店, 190.
10. 中山渕利, 植田耕一郎 (2018) 摂食嚥下機能とその障害. *デンタルスタッフの口腔衛生学・歯科衛生統計*, 医歯薬出版株式会社, 74-79.

副科目・選択科目

授業科目：解剖学

担当教員：高橋富久，二宮 禎，藤原恭子，大橋晶子

学年・学期：2年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

間葉系幹細胞はホルモンや様々な分化誘導因子から受けるシグナルに応じて、骨芽細胞、軟骨細胞、筋芽細胞、脂肪細胞などへ分化を遂げる。各細胞系譜への分化は、転写因子の活性化や発現レベルの変化によって調節されている。この授業では骨芽細胞と脂肪細胞の分化調節メカニズムを理解し、細胞分化に関する転写因子の発現制御についての新しい知見を学ぶ。

一般目標（GIO）：

歯科医学研究における豊かな知識を身につけるため、基礎研究から最新研究までの広い分野を学修する。

到達目標（SBOs）：

各学修項目の学修達成目標を参照すること。

授業の方法：

講義及び論文抄読会を行い、幅広い知識を身につける。

準備学習(予習・復習)：

事前に各学修項目に関連した論文を紹介するので、授業までに理解しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

毎回、プリントを配布する。

成績評価の方法及び基準：

講義中または終了時に討論を行い、その理解度により評価する。

オフィスアワー・e-mail：

高橋 富久：月，金曜日 8:00～9:00・takahashi.tomihisa@nihon-u.ac.jp

二宮 禎：火曜日 17:00～18:00・ninomiya.tadashi@nihon-u.ac.jp

藤原 恭子：水曜日 17:00～18:00・fujiwara.kyoko@nihon-u.ac.jp

大橋 晶子：水曜日 17:00～18:00・oohashi.akiko@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月7日(火)	高橋 富久	間葉系幹細胞	間葉系幹細胞の骨芽細胞, 脂肪細胞, 軟骨細胞, および筋芽細胞への分化メカニズムを理解する。
2	4月14日(火)	高橋 富久	骨芽細胞 1	骨芽細胞の形態的特徴と分化過程で産生される骨基質タンパクの構造と機能を理解する。
3	4月21日(火)	高橋 富久	骨芽細胞 2	骨芽細胞の分化過程において, 重要な役割を担う転写因子の発現パターンとそれらの相互作用を理解する。
4	4月28日(火)	高橋 富久	骨芽細胞 3	骨芽細胞が産生する骨基質タンパクと石灰化の関係を理解する。
5	5月12日(火)	高橋 富久	脂肪細胞 1	脂肪細胞の種類と分布に関する形態学的特徴を理解する。
6	5月19日(火)	高橋 富久	脂肪細胞 2	脂肪細胞の分化・成熟に関連した脂肪細胞マーカーの構造と機能を理解する。
7	5月26日(火)	二宮 禎	骨芽細胞分化と転写因子 1	代表的な骨芽細胞分化関連転写因子の Runx2 の構造と機能, さらに発現メカニズムを理解する
8	6月2日(火)	二宮 禎	骨芽細胞分化と転写因子 2	骨芽細胞分化関連転写因子の Osterix の構造と機能, さらに発現メカニズムを理解する。
9	6月9日(火)	二宮 禎	脂肪細胞分化と転写因子 1	転写因子 C/EBP ファミリーに分類されているタンパクの構造と機能, さらに発現メカニズムを理解する。
10	6月16日(火)	二宮 禎	脂肪細胞分化と転写因子 2	脂肪細胞分化関連転写因子 PPAR γ 2 の構造と機能, さらに発現メカニズムを理解する。
11	6月23日(火)	藤原 恭子	骨粗鬆症と細胞分化	間葉系幹細胞から骨芽細胞と脂肪細胞への分化バランスが, 加齢によりどのように変化するかを理解する。
12	6月30日(火)	藤原 恭子	遺伝子発現の解析法	核酸の種類と構造について理解する。また, 遺伝子発現の半定量的解析法について理解する。
13	7月7日(火)	藤原 恭子	遺伝子組換え実験の基礎	遺伝子組換え実験の基礎となるベクターの種類と発現ベクターの構築法について理解する。
14	7月14日(火)	大橋 晶子	遺伝子組み換え実験の応用 1	遺伝子組換え法によるタンパクの作成法とその応用例について理解する。
15	7月21日(火)	大橋 晶子	遺伝子組み換え実験の応用 2	細胞内への遺伝子導入法と遺伝子改変動物の作成法の概要について理解する。

授業科目：発生・組織学

担当教員：磯川桂太郎，山崎洋介

学年・学期：2年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

3つの学修テーマを掲げているが、各々の概要は次のとおり。

1. コモンセンスと倫理：研究者としての基本的な姿勢や良識の在り方を考える。
2. 顕微解剖学の文化：医学における顕微鏡によるミクロ観察の発展史と重要性を考える。
3. 顕微解剖学の実際：考え方・手技を踏まえた研究実例を学んで自らの研究活動展開の一助とする。

一般目標（GIO）：

受講者各自が抱える研究テーマに沿った日々の研究活動（主科目）を外から見つめる機会と姿勢を養う。

到達目標（SBOs）：

1. 研究者としての基本的な姿勢や良識の在り方の学びに基づき、日々の研究活動を行う。
2. 顕微鏡によるミクロ観察の発展史の学びに基づき、形態がもつ意味を念頭に日々の研究を展開する。
3. 学んだ他者の研究実例に基づき、自らの研究を批判的かつ建設的に内省できるように努める。

授業の方法：

講義もしくは課題提示に基づいた質疑応答やディスカッションを行う。この後半部分が本科目での授業の本体部分であると、担当者は考えているので、そうした受講姿勢を求める。

準備学習(予習・復習)：

- ・事前の配付や指示に従った準備や通読を必ず行って授業に臨むこと。
- ・質疑応答やディスカッションに重きをおくため、その姿勢で臨むこと。
- ・SBOsに記されているように、日々の活動に反映させることを以って復習とする。

教材（教科書・参考書等）：

指定しない。参考書は、

- 1, 2. 指定しないが、参考となる資料を適宜配付する。
3. 電顕入門ガイドブック，日本顕微鏡学会編，学会出版センター

成績評価の方法及び基準：

受講姿勢（出欠，質疑応答や討論への参加・積極性）を以って評価する。

欠席の場合は別途，課題&提出レポートを課し，その提出物の内容によって欠席分を補填する評価を行う。

オフィスアワー・e-mail：

磯川桂太郎：月曜日：12：00～13：00：isokawa.keitaro@nihon-u.ac.jp

山崎 洋介：月曜日：12：00～13：00：yamazaki.yosuke@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	9月9日(水)	磯川桂太郎 山崎 洋介	オリエンテーション コモンセンスと倫理(1)	ソーカル事件を端緒題材にした討議を通して、学術論文のキャラクターについての理解を深める。
2	9月16日(水)	磯川桂太郎	コモンセンスと倫理(2)	バイラインに関するエッセイを端緒教材にした討議を通して、authorship, 共同研究の在り方, altmetrics, DORA 宣言についての理解を深める。
3	9月23日(水)	磯川桂太郎	コモンセンスと倫理(3)	画像データ取扱いに関する ASCB 学会 tutorial 論文を端緒教材にした討議を通して、査読制及び改竄, 捏造, 剽窃等の問題について理解を深める。
4	9月30日(水)	磯川桂太郎	コモンセンスと倫理(4)	Open Access や Universal Design に関する解説を踏まえた討議を通して、研究行為が発見・発明を凌駕する普遍性をもつ文化であることを学ぶ。
5	10月7日(水)	山崎 洋介	顕微解剖学の文化(1)	医学史を概観し、人類と病気の長い戦いの歴史と近代以降における重大な医学的発見や偉業を成し遂げた人物について学ぶ。特に彼らの知性、忍耐力、好奇心、セレンディピティについて知る。
6	10月14日(水)	山崎 洋介	顕微解剖学の文化(2)	解剖学・組織学の歴史について学ぶ。いくつかの事柄について、文献や博物館の事例などを供覧して理解を深める。
7	10月21日(水)	山崎 洋介	顕微解剖学の文化(3)	光学顕微鏡の歴史を学ぶ。微構造に対する先人の好奇心と顕微鏡開発の工夫について知る。また、光学顕微鏡の原理について学び、良い組織画像を得るためにはどうしたら良いか知る
8	10月28日(水)	磯川桂太郎	顕微解剖学の実際(1)	枝芽の骨格パターン形成に関する実際の研究例を通して、とくに培養法を用いた研究アプローチの多様性、特徴、適応の選択について学ぶ。
9	11月4日(水)	磯川桂太郎	顕微解剖学の実際(2)	培養系を用いた fibrillogenesis に関する実際の研究例を通して、とくに蛍光抗体法の原理, mono-, polyclonal 抗体作製法について学ぶ。
10	11月18日(水)	磯川桂太郎	顕微解剖学の実際(3)	鶏胚跗蹠骨の発生・形態形成に関する実際の研究例を通して、研究活動における「気づき」の連鎖の重要性や、発生と進化の密接な関連を学ぶ。
11	11月25日(水)	磯川桂太郎	顕微解剖学の実際(4)	Lophius 属の歯とその支持組織に関する実際の研究例を通して、遺伝子・分子レベルでの保存や変化と形態・機能との連関において、比較組織学アプローチに意義があることを学ぶ。

12	12月2日(水)	山崎 洋介	顕微解剖学の実際(5)	顕微鏡で取得した組織画像をデジタル処理し、形態計測をして、定量的データを得る方法を知る。また、データの統計学的検定法について考察する。
13	12月9日(水)	山崎 洋介	顕微解剖学の実際(6)	電子顕微鏡 (EM; 電顕) の種類, 歴史, 原理, また試料作成法などの基礎について知る。
14	12月16日(水)	山崎 洋介	顕微解剖学の実際(7)	具体的な電顕の応用について学ぶ。また, 実習形式で実際に電顕で撮影した組織・細胞の写真をトレースしながら, その超微構造を理解する。
15	12月23日(水)	山崎 洋介	顕微解剖学の実際(8)	立体視の原理について学び, 視覚的認知や錯視について理解する。また, 立体視の医学的応用について, 臨床, 基礎, 教育それぞれにおける事例を知る。

授業科目：口腔生理学

担当教員：篠田雅路，坪井美行，林 良憲

学年・学期：2年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

痛覚は、人類にとって無視することのできない重要な感覚の一つである。我々は侵害的な刺激が身体のどこかに与えられると、その刺激によって痛みを認知する。この時に生じた痛みは、どこに、どのような侵害刺激が加えられたかを知る重要な警告信号である。これが、痛みが人類にとって大変重要な感覚であるといわれている所以である。しかし、一度末梢組織に炎症や神経損傷が引き起こされると、人類にとって不必要な慢性的な痛みが発症してしまうことがある。この痛みは臨床的にも治療が困難で重篤な痛みとなることが多い。本授業では、口腔顔面領域の正常な痛みおよび病的な痛みの発症機構を解説し、そのメカニズムを理解することを最終到達目標としている。

一般目標（GIO）：

分子レベルから高次脳機能に至るまで、正常および病態時の痛覚受容機構に関する授業を受講し、侵害情報の末梢および中枢における処理機構の最先端を理解する。さらに、その知識を基に除痛、痛み緩和についての方策を考えることをねらいとする。

到達目標（SBOs）：

1. 三叉神経系侵害情報の末梢処理機構を説明できる。
2. 三叉神経系侵害情報の中枢処理機構を説明できる。
3. 各種顔面口腔領域の病態による三叉神経系の可塑的变化を説明できる。

授業の方法：

講義およびアクティブラーニング

準備学習(予習・復習)：

事前に必ず教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。
各々授業時間相当を充てて復習を行うこと。

教材（教科書・参考書等）：

TEXTBOOK OF PAIN Sixth Edition, Churchill Livingstone 出版

SCIENCE OF PAIN Academic 出版

NEUROSCIENCE ~ Exploring the Brain Third Edition Lippincott Williams & Wilkins 出版

成績評価の方法及び基準：口頭試問を行い、理解度を評価する。

オフィスアワー・e-mail：

篠田 雅路：火曜日 17：00～18：00・shinoda.masamichi@nihon-u.ac.jp

坪井 美行：火曜日 17：00～18：00・tsuboi.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

林 良憲：火曜日 17：00～18：00・hayashi.yoshinori@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月6日(月)	篠田 雅路	疼痛学概論	痛覚についての概論および心理学的側面から痛覚の特徴を理解する。
2	4月13日(月)	篠田 雅路	痛みの受容機構 (I)	TRP チャネルファミリーを中心に末梢神経での侵害刺激受容機構を理解する。
3	4月20日(月)	篠田 雅路	痛みの受容機構 (II)	2次ニューロンでのグルタミン酸受容体を中心にシナプス伝達機構を理解する。
4	4月27日(月)	坪井 美行	痛みの受容機構 (III)	ポリモーダル受容器, また A δ および C 神経線維の特徴および侵害刺激に対する反応特性を理解する。
5	5月11日(月)	坪井 美行	痛みの受容機構 (IV)	侵害情報の脊髄および延髄での投射様式, ニューロンの反応特性について理解する。
6	5月18日(月)	林 良憲	痛みの受容機構 (V)	侵害情報の脊髄および延髄からの大脳皮質までの投射様式およびニューロンの反応特性を理解する。
7	5月25日(月)	林 良憲	痛みの受容機構 (VI)	痛覚の心理学側面と大脳皮質での侵害情報処理領域の関係を理解する。
8	6月1日(月)	林 良憲	痛みの受容機構 (VII)	下降性抑制系に関与する領域とそれを結ぶ神経回路とニューロンの反応特性を理解する。
9	6月8日(月)	篠田 雅路	異常疼痛受容機構 (I)	炎症, 神経障害時などの病的疼痛とそのモデル動物の有効性について理解する。
10	6月15日(月)	篠田 雅路	異常疼痛受容機構 (II)	病的疼痛時の末梢神経の反応特性の変化およびその原因となるチャネルなどについて理解する。
11	6月22日(月)	坪井 美行	異常疼痛受容機構 (III)	病的疼痛時の中枢神経の変化およびその機構を理解する。
12	6月29日(月)	坪井 美行	異常疼痛受容機構 (IV)	病的疼痛時の中枢神経の変化をヒトの脳のイメージング研究からその機構を理解する。
13	7月6日(月)	林 良憲	異常疼痛受容機構 (V)	正常時と病態時の細胞内情報伝達機構について理解する。
14	7月13日(月)	篠田 雅路	まとめ (I)	痛みの受容機構について, 説明できる。
15	7月20日(月)	篠田 雅路	まとめ (II)	異常疼痛受容機構について, 説明できる。

授業科目：歯科薬理学

担当教員：小林真之，山本清文，中谷有香，越川憲明

学年・学期：2年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

口腔機能の多くは、中枢神経系によって制御されている。高齢化社会を迎えた現在、歯科受診者の多くが諸種の疾患を併せ持っており、その中にはオーラルジスキネジアや味覚障害、慢性疼痛など神経系疾患が含まれる。本講義は、神経精神疾患を持つ歯科受診者について理解を深めることができ、さらに口腔機能に関する研究に役立つ知識を習得できるよう設計されている。内容は、(1) 中枢神経系の構造と機能の概略と (2) 最新の神経科学の研究方法に分けられており、初学者でも順序を追って理解できる配置になっている。

一般目標 (GIO)：

薬理学ならびに歯科薬理学に関する最新の知識を学修し、自ら考える姿勢を養う。

到達目標 (SBOs)：

薬理学の基礎的知識について理解する。
 歯科医療に応用する薬理学的知識を身につける。
 神経科学の基礎的知識を理解する。
 最新の知識を文献から学ぶ技術を身につける。

授業の方法：

講義形式でテーマに沿って知識を習得し、それに基づいてディスカッションを行う。最後に、講義内容に関する課題についてレポートを提出する。

準備学習(予習・復習)：

指定参考書の必要事項を予習し、講義後レポートをまとめて知識を整理する。

教材 (教科書・参考書等)：

Principles of Neural Science (5th ver. Mc Graw Hill)

成績評価の方法及び基準：

出席状況と提出課題によって評価する。

オフィスアワー・e-mail：e-mail は各名前の後に@nihon-u.ac.jp を付ける。

小林 真之：木曜日：17:00-19:00：kobayashi.masayuki

山本 清文：木曜日：17:00-19:00：yamamoto.kiyofumi

中谷 有香：木曜日：17:00-19:00：nakaya.yuka

越川 憲明：木曜日：17:00-19:00：koshikawa.noriaki

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月3日(土)	小林 真之	オリエンテーション 神経科学研究の歴史	授業の進め方, 準備内容と評価等, 授業に関する注意事項を理解する。古代ギリシャから始まる神経科学研究がルネサンス期にどのように変貌を遂げたか, さらに近代に至るまでに脳研究がたどった変遷を紹介し, 現在行われている脳研究の枠組みについて学ぶ。
2	10月10日(土)	小林 真之	ニューロン	興奮膜としてのニューロンの膜特性について主にイオンチャネルという観点から紹介し, 神経活動の基盤となる生理学的, 薬理的メカニズムについて理解を深める。
3	10月17日(土)	小林 真之	シナプス (1): 前膜における放出機構の概略	シナプス前膜における神経伝達物質の放出機構についての基礎的な事項を理解する。
4	10月24日(土)	小林 真之	シナプス (2): 前膜における放出機構の詳細	シナプス前膜における神経伝達物質の放出機構について, SNAP25 や RIM など最近注目されている放出関連タンパクについて理解する。
5	10月31日(土)	小林 真之	シナプス (3): シナプス後電位の発生機構	シナプス後膜に存在する受容体の種類とその特性について学ぶ。
6	11月7日(土)	山本 清文	シナプス (4): シナプス可塑性	中枢神経系が持っている神経の可塑的な変化は, 学習・記憶の最も基本的なメカニズムの1つと考えられている。本講では, 眼優位可塑性を例にとりてシナプス可塑性について理解を深める。
7	11月14日(土)	小林 真之	神経活動を捉える方法 (1): 細胞外記録法	ニューロンの活動電位を効率的に記録する手法について理解する。
8	11月21日(土)	小林 真之	神経活動を捉える方法 (2): 光学計測法	膜電位の変化に応じて変動する細胞内カルシウム濃度の計測や膜電位感受性色素による神経活動の可視化について理解を深める。
9	11月28日(土)	小林 真之	神経活動を捉える方法 (3): 非侵襲的脳機能イメージング法	脳機能イメージング法は, PET や fMRI の登場で劇的に進化している。ヒトの脳における理解がどのように進んだのか味覚を例にとりて, その実際について理解を深める。
10	12月5日(土)	中谷 有香	神経活動を捉える方法 (4): パッチ・クランプ法	神経活動を直接計測することを可能にしたパッチ・クランプ法についてその利点と欠点を学び, 実際の実験に触れることで神経活動の背景にある巧妙で精細な仕組みについて理解を深める。
11	12月12日(土)	小林 真之 越川 憲明	神経活動を捉える方法 (5): 行動薬理学	動物は言語による意思伝達が出来ないため, 動物実験では行動観察によって薬物の作用などを推定することがある。この手法について理解を深める。

12	12月19日(土)	小林 真之 越川 憲明	顎運動の制御機構	随意顎運動のメカニズムについて解剖学的、生理学的観点から学ぶとともに、それらを修飾する様々な神経伝達物質について理解を深める。
13	1月9日(土)	中谷 有香	痛みの受容機構	痛みの受容機構について主に中枢神経系の経路について理解を深める。
14	1月16日(土)	小林 真之 越川 憲明	向精神薬	抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬などの精神疾患治療薬の作用機序と薬物療法について学び、覚せい剤や麻薬が持つ依存性について理解を深める。
15	1月23日(土)	小林 真之 越川 憲明	生物実験の解釈	医学・歯学研究で用いられる統計学的検定法について実例を交えながら、その背景にある数学的理論の理解を深める。

授業科目：口腔外科学

担当教員：外木守雄，米原啓之，金子忠良，清水 治，佐藤貴子，生木俊輔，西久保周一，篠塚啓二，古川明彦

学年・学期：3年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

1. 顎変形症の成因や実際に行われる顎矯正手術について学ぶ。また，顎矯正手術時の顎骨の移動量および移動方向と上気道形態および容積の変化量の関係を検討し，睡眠時無呼吸症の改善も考慮した手術前後の気道形態の変化および病態についても学修する。
2. 口腔領域における各種再建手術法を学修するとともに，各種再建手術後の骨再生過程の評価を行い，骨移植術・骨延長術などの術後成績および機能回復の要因を学修する。
3. 口腔がんの原発巣と頸部リンパ節転移に対する診断法および治療法を学び，治療成績の向上を検討する。

一般目標（GIO）：

これまでに学んだ口腔外科学に関する知識を整理し，顎変形症手術，顎口腔領域に発生する悪性腫瘍についてその分類，治療法および再建法などさらに高度でかつ専門性の高い範囲を理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 口腔悪性腫瘍の各種分類法および治療法を説明できる。
2. 顎口腔領域における各種再建法について説明でき，特徴も列挙できる。
3. 顎変形症に対する外科的治療法について説明できる。
4. 睡眠時無呼吸症の病態について説明できる。

授業の方法：

各関連項目で，講師による座学，授業を行う。また，治療法については具体的な臨床例を基にした授業を行い，適宜手術などへの参加など臨床現場での実習も行う。

準備学習(予習・復習)：

授業前に指定された教科書，参考書および関連する論文等により授業分野の内容を理解しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

口腔外科学 第5版 学建書院
最新口腔外科学 第5版 医歯薬出版
標準口腔外科学 第4版 医学書院

成績評価の方法及び基準：

各授業終了時に口頭試問を行い，評価する。

オフィスアワー・e-mail：

外木 守雄：月曜日 17：00 ～ 18：00 tonogi.morio@nihon-u.ac.jp
米原 啓之：月曜日 17：00 ～ 18：00 yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp
金子 忠良：月曜日 17：00 ～ 18：00 kaneko.tadayoshi@nihon-u.ac.jp
清水 治：月曜日 17：00 ～ 18：00 shimizu.osamu@nihon-u.ac.jp
佐藤 貴子：火曜日 17：00 ～ 18：00 sato.takako@nihon-u.ac.jp
生木 俊輔：月曜日 17：00 ～ 18：00 namaki.shunsuke@nihon-u.ac.jp
西久保周一：月曜日 17：00 ～ 18：00 nishikubo.shuichi@nihon-u.ac.jp
篠塚 啓二：月曜日 17：00 ～ 18：00 shinozuka.keiji@nihon-u.ac.jp
古川 明彦：月曜日 17：00 ～ 18：00 furukawa.akihiko@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月5日(月)	外木 守雄 篠塚 啓二	口腔悪性腫瘍の分類	口腔悪性腫瘍の各種分類法, 臨床所見, 転移の様相ならびに治療法の概略について理解できる。
2	10月12日(月)	外木 守雄 西久保周一	口腔悪性腫瘍Ⅰ	舌癌の治療法について説明できる。
3	10月19日(月)	外木 守雄 西久保周一	口腔悪性腫瘍Ⅱ	歯肉癌の治療法について説明できる。
4	10月26日(月)	外木 守雄 西久保周一	口腔悪性腫瘍Ⅲ	口底癌・頬粘膜癌・上顎癌の治療法について説明できる。
5	11月2日(月)	清水 治	口腔悪性腫瘍Ⅳ	唾液腺悪性腫瘍の治療法について説明できる。
6	11月9日(月)	金子 忠良	リンパ節郭清術	頸部リンパ節郭清術について必要な解剖学を理解し, 各種リンパ節郭清術を説明できる。
7	11月16日(月)	米原 啓之	再建手術Ⅰ	植皮術および有形皮弁移植術による再建法の適応と実際の手術法について理解できる。
8	11月30日(月)	米原 啓之 古川 明彦	再建手術Ⅱ	顕微鏡下血管吻合法および神経縫合法について説明できる。
9	12月7日(月)	米原 啓之 生木 俊輔	再建手術Ⅲ	顕微鏡下遊離皮弁移植術による再建法の適応と実際の手術法について説明できる。
10	12月14日(月)	米原 啓之 生木 俊輔	再建手術Ⅳ	骨移植および遊離複合組織移植術による硬組織再建法について説明できる。
11	12月21日(月)	外木 守雄 篠塚 啓二	顎変形症治療法	顎変形症に対する各種治療法および手術計画立案に必要な準備について理解できる。
12	1月18日(月)	佐藤 貴子	顎変形症診断法	顎矯正手術を施行するに当たって必要となる各種検査法について説明できる。
13	1月25日(月)	外木 守雄 篠塚 啓二	顎矯正手術Ⅰ	各種下顎骨骨切手術の手術法について理解する。
14	2月1日(月)	外木 守雄 篠塚 啓二	顎矯正手術Ⅱ	各種上顎骨骨切手術の手術法について理解する。
15	2月8日(月)	外木 守雄	顎矯正手術Ⅲ	睡眠障害に対する外科的治療法について理解する。

授業科目：歯科矯正学（一般）

担当教員：本吉 満，中嶋 昭，馬谷原琴枝，納村泰弘，内田靖紀

学年・学期：3年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

不正咬合の診断と治療法について，不正咬合の模型や X 線写真などの患者資料をもとに，不正咬合の資料分析，診断と治療方針の立案について学ぶ。

バンドやブラケット装着など，エッジワイズ装置の基本手技を修得した後，ラウンド及びレクタングュラーワイヤーベンディングの基礎練習を行い，ループと矯正力の関連性やアーチワイヤーの特性と歯の移動の関連性について学ぶ。

一般目標（GIO）：

歯科矯正学に関する知識を学修し理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 不正咬合の診断と治療法を習得する。
2. 矯正装置の違いによる歯の移動様相の違いを理解する。
3. 最新の矯正治療法について理解し，知識を得る。

授業の方法：

演習形式で歯の移動様相についてディスカッションを行う。タイポドントを用いて Angle I 級不正咬合をセットアップし，治療方針に従い各ステップのワイヤーを装着し，歯の移動を観察することで矯正治療の実際を修得する。

準備学習(予習・復習)：

必ず事前に教科書等をよく読んで，授業内容の目的を理解しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

歯科矯正学第5版 医歯薬出版

臨床家のための矯正 Year book 2001 クインテッセンス

成績評価の方法及び基準：

実習態度とテーマに対するディスカッションで評価する。

オフィスアワー・e-mail：

本吉 満：月曜日 17：00～18：00 motoyoshi.mitsuru@nihon-u.ac.jp

中嶋 昭：火曜日 17：00～18：00 nakajima.akira@nihon-u.ac.jp

内田 靖紀：水曜日 17：00～18：00 uchida.yasuki@nihon-u.ac.jp

馬谷原琴枝：木曜日 17：00～18：00 mayahara.kotoe@nihon-u.ac.jp

納村 泰弘：金曜日 17：00～18：00 namura.yasuhiro@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月5日(月)	納村 泰弘	模型分析	不正咬合患者の模型計測とその分析を学ぶ。
2	10月12日(月)	納村 泰弘	頭部X線規格写真分析	セファログラム分析より骨格, 歯列の問題点を学ぶ。
3	10月19日(月)	納村 泰弘	治療方針の立案	模型やセファログラム分析から患者の治療方針の立案法を学ぶ。
4	10月26日(月)	内田 靖紀	ワイヤーバンド-1	ラウンドワイヤーバンディングの基礎練習
5	11月2日(月)	内田 靖紀	ワイヤーバンド-2	レクタングュラーワイヤーバンディングの基礎練習
6	11月9日(月)	内田 靖紀	ワイヤーバンド-3	アーチワイヤーバンディングの基礎練習
7	11月16日(月)	馬谷原琴枝	エッジワイズ装置	エッジワイズ装置の特徴と使用法について学ぶ。
8	11月30日(月)	馬谷原琴枝	I級不正咬合の治療	タイポドントを用い不正咬合のセットアップ, バンディング, ボンディング法を学ぶ。
9	12月7日(月)	馬谷原琴枝	不正咬合の治療1	側方歯群のレベリング
10	12月14日(月)	中嶋 昭	不正咬合の治療2	犬歯の遠心移動
11	12月21日(月)	中嶋 昭	不正咬合の治療3	切歯の装置装着と再レベリング
12	1月18日(月)	中嶋 昭	不正咬合の治療4	切歯の遠心移動
13	1月25日(月)	中嶋 昭	不正咬合の治療5	理想的な歯列の完成とフィニッシング・保定
14 15	2月1日(月) 2月8日(月)	本吉 満	評価判定	ディスカッションによる総合評価判定

授業科目：歯科矯正学（社会人）

担当教員：本吉 満，中嶋 昭，馬谷原琴枝，納村泰弘，内田靖紀

学年・学期：3年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

不正咬合の診断と治療法について，不正咬合の模型や X 線写真などの患者資料をもとに，不正咬合の資料分析，診断と治療方針の立案について学ぶ。

バンドやブラケット装着など，エッジワイズ装置の基本手技を修得した後，ラウンド及びレクタングュラーワイヤーベンディングの基礎練習を行い，ループと矯正力の関連性やアーチワイヤーの特性と歯の移動の関連性について学ぶ。

一般目標（GIO）：

歯科矯正学に関する知識を学修し理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 不正咬合の診断と治療法を習得する。
2. 矯正装置の違いによる歯の移動様相の違いを理解する。
3. 最新の矯正治療法について理解し，知識を得る。

授業の方法：

演習形式で歯の移動様相についてディスカッションを行う。タイポドントを用いて Angle I 級不正咬合をセットアップし，治療方針に従い各ステップのワイヤーを装着し，歯の移動を観察することで矯正治療の実際を修得する。

準備学習(予習・復習)：

必ず事前に教科書等をよく読んで，授業内容の目的を理解しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

歯科矯正学第5版 医歯薬出版

臨床家のための矯正 Year book 2001 クインテッセンス

成績評価の方法及び基準：

実習態度とテーマに対するディスカッションで評価する。

オフィスアワー・e-mail：

本吉 満：月曜日 17：00～18：00 motoyoshi.mitsuru@nihon-u.ac.jp

中嶋 昭：火曜日 17：00～18：00 nakajima.akira@nihon-u.ac.jp

内田 靖紀：水曜日 17：00～18：00 uchida.yasuki@nihon-u.ac.jp

馬谷原琴枝：木曜日 17：00～18：00 mayahara.kotoe@nihon-u.ac.jp

納村 泰弘：金曜日 17：00～18：00 namura.yasuhiro@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月2日(木)	中嶋 昭	模型分析	不正咬合患者の模型計測とその分析を学ぶ。
2	4月9日(木)	中嶋 昭	頭部X線規格写真分析	セファログラム分析より骨格, 歯列の問題点を学ぶ。
3	4月16日(木)	馬谷原琴枝	治療方針の立案	模型やセファログラム分析から患者の治療方針の立案法を学ぶ。
4	4月23日(木)	内田靖紀	ワイヤーバンド-1	ラウンドワイヤーバンディングの基礎練習
5	4月30日(木)	内田靖紀	ワイヤーバンド-2	レクタングュラーワイヤーバンディングの基礎練習
6	5月7日(木)	内田靖紀	ワイヤーバンド-3	アーチワイヤーバンディングの基礎練習
7	5月14日(木)	馬谷原琴枝	エッジワイズ装置	エッジワイズ装置の特徴と使用方法について学ぶ。
8	5月28日(木)	馬谷原琴枝	I級不正咬合の治療	タイポドントを用い不正咬合のセットアップ, バンディング, ボンディング法を学ぶ。
9	6月4日(木)	馬谷原琴枝	不正咬合の治療1	側方歯群のレベリング
10	6月11日(木)	中嶋 昭	不正咬合の治療2	犬歯の遠心移動
11	6月18日(木)	中嶋 昭	不正咬合の治療3	切歯の装置装着と再レベリング
12	6月25日(木)	中嶋 昭	不正咬合の治療4	切歯の遠心移動
13	7月2日(木)	中嶋 昭	不正咬合の治療5	理想的な歯列の完成とフィニッシング・保定
14 15	7月9日(木) 7月16日(木)	本吉 満	評価判定	ディスカッションによる総合評価判定

授業科目：歯科麻酔学

担当教員：大井良之，岡 俊一，小柳裕子

学年・学期：2年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

麻酔学に関する基礎的な知識を理解する。麻酔の歴史を通観しながら，そこに関わる生理学・薬理学を学びつつ，麻酔の発展に関わる薬物について学ぶ。

一般目標（GIO）：

麻酔学に関する薬物の薬理作用，薬物に対する生理反応等の基本を理解する

到達目標（SBOs）：

1. 麻酔に関連する解剖・生理・薬理を理解する。
2. 麻酔学の発展に関わる薬物の発見から応用までの歴史を理解する。
3. 麻酔薬に対する生体反応を理解する。

授業の方法：

関連する教材をもとに課題についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習)：

指定の教科書，文献等を事前に読み込んでおくこと。

教材（教科書・参考書等）：

Miller's Anesthesia (9th), Basics of ANESTHESIA, 適宜プリント配布。

成績評価の方法及び基準：

出席状況や態度，各授業における質疑応答などを総合して評価する。

オフィスアワー・e-mail：

大井 良之：月曜日：17：00～18：00：oi.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

岡 俊一：17：00～18：00：oka.shunnichi@nihon-u.ac.jp

小柳 裕子：17：00～18：00：koyanagi.yuko@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月5日(月)	大井 良之	麻酔の歴史	麻酔の歴史を知ると共に麻酔薬の変遷を理解する。
2	10月12日(月)	大井 良之	薬理	麻酔薬の基礎となる薬理動態を知る。
3	10月19日(月)	大井 良之	心肺生理	酸素需給の基礎となる呼吸と循環を学ぶ。
4	10月26日(月)	大井 良之	自律神経	生体防御の基礎となる神経機構を学ぶ。
5	11月9日(月)	大井 良之	麻酔に関連する解剖	生体における体液の役割を理解する。
6	11月16日(月)	小柳 裕子	吸入麻酔	臨床における吸入麻酔薬の位置付けを知り、麻酔薬の吸収と排泄の動態、並びに生理反応を理解する。
7	11月30日(月)	小柳 裕子	静脈麻酔	静脈麻酔薬を手繰り学的に分類して、それらの特徴を理解する。
8	12月7日(月)	小柳 裕子	麻薬	麻薬の作用、副作用のメカニズムを学ぶ。
9	12月14日(月)	小柳 裕子	局所麻酔薬	局所麻酔薬の薬理作用を理解し、効果発現と副作用発現のメカニズムを学ぶ。
10	12月21日(月)	小柳 裕子	筋弛緩薬	筋弛緩薬の変遷と作用機序を学ぶ。
11	1月18日(月)	岡 俊一	術前評価	麻酔に影響を与える患者背景を理解する。
12	1月25日(月)	岡 俊一	心機能評価	循環に影響する麻酔薬と患者背景との関連を学ぶ。
13	2月1日(月)	岡 俊一	麻酔選択	手術部位、患者背景から最適の麻酔を選択するための基本を学ぶ。
14	2月8日(月)	岡 俊一	モニター	麻酔中に患者から発せられる情報をいかに解釈するかを学ぶ。
15	2月15日(月)	岡 俊一	心肺蘇生	生体が危機的状況におかれる際の病態生理を理解し、対処法の根拠を理解する。

授業科目：口腔生化学，生化学

担当教員：鈴木直人，田邊奈津子，津田啓方

学年・学期：2年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

口腔生化学ならびに生化学に関する基礎的事項を理解する。また，生化学的実験手法についても修得する。さらに，最新の研究に関する文献を紹介し，関連分野に関しての理解を深める。

口腔生化学・生化学ならびに分子生物学分野の研究では，生体の発生・分化や疾病機構の解明とその治療法の開発など幅広い分野で「未知の世界に踏み込んで光明を見いだす喜び」を知ることができる。若いうちに研究生活の楽しさを是非とも味わって，生涯研修が必須である歯科医学への本格的参入に際して大いに役立ててもらいたいと考えている。

一般目標（GIO）：

口腔生化学・生化学に関する最新の知識を習得する。

到達目標（SBOs）：

1. 口腔生化学・生化学関連分野について理解を深める。
2. 生化学的実験手法を修得する。
3. 最新の文献に触れ，幅広い知識を身に付ける。

授業の方法：

講義形式で課題についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習)：

あらかじめ必要なプリントや文献はメール配信するので，事前に予習しておくこと。その日の講義終了時にディスカッションを行い，復習とする。

教材（教科書・参考書等）：

特に指定はない。適宜プリントを配布する。

成績評価の方法及び基準：

出席状況やディスカッションへの参加度で評価する。

オフィスアワー・e-mail：

鈴木 直人：月曜日～金曜日：12：00～13：00：suzuki.naoto@nihon-u.ac.jp

田邊奈津子：火曜日：17：00～18：00：tanabe.natsuko@nihon-u.ac.jp

津田 啓方：火曜日：17：00～18：00：tsuda.hromasa@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月2日(木)	鈴木 直人 他	各自の研究経過・課題 の発表	各自の研究経過, 研究課題を発表し, その後自由に質疑応答する。 CP4, CP6, DP6
2	4月9日(木)	鈴木 直人	生体の代謝①	生体を構成する物質とその代謝を複 習する。 CP4, DP4
3	4月16日(木)	鈴木 直人	生体の代謝②	生体を構成する物質とその代謝を複 習する。 CP4, DP4
4	4月23日(木)	鈴木 直人	結合組織	結合組織の構造と機能を復習する。 CP4, DP4
5	4月30日(木)	鈴木 直人	骨・軟骨の研究法	骨・軟骨研究へのアプローチ法を学 ぶ。 CP1, CP4, DP4
6	5月7日(木)	田邊奈津子	細胞生物学的研究法 ①	細胞培養の理論を学ぶ。 CP4, CP8, DP4
7	5月14日(木)	田邊奈津子	細胞生物学的研究法 ②	細胞培養の基本操作を学ぶ。 CP3, CP4, CP8, DP4
8	5月28日(木)	鈴木 直人	タンパク質研究法①	タンパク質の取り扱いを学ぶ。 SDS-PAGEの原理を学ぶ。 CP3, CP4, CP8, DP4
9	6月4日(木)	鈴木 直人	タンパク質研究法②	Western-blot, ELISA, 等電点電気泳 動の原理を学ぶ。 CP3, CP4, CP8, DP4
10	6月11日(木)	鈴木 直人	タンパク質研究法③	免疫沈降, プロテインチップの原理に ついて学ぶ。 CP3, CP4, CP8
11	6月18日(木)	津田 啓方	分子生物学関連実験 ①	遺伝子発現を調べる方法や大腸菌の 取り扱いを学ぶ。 CP3, CP4, CP8, DP4
12	6月25日(木)	津田 啓方	分子生物学関連実験 ②	遺伝子組換え理論と技術を習得する。 CP3, CP4, CP8, DP4
13	7月2日(木)	津田 啓方	分子生物学関連実験 ③	Gain of function と loss of function の理論と技術を学ぶ。 CP3, CP4, CP8, DP4
14	7月9日(木)	鈴木 直人 他	ディスカッション	関連分野研究のトピックスを紹介し, 研究内容についてディスカッション する。CP4, CP6, DP6
15	7月16日(木)	鈴木 直人 他	総括ならびに自由討 論	講義・演習を今後の研究にどのように 応用するかを各自で発表する。 CP1, CP4, CP6, CP8, DP6

授業科目：口腔病理学

担当教員：浅野正岳

学年・学期：2年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

病理診断の基本的なプロセスを理解し、病理診断の実際を学ぶ。研究論文の読み方を習得し、研究計画および分析方法の原理と実際を学ぶ。また、病理学および免疫学、分子生物学の研究における基礎技術を修得する。

一般目標（GIO）：

自ら研究テーマを立案し実行できる能力の習得を目指す。

到達目標（SBOs）：

論文の抄読などを通じて研究テーマの設定と、その目的遂行のための実験手技を習熟し、論文執筆ができる。

授業の方法：

論文の抄読を行う。また、培養細胞を用いて、免疫学および分子生物学的実験手技を身につける。

準備学習(予習・復習)：

口腔病理全般について基礎的内容を復習すること。

教材（教科書・参考書等）：

教科書：なし

参考書：なし

成績評価の方法及び基準：

出席に加えて論文読解力と討論の結果を評価する。

オフィスアワー・e-mail：

浅野 正岳：月曜日 17：00-18：00 asano.masatake@nihon-u.ac.jp

注意事項

受講前に教員とコンタクトして、授業の会場を確認すること。

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月3日(金)	浅野 正岳	研究計画	自らの研究テーマ決定について説明し、具体的な研究の進め方についての討論を行う。
2	4月10日(金)	浅野 正岳	alarmin とは	学術論文読解能力の向上を目的として、alarmin に関する論文を抄読する。
3	4月17日(金)	浅野 正岳	細胞死について	論文読解能力の向上を目的として、細胞死に関する総説論文を抄読する。
4	4月24日(金)	浅野 正岳	脳梗塞モデル	総頸動脈結紮による脳梗塞モデルラットの作成を行う。また灌流固定の手技を習得する。
5	5月1日(金)	浅野 正岳	脳梗塞における alarmin	脳梗塞モデルラットの脳組織や、その他の組織の摘出と、これらを用いた病理組織標本の作製について学ぶ。
6	5月8日(金)	浅野 正岳	二重染色について	作成した病理標本を用いて免疫染色を行う。
7	5月15日(金)	浅野 正岳	機能水とは	電解酸性機能水の概要について学修し、細胞培養技術を習得する。
8	5月22日(金)	浅野 正岳	機能水の生物学的機能	培養細胞に電解酸性機能水を作用させ、その後の細胞溶解液の作製や、培養上清の処理について学ぶ。
9	5月29日(金)	浅野 正岳	機能水の生物学的機能	細胞に対する機能水の効果を brain heart infusion 培養などを用いて判定する。
10	6月5日(金)	浅野 正岳	分子生物学的研究手法	電解酸性機能水を作用させた培養細胞からの RNA の抽出を行う。
11	6月12日(金)	浅野 正岳	分子生物学的研究手法	得られた RNA を用いて cDNA を作成し、real-time PCR の手技を習得する。
12	6月19日(金)	浅野 正岳	分子生物学的研究手法	電解酸性機能水を時間を変えて作用させた培養細胞から、ゲノム DNA を抽出し、定量する。
13	6月26日(金)	浅野 正岳	分子生物学的研究手法	DNA の電気泳動や、その観察の実際について学ぶ。
14	7月3日(金)	浅野 正岳	分子生物学的研究手法	各種 alarmin 遺伝子の発現変化について、習得した real-time PCR を用いて比較検討する。
15	7月10日(金)	浅野 正岳	討 論	最初に立案した自らの研究テーマに、本科目で学修した内容を、どのように活用し得るかという点について、総合的な討論を行う。

授業科目：歯科理工学

担当教員：米山隆之，小泉寛恭，深瀬康公

学年・学期：2年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

歯科理工学は、歯科医療の中で使用する様々な材料および器械・器具について、その性質や構造および性能などを物理学、化学、生物学および生体安全性の立場から研究する学問である。したがって、研究開発においては、材料・機器を取り扱うすべての歯科臨床系分野と結びついているばかりでなく、一般工業界とも密接な関係を持っている。このような背景を認識し、新しい歯科材料・生体材料の開発および応用研究、新技術の開発と理論的考察を通じ、歯科医学における研究活動の基盤となる学識を修得するとともに、歯科医学の発展に寄与しうる研究指導者としての能力を養成する。

一般目標（GIO）：

1. 歯科臨床における材料の重要性を理解し、その選択基準を判断する。
2. 材料の性質についての詳細を知り、その評価方法を理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 歯科臨床における材料の重要性を理解し、その選択基準を判断し、応用できるようになる。
2. 材料の性質についての詳細を知り、その評価方法を選択できるようになる。

授業の方法：

本講義では、歯科材料および生体材料に求められる特性を理解するとともに、それらの解明に当たって基本となる材料の機械的性質、熱的性質および組成分析手法、表面性状の試験法に関する理論と実際について学ぶ。

準備学習(予習・復習)：

テーマに関する内容について、参考書等によって、授業相当時間予習および復習すること。

教材（教科書・参考書等）：

1. スタンダード歯科理工学，学建書院
2. 分析機器の手引き 日本分析機器工業会

成績評価の方法及び基準：

歯科生体材料に関する理解度および受講態度により総合的に評価する。

オフィスアワー・e-mail：

米山 隆之：火曜日 17：00～18：00・yoneyama.takayuki@nihon-u.ac.jp

小泉 寛恭：火曜日 17：00～18：00・koizumi.hiroyasu@nihon-u.ac.jp

深瀬 康公：火曜日 17：00～18：00・fukase.yasumasa@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月6日(火)	米山 隆之	生体材料の性質1	生体材料の機械的・物理的性質について説明できる。
2	10月13日(火)	米山 隆之	生体材料の性質2	生体材料の化学的・生物学的性質と生体適合性について説明できる。
3	10月20日(火)	米山 隆之	インプラント材料	歯科用および生体用インプラント材料について説明できる。
4	10月27日(火)	米山 隆之	生体用チタン合金1	歯科用および生体用チタン, チタン合金について説明できる。
5	11月10日(火)	米山 隆之	生体用チタン合金2	歯科用および生体用形状記憶合金, 超弾性合金について説明できる。
6	11月17日(火)	深瀬 康公	機器分析・物性測定総論	当歯科理工学講座などで使用可能な機器分析及び物性測定の概要について説明できる。
7	11月24日(火)	深瀬 康公	データ処理, 統計学	測定したデータの処理方法について説明できる。
8	12月1日(火)	米山 隆之	IR, HPLC	IRおよびHPLCを用いた同定と解析について説明できる。
9	12月8日(火)	深瀬 康公	X線回折	X線回折を用いた物質の同定と解析について説明できる。
10	12月15日(火)	深瀬 康公	表面分析	表面性状の定義およびパラメータ, 表面性状の解析について説明できる。
11	12月22日(火)	米山 隆之	蛍光X線, EPMA	蛍光X線およびEPMAで解析できる情報について説明できる。
12	1月12日(火)	小泉 寛恭	熱分析	示差熱分析, 熱重量分析, 熱機械分析について説明できる。
13	1月19日(火)	小泉 寛恭	材料試験法規格	生体材料の力学的試験法について国際規格から説明できる。
14	1月26日(火)	米山 隆之	生体材料規格	生体材料の所要性質について国際規格から説明できる。
15	2月9日(火)	米山 隆之	試験機器	材料試験の機器について説明できる。

授業科目：保存修復学（一般）

担当教員：宮崎真至，陸田明智，黒川弘康，高見澤俊樹，辻本暁正

学年・学期：3年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

齲蝕およびこれに関連する硬組織疾患の発症からその処置法に関する知識を得るとともに、**Minimal Intervention** という治療概念のもとに、保存修復学的見地からの基礎ならびに臨床的知識を統合させることを目的としている。すなわち、齲蝕に関連する硬組織疾患の疫学ならびに病理組織学的背景を理解するとともに、臨床的には再石灰化療法を含めて、的確な診断ならびに治療方針の立案にあたって求められる科学的根拠を提示する能力を獲得する。さらに、歯質接着性材料を含めた修復材について、それらの生体材料としての特性および最新の臨床技法について理解を深めるとともに、各種修復材の物理試験、接着試験あるいは生体安全性試験の方法を理解し、研究計画を立案、これを行う。

一般目標（GIO）：

Minimal Intervention という治療概念とともに最新の予防および修復材料について学び、その適切な使用法と評価法を知ることによって、科学的根拠に基づいた齲蝕制御法を理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 齲蝕の予防法を適切に説明できる。
2. 齲蝕の治療法あるいは管理法を適切に選択できる。
3. 齲蝕の治療・管理に関わる材料を適切に説明できる。
4. 臨床予後に関する評価法を適切に説明できる。

授業の方法：

研究論文の抄読，グループ討論ならびに学会への参加を通して自らの研究テーマについての研究計画を立案し、それにしたがって実施する。

準備学習(予習・復習)：

事前に参考書を読んで授業内容を理解しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

1. テーマに即した英語論文あるいは専門図書を必要に応じて提示する。
2. 参考書：The Art and Science of Operative Dentistry (Mosby), Tooth-Colored Restoratives (Alto Books), Adhesive Technologies for Restorative Dentistry (Quintessence)

成績評価の方法及び基準：

論文抄読における理解度ならびにグループ討論への積極的参加と発言内容を総合的に評価する。また、実験計画の立案とそれに沿った研究を行う能力に関して、これを論文としてまとめることによって評価する。なお、論文は言語として英語を用いることが望ましい。

オフィスアワー・e-mail：

宮崎 真至：月曜日 17：00～18：00 miyazaki.masashi@nihon-u.ac.jp

陸田 明智：月曜日 17：00～18：00 rikuta.akitomo@nihon-u.ac.jp

黒川 弘康：月曜日 17：00～18：00 kurokawa.hiroyasu@nihon-u.ac.jp

高見澤俊樹：月曜日 17：00～18：00 takamizawa.toshiki@nihon-u.ac.jp

辻本 暁正：月曜日 17：00～18：00 tsujimoto.akimasa@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月6日(月)	宮崎 真至	修復治療総論	今日の臨床における保存修復治療の位置づけを学修する。
2	4月13日(月)	陸田 明智	酸蝕歯に診断・病因・病態	酸蝕歯のリスク診断・病因・病態について学修する。
3	4月20日(月)	陸田 明智	酸蝕歯の治療方針	酸蝕歯の治療方針について学修する。
4	4月27日(月)	陸田 明智	各種修復材料の接着試験	各種修復材料の接着試験法について学修する。
5	5月11日(月)	黒川 弘康	齲蝕のリスク管理・予防	齲蝕のリスク管理と予防法について学修する。
6	5月18日(月)	黒川 弘康	非齲窩性病変への対応	再石灰化療法を用いた非齲窩性病変への対応について学修する。
7	5月25日(月)	黒川 弘康	初期齲蝕の診断法	光干渉断層画像診断法を用いた初期齲蝕の診断法について学修する。
8	6月1日(月)	高見澤俊樹	根面齲蝕の診断・病因・病態	根面齲蝕のリスク診断・病因・病態について学修する。
9	6月8日(月)	高見澤俊樹	根面齲蝕の治療方針	根面齲蝕の治療方針について学修する。
10	6月15日(月)	高見澤俊樹	各種修復材料の物理的試験	各種修復材料の物理的試験法について学修する。
11	6月22日(月)	辻本 暁正	審美修復治療	最新の審美修復処置法について学修する。
12	6月29日(月)	辻本 暁正	デジタルデンティストリー修復	最新のデジタルデンティストリー修復法について学修する。
13	7月6日(月)	辻本 暁正	Web Resource の利用法	各種 Web Resource を利用して研究に必要な情報の収集法を習得する。
14	7月13日(月)	宮崎 真至	総合討論 (1)	Minimal Intervention の概念に基づいた治療についてグループディスカッション形式で検討する。
15	7月20日(月)	宮崎 真至	総合討論 (2)	最近の修復材料の材料特性についてグループディスカッション形式で検討する。

授業科目：保存修復学（社会人）

担当教員：宮崎 真至，陸田 明智，黒川 弘康，高見澤俊樹，辻本 暁正

学年・学期：2年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

齲蝕およびこれに関連する硬組織疾患の発症からその処置法に関する知識を得るとともに、**Minimal Intervention** という治療概念のもとに、保存修復学的見地からの基礎ならびに臨床的知識を統合させることを目的としている。すなわち、齲蝕に関連する硬組織疾患の疫学ならびに病理組織学的背景を理解するとともに、臨床的には再石灰化療法を含めて、的確な診断ならびに治療方針の立案にあたって求められる科学的根拠を提示する能力を獲得する。さらに、歯質接着性材料を含めた修復材について、それらの生体材料としての特性および最新の臨床技法について理解を深めるとともに、各種修復材の物理試験、接着試験あるいは生体安全性試験の方法を理解し、研究計画を立案、これを行う。

一般目標（GIO）：

Minimal Intervention という治療概念とともに最新の予防および修復材料について学び、その適切な使用法と評価法を知ることによって、科学的根拠に基づいた齲蝕制御法を理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 齲蝕の予防法を適切に説明できる。
2. 齲蝕の治療法あるいは管理法を適切に選択できる。
3. 齲蝕の治療・管理に関わる材料を適切に説明できる。
4. 臨床予後に関する評価法を適切に説明できる。

授業の方法：

研究論文の抄読，グループ討論ならびに学会への参加を通して自らの研究テーマについての研究計画を立案し、それにしたがって実施する。

準備学習(予習・復習)：

事前に参考書を読んで授業内容を理解しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

1. テーマに即した英語論文あるいは専門図書を必要に応じて提示する。
2. 参考書：The Art and Science of Operative Dentistry (Mosby), Tooth-Colored Restoratives (Alto Books), Adhesive Technologies for Restorative Dentistry (Quintessence)

成績評価の方法及び基準：

論文抄読における理解度ならびにグループ討論への積極的参加と発言内容を総合的に評価する。また、実験計画の立案とそれに沿った研究を行う能力に関して、これを論文としてまとめることによって評価する。なお、論文は言語として英語を用いることが望ましい。

オフィスアワー・e-mail：

宮崎 真至：月曜日 17：00～18：00 miyazaki.masashi@nihon-u.ac.jp

陸田 明智：月曜日 17：00～18：00 rikuta.akitomo@nihon-u.ac.jp

黒川 弘康：月曜日 17：00～18：00 kurokawa.hiroyasu@nihon-u.ac.jp

高見澤俊樹：月曜日 17：00～18：00 takamizawa.toshiki@nihon-u.ac.jp

辻本 暁正：月曜日 17：00～18：00 tsujimoto.akimasa@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月4日(土)	宮崎 真至	修復治療総論	今日の臨床における保存修復治療の位置づけを学修する。
2	4月11日(土)	陸田 明智	酸蝕歯に診断・病因・病態	酸蝕歯のリスク診断・病因・病態について学修する。
3	4月18日(土)	陸田 明智	酸蝕歯の治療方針	酸蝕歯の治療方針について学修する。
4	4月25日(土)	陸田 明智	各種修復材料の接着試験	各種修復材料の接着試験法について学修する。
5	5月9日(土)	黒川 弘康	齲蝕のリスク管理・予防	齲蝕のリスク管理と予防法について学修する。
6	5月23日(土)	黒川 弘康	非齲窩性病変への対応	再石灰化療法を用いた非齲窩性病変への対応について学修する。
7	5月30日(土)	黒川 弘康	初期齲蝕の診断法	光干渉断層画像診断法を用いた初期齲蝕の診断法について学修する。
8	6月6日(土)	高見澤俊樹	根面齲蝕の診断・病因・病態	根面齲蝕のリスク診断・病因・病態について学修する。
9	6月13日(土)	高見澤俊樹	根面齲蝕の治療方針	根面齲蝕の治療方針について学修する。
10	6月20日(土)	高見澤俊樹	各種修復材料の物理的試験	各種修復材料の物理的試験法について学修する。
11	6月22日(土)	辻本 暁正	審美修復治療	最新の審美修復処置法について学修する。
12	6月27日(土)	辻本 暁正	デジタルデンティストリー修復	最新のデジタルデンティストリー修復法について学修する。
13	7月4日(土)	辻本 暁正	Web Resource の利用法	各種 Web Resource を利用して研究に必要な情報の収集法を習得する。
14	7月11日(土)	宮崎 真至	総合討論 (1)	Minimal Intervention の概念に基づいた治療についてグループディスカッション形式で検討する。
15	7月18日(土)	宮崎 真至	総合討論 (2)	最近の修復材料の材料特性についてグループディスカッション形式で検討する。

授業科目：歯内療法学

担当教員：武市 収，林 誠，清水康平，勝呂 尚，羽鳥啓介，鈴木裕介

学年・学期：3年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

新しい器具や材料の開発，術式の改善といった歯内療法学の急速な発展に伴い，歯内治療が適応される疾患の領域も拡大している。そこで本授業では，最先端の研究情報を分析し，歯内療法で応用される最新の器械・器材・治療手技などを理解するとともにさらなる発展を追求することを目的とする。

一般目標（GIO）：

最新歯内療法の手技・器具・機材・薬剤などの基本的な使用法について知る。

到達目標（SBOs）：

1. 歯髄や根尖歯周組織に生じた病態を説明できる。
2. 最新の機器を用いた診査法を説明できる。
3. 最新の根管拡大用機器の使用法と注意点について説明できる。
4. 最新の根管洗浄用機器の使用法について説明できる。
5. 最新の根管充填用機器の使用法と適応症について説明できる。
6. 歯痛のメカニズムとその対処法について説明できる。

授業の方法：

講義・実習および見学

準備学習(予習・復習)：

下記教材を事前に熟読すること

教材（教科書・参考書等）：

Pathway of the Pulp 11th, Kenneth Hargreaves, Stephen Cohen (eds)

Endodontology, Domenico Ricucci (ed)

成績評価の方法及び基準：

授業に対する意欲，研究提出物，レポート，口頭試問などによる総合的評価

オフィスアワー・e-mail：

武市 収	：月曜日	17：00~18：00	takeichi.osamu@nihon-u.ac.jp
林 誠	：月曜日	17：00~18：00	hayashi.makoto53@nihon-u.ac.jp
清水 康平	：月曜日	17：00~18：00	shimizu.kouhei01@nihon-u.ac.jp
勝呂 尚	：月曜日	17：00~18：00	suguro.hisashi@nihon-u.ac.jp
羽鳥 啓介	：月曜日	17：00~18：00	hatori.keisuke@nihon-u.ac.jp
鈴木 裕介	：月曜日	17：00~18：00	suzuki.yusuke@nihon-u.ac.jp
安川 拓也	：月曜日	17：00~18：00	yasukawa.takuya@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月6日(月)	武市 収	象牙質・歯髄複合体の考え	象牙質・歯髄複合体の概念について学修する。
2	4月13日(月)	武市 収	根尖歯周組織の病理	創傷治癒における免疫担当細胞の役割について学修する。
3	4月20日(月)	勝呂 尚	解剖学的形態と病態診断	マイクロスコープ, SEM, マイクロCTの操作法, 解析, 読影について学修する。
4	4月27日(月)	林 誠	新しい診査診断法	非接触型電磁式加振装置の診断機構について学修する。
5	5月11日(月)	武市 収	超弾性ファイルによる根管拡大形成法	各種ニッケルチタン製ロータリーファイルの特徴, 使用法について学修する。
6	5月18日(月)	羽鳥 啓介	根管消毒	水酸化カルシウム, ヒドロキシラジカル等の消毒作用機序について学修する。
7	5月25日(月)	林 誠	根管充填	GPを用いた3-D obturationと新しい根管充填法について学修する。
8	6月1日(月)	武市 収	新しい根管治療薬	MTA, MTAD, 3MIXの生物学的作用とその作用機序について学修する。
9	6月8日(月)	勝呂 尚	歯の外傷	外傷歯に対する歯内療法的対応法, とくに歯髄への対処法を学ぶ。
10	6月15日(月)	勝呂 尚	レーザー歯内療法	高出力, 低出力レーザーの歯内療法への応用, その特性と使用上の留意点を理解する。
11	6月22日(月)	清水 康平	歯 痛	う蝕, 歯髄炎, 根尖性歯周炎など歯痛の生理学的メカニズムについて学修する。
12	6月29日(月)	清水 康平	特殊な歯痛	前回の講義内容を基本として歯原性歯痛および異所性疼痛について学ぶ。
13	7月6日(月)	林 誠	外科的歯内療法	根尖切除術など外科的歯内療法について臨床症例見学も含めて症例選択, 外科的手技を理解する。
14	7月13日(月)	鈴木 裕介	偶発症対策	ケースプレゼンテーション 歯内療法領域で発生する偶発症ならびに対処法について症例から学ぶ。
15	7月20日(月)	羽鳥 啓介	歯髄・歯周疾患の再生治療	最新の歯髄再生療法の考え方, 組織誘導修復技術について文献考察を交えて学修する。

授業科目：歯周病学

担当教員：佐藤秀一，菅野直之，吉沼直人，高山忠裕，西田哲也，蓮池 聡，間中総一郎

学年・学期：3年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

歯周病学に関する基礎的ならびに臨床的な知識を整理，理解する。とくに，歯周治療に関して，最新で高度な治療術式については具体的な治療症例を講義形式で学修する。講義後，それらの学修について指導教員と議論・検討することで理解を深める。

一般目標（GIO）：

歯周病学ならびに歯周治療学に関する最新の知識を学修し理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 歯周病の原因，検査，診断について理解する。
2. 歯周治療の治療術式について理解する。
3. 高度で先端的な歯周治療について理解する。
4. 歯周病学の最新の研究について理解する。

授業の方法：

講義形式で課題についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習)：

指定の教科書，参考書を事前に予習しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

臨床歯周病学，ザ・ペリオドントロジー，歯周治療の指針（2015），歯周病と全身の健康，糖尿病患者に対する歯周治療のガイドライン，歯周病患者における再生治療のガイドライン，歯周病患者における抗菌療法の指針，歯周病患者における口腔インプラント治療指針およびエビデンス 2018，適宜プリント配布

成績評価の方法及び基準：

出席状況や態度，各テーマに関する質疑応答などを総合して評価。

オフィスアワー・e-mail：

佐藤 秀一：月曜日：17：00～18：00：satou.shuuichi@nihon-u.ac.jp

菅野 直之：月曜日：17：00～18：00：sugano.naouki@nihon-u.ac.jp

高山 忠裕：月曜日：17：00～18：00：takayama.tadahiro@nihon-u.ac.jp

西田 哲也：月曜日：17：00～18：00：nishida.teysuya@nihon-u.ac.jp

蓮池 聡：月曜日：17：00～18：00：hasuike.akira@nihon-u.ac.jp

間中総一郎：月曜日：17：00～18：00：manaka.souichiro@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月3日(金)	佐藤 秀一	歯周病学総論	歯周病学の全般の考え方を総括し、理解する。
2	4月10日(金)	菅野 直之	歯周病の検査・診断	歯周病の検査・診断・治療計画について症例通じて理解する。
3	4月17日(金)	間中総一郎	歯周基本治療	歯周基本治療の実際を具体的な症例を通して理解する。
4	4月24日(金)	菅野 直之	ペリオドンタル メディスン	歯周病と全身疾患の関係について、その研究背景や理論を理解する。
5	5月8日(金)	佐藤 秀一	歯周外科総論	現在の歯周外科手術の概念と分類について理解する。
6	5月15日(金)	高山 忠裕	歯周外科器具・器材	各種の歯周外科手術で使用する器具・器材について理解する。
7	5月22日(金)	高山 忠裕	切除療法	切除療法について理解する。
8	5月29日(金)	吉沼 直人	組織付着療法	組織付着療法について理解する。
9	6月5日(金)	佐藤 秀一	歯周組織再生療法	歯周組織再生療法について理解する。
10	6月12日(金)	西田 哲也	歯周形成手術	歯周形成手術について理解する。
11	6月19日(金)	蓮池 聡	根分岐部病変の治療	根分岐部病変の治療法について理解する。
12	6月26日(金)	西田 哲也	口腔機能回復治療	口腔機能回復治療について理解する。
13	7月3日(金)	吉沼 直人	SPT・メンテナンス	SPTとメンテナンスについて理解する。
14	7月10日(金)	西田 哲也	インプラント治療	歯周病患者に対して行うインプラント治療について理解する。
15	7月17日(金)	菅野 直之	トピックス	これからの歯周治療の方向性や考え方を理解する。

授業科目：総義歯補綴学

担当教員：飯沼利光，高津匡樹，池田貴之，李 淳，浦田健太郎，西尾健介

学年・学期：3年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

全身的な疾病や障害を有する高齢者の歯科治療を安全かつ効率的に行うための対応法あるいは注意点について具体的症例をもとに学ぶ。さらに，超高齢者の口腔機能の改善が，健康寿命の延伸にもたらす影響について学ぶ。

一般目標（GIO）：

超高齢社会を迎えた我が国において，口腔機能の管理が健康寿命の延伸に及ぼす影響を学び，実践のための具体的な方略を提案する。

到達目標（SBOs）：

1. 加齢がもたらす口腔機能の変化についてその特徴を理解する。
2. 高齢者の口腔機能変化について診査・診断を行う。
3. 高齢者の口腔機能が全身の健康に及ぼす影響を説明できる。
4. 口腔機能の低下が栄養摂取状態に及ぼす影響を説明できる。

授業の方法：

副科目講座ならびに関連分野の指導教員が，各自の研究課題遂行のために必要な講義，研究データへの分析，その結果についての検討会を通じて研究指導を行う。

準備学習(予習・復習)：

予習：口腔機能を分析するための具体的な方法について，教科書あるいは論文等から学ぶ。
授業：授業で享受された内容について，模擬データを基に統計的手法を用いて分析する。

教材（教科書・参考書等）：

歯科補綴学，高齢者歯科学さらに関連分野の学術誌や教科書ならびに参考書などを用いる。

成績評価の方法及び基準：

各自の研究課題の進捗状況に応じてディスカッションを行い，研究内容および達成度等について総合的に評価を行う。さらに，学会発表等での第三者による評価を参考とし成績評価，判定を行う。

オフィスアワー・e-mail：

飯沼 利光：iinuma.toshimitsu@nihon-u.ac.jp

高津 匡樹：takatu.masaki@nihon-u.ac.jp

池田 貴之：ikedata.kayuki@nihon-u.ac.jp

李 淳：lee.jun@nihon-u.ac.jp

浦田健太郎：urata.kenntarou@nihon-u.ac.jp

西尾 健介：nishio.kennsuke@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月9日(木)	飯沼 利光	超高齢社会の現状	社会の高齢化が日本経済や日本の福祉政策に及ぼす影響を理解する。
2	4月16日(木)	飯沼 利光	高齢社会での社会福祉の在り方の検討	高齢者健康維持あるいは増進に向けた医療制度の実際について理解する。
3	4月23日(木)	高津 匡樹	加齢に伴う口腔機能の変化	歯の喪失に伴う咬合機能の変化や、これが顎関節に及ぼす影響を理解する。
4	5月7日(木)	池田 貴之	失われた口腔機能回復への対応	高齢者へのインプラント処置応用の可能性とそのリスクを理解する。
5	5月14日(木)	李 淳	加齢による神経筋機構の変化Ⅰ	動物実験から加齢が神経筋機構に及ぼす影響を理解する。
6	5月28日(木)	李 淳	加齢による神経筋機構の変化Ⅱ	動物実験から加齢が神経筋機構に及ぼす影響を理解する。
7	6月4日(木)	浦田健太郎	加齢による不定愁訴への対応Ⅰ	動物実験から加齢が痛みの認知に及ぼす影響を理解する。
8	6月11日(木)	浦田健太郎	加齢による不定愁訴への対応Ⅱ	動物実験から加齢が痛みの認知に及ぼす影響を理解する。
9	6月18日(木)	西尾 健介	総義歯を用いた口腔機能回復の実際Ⅰ	高齢総義歯装着への口腔機能検査を体験し、その重要性を理解する。
10	7月2日(木)	西尾 健介	総義歯を用いた口腔機能回復の実際Ⅱ	高齢総義歯装着への口腔機能検査を実施し、機能評価が行える。
11	7月9日(木)	飯沼 利光	口腔衛生状態と全身疾患との関連	総義歯に付着した細菌が全身状態に及ぼす影響を理解する。
12	7月16日(木)	西尾 健介	高齢者の口腔機能と栄養摂取Ⅰ	高齢者の健康維持に必須な食品・栄養素について理解する。
13	7月30日(木)	西尾 健介	高齢者の口腔機能と栄養摂取Ⅱ	高齢者の疫学データを基に、微細栄養素摂取と生命予後についての関連性を理解する。
14	9月10日(木)	飯沼 利光	健康寿命と口腔機能との関連性の検討Ⅰ	高齢者の疫学研究の進め方について理解する。
15	9月17日(木)	飯沼 利光	健康寿命と口腔機能との関連性の検討Ⅱ	実際に測定を行ったデータを基に解析を来ない両者の関連性について説明できる。

授業科目：局部床義歯学

担当教員：月村直樹，大山哲生，秋田大輔

<p>学年・学期：3年次・前期 単位：4単位</p>
<p>授業の概要： 補綴学は歯科臨床において、欠損に対し頻度が多く行われている学問であり、その最前線の治療を提供するにあたり、種々の分野との関連性を学ぶ必要がある。広域な補綴学の応用を理解し、新しい発想で補綴学を見直す。</p>
<p>一般目標（GIO）： 1. 顎顔面補綴治療とスポーツ歯学の治療について理解する。 2. 磁性アタッチメントの義歯への応用を理解する。 3. 再生医療の補綴治療への取り組みを理解する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 顎顔面補綴治療とスポーツ歯学の治療計画を立てることができる。 2. 磁性アタッチメントを用いた義歯設計ができる。</p>
<p>授業の方法： スライドを使用した講義と少人数でのディスカッション</p>
<p>準備学習(予習・復習)： 予習については授業シラバスの内容を確認し、参考書により目的を理解しておくこと。復習は、個々に教科書を読み理解を深め、わからないことは質問をする。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 顎顔面リハビリテーション：田代英雄，大山 喬訳；クインテッセンス出版 続・磁性アタッチメント 108 問 108 答：田中貴信；医歯薬出版 磁性アタッチメントの臨床 - 症例から学ぶ実践テクニック：石上友彦；口腔保険協会 要説スポーツ歯科医学：石上恵一，上野俊明，川良美佐雄，前田芳信，安井利一編集；医学情報社</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 出席と口頭試問で評価する。</p>
<p>オフィスアワー・e-mail： 月村 直樹：火曜日 17：00～18：00 tsukimura.naoki@nihon-u.ac.jp 大山 哲生：火曜日 17：00～18：00 ohyama.tetsuo@nihon-u.ac.jp 秋田 大輔：火曜日 17：00～18：00 akita.daisuke10@nihon-u.ac.jp</p>

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月8日(水)	月村 直樹	補綴材料学	補綴材料の特性を知る。
2	4月15日(水)	月村 直樹	補綴材料学	顎機能と補綴装置の関連性を知る。
3	4月22日(水)	大山 哲生	補綴の問題点	材料特性, コンピュータを用いたデジタル・デンティストリーの可能性について知る。
4	5月13日(水)	大山 哲生	顎顔面補綴	顎顔面補綴学の概要と領域について学ぶ。
5	5月20日(水)	大山 哲生	顎顔面補綴	上下顎顎義歯について学ぶ。
6	5月27日(水)	大山 哲生	顎顔面補綴	他科とのチームアプローチについて学ぶ。
7	6月3日(水)	月村 直樹	磁気歯科学	磁性アタッチメントの基礎について学ぶ。
8	6月10日(水)	大山 哲生	磁気歯科学	磁気特性について学ぶ。
9	6月17日(水)	月村 直樹	磁気歯科学	磁性アタッチメントの臨床応用について学ぶ。
10	6月24日(水)	月村 直樹	再生歯学	再生医学の歯科への応用について学ぶ。
11	7月1日(水)	秋田 大輔	再生歯学	骨再生並びに歯周組織再生について学ぶ
12	7月8日(水)	月村 直樹	スポーツ歯科医学	スポーツ歯学の概要について知る。
13	7月15日(水)	月村 直樹	スポーツ歯科医学	スポーツ外傷の種類を知る。
14	7月22日(水)	月村 直樹	スポーツ歯科医学	マウスガードとフェイスガードの外傷予防について学ぶ。
15	7月29日(水)	月村 直樹	スポーツ歯科医学	スポーツにおける歯科医(スポーツデンティスト)の役割について学ぶ。

授業科目：クラウン・ブリッジ学

担当教員：松村英雄，萩原芳幸，小峰 太，野川博史，本田順一，平場晴斗，小平晃久

学年・学期：3年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

本科目は歯科補綴学の中における歯冠補綴学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学の分野を対象とする。研究科修了時までには，所属分野における教育者，研究者，臨床医として独立して業務を遂行するに足る能力を修得することを目標として学修する。

大学歯学部，歯学系研究科における所属分野と補綴の関連事項について，教育の方法論等を学修する。

学位請求論文に関係する歯科補綴学の内容について学修する。

歯科補綴学領域における基本的，先進的技法について学修する。

一般目標（GIO）：

歯冠補綴学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学に関する知識を習得する。

到達目標（SBOs）：

1. 歯冠修復学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学の基礎知識を臨床に応用できる。
2. 研究内容を歯科臨床に反映できる。
3. 独創的かつ新規性のある研究を行うことができる。

授業の方法：

講義，演習，討論および報告書作成とする。

準備学習(予習・復習)：

教員が資料を配付する。

資料をもとに予習と復習を行い，報告書を作成する。

教材（教科書・参考書等）：

歯冠補綴学，架橋義歯補綴学および固定性義歯補綴学分野の学術雑誌等

成績評価の方法及び基準：

講義，演習，討論等への出席と提出された報告書について，理解度，到達度を総合的に評価する。

オフィスアワー・e-mail：

松村 英雄：金曜日：17：00～18：00：matsumura.hideo@nihon-u.ac.jp

萩原 芳幸：金曜日：17：00～18：00：hagiwara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

小峰 太：金曜日：17：00～18：00：komine.futoshi@nihon-u.ac.jp

野川 博史：金曜日：17：00～18：00：nogawa.hiroshi@nihon-u.ac.jp

本田 順一：金曜日：17：00～18：00：honda.junichi@nihon-u.ac.jp

平場 晴斗：金曜日：17：00～18：00：hiraba.haruto@nihon-u.ac.jp

小平 晃久：金曜日：17：00～18：00：kodaira.akiyuki@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月14日(火)	松村 英雄 萩原 芳幸	咬耗, 摩耗と固定性補綴	咬合の経年的変化に対応した補綴装置の選択について学ぶ。歯の咬耗, 歯冠修復材料の表面性状と摩耗の関係について理解する。
2	4月21日(火)	松村 英雄 小峰 太	固定性補綴の支台歯形成	補綴難症例における支台歯形成のポイントについて学ぶ。開口障害患者, 大臼歯遠心面, 智歯支台歯, 分割歯, CAD/CAM 冠の形成などを理解する。
3	4月28日(火)	松村 英雄 野川 博史	固定性補綴の印象採得	従来型の印象採得方法に加え, 光学印象の理論と術式について理解する。
4	5月12日(火)	松村 英雄 本田 順一	固定性補綴における顎間関係の記録	従来型の顎間関係の記録方法に加え, デジタルによる顎間関係記録の理論と術式について理解する。
5	5月19日(火)	松村 英雄 平場 晴斗	支台築造	症例, 部位に応じた支台築造法について, 適応, 術式, 材料の選択, 接着または装着, 支台歯としての活用, などを理解する。
6	5月26日(火)	松村 英雄 小峰 太	オールセラミック修復物	アルミナ, ジルコニアと陶材を用いた補綴処置について, 適応と禁忌, 術式, 材料の選択, 装着, 術後管理について理解する。
7	6月2日(火)	松村 英雄 小平 晃久	陶材焼付冠	審美的なメタルセラミックスの基本原則について, 頬側面のフィニッシュライン, フレームワークの構造, 対合関係について理解する。
8	6月9日(火)	松村 英雄 野川 博史	レジン前装冠	高密度フィラー充填型コンポジットレジンの前装, 外装材料として使用する際の適用, 表面性状の管理, 装置のメンテナンス等について学ぶ。
9	6月16日(火)	松村 英雄 本田 順一	ラミネートベニア	焼成陶材によるポーセレンラミネートベニアの支台歯形成, 外形の設計, エナメル質と陶材の表面処理, 装着材料の選択と使用方法等について学ぶ。
10	6月23日(火)	松村 英雄 平場 晴斗	コンポジットレジンクラウン	高密度フィラー充填型コンポジットレジンブロックとして使用するCAD/CAM 冠を中心に, 適用, 表面処理, 装着等について学ぶ。
11	6月30日(火)	松村 英雄 小平 晃久	オーバーキャストイング	多数歯にわたる固定性補綴装置の部分的補修について, 適応と禁忌, 術式, 使用材料等を理解する。
12	7月7日(火)	松村 英雄	接着ブリッジ	接着ブリッジについて, 侵襲の少ない形成, フレームワークの設計, エナメル質と貴金属合金の表面処理, 装着材料の使用法, 術後管理について学ぶ。

13	7月14日(火)	松村 英雄	固定性補綴関連の専門医と認定医(1)	歯科補綴学関連の専門医, 認定医制度の内容, 試験, 症例報告の基本, 取得条件, 研修等について学ぶ。
14	7月21日(火)	松村 英雄	固定性補綴関連の専門医と認定医(2)	歯科補綴学関連の専門医, 認定医制度の内容, 試験, 症例報告の基本, 取得条件, 研修等について学ぶ。
15	7月28日(火)	松村 英雄 井出 勝久	医療機器の承認, 認証と補綴処置	医療機器のクラス分類, 承認と認証など, 製品毎の設計検証と臨床歯科理工学の考え方を学ぶ。材料, 器械, 技術の健康保険適用についての理解を深める。

授業科目：口腔細菌学

担当教員：今井健一， 田村宗明， 神尾宜昌， 田中 一

学年・学期：2年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

「感染・免疫研究はなぜ必要か」，「感染症はなぜ無くならないか」など学部で修得した知識を基に，毎回のテーマに沿って各自のレベルで考え，対話し，理解を深める。

一般目標（GIO）：

微生物学ならびに感染症学に関する最新の知識を学修し理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 微生物学・免疫学に関する基礎的ならびに臨床的な知識を理解する。
2. 分子生物学実験および動物実験の手法を理解する。
3. 感染・免疫学分野の最新の研究について理解する。

授業の方法：

講義形式で課題についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習)：

テーマに関連した資料および英語文献等を配布するので，受講前に必ず熟読し理解しておくこと。
準備学習のための参考資料等が必要な場合は，事前に担当教員にコンタクトすること。

教材（教科書・参考書等）：

口腔微生物学－感染と免疫－ 第6版（学建書院）
医系免疫学（中外医学社）
戸田新細菌学（南山堂）

成績評価の方法及び基準：

受講態度や随時行う討論内容および授業での提出物を基に評価する。

オフィスアワー・e-mail：

今井 健一：木曜日 17:00 ～19:00：imai.kenichi@nihon-u.ac.jp
田村 宗明：木曜日 17:00 ～19:00：tamura.muneaki@nihon-u.ac.jp
神尾 宜昌：木曜日 17:00 ～19:00：kamio.noriaki@nihon-u.ac.jp
田中 一：木曜日 17:00 ～19:00：tanaka.hajime@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月2日(金)	今井 健一	微生物・免疫研究 その意義と実際(1)	「研究するとはどういうことか」について微生物の基礎知識を元に考える。
2	10月9日(金)	今井 健一	微生物・免疫研究 その意義と実際(2)	「感染するとはどういうことか」を講義と対話形式で進め、基礎知識を再確認し理解を深める。
3	10月16日(金)	今井 健一	微生物・免疫研究 その意義と実際(3)	口腔細菌が誘因となる全身疾患を理解する。出題テーマに関する討論とプレゼンテーション
4	10月23日(金)	今井 健一	分子生物学的手法を用いた微生物学研究の意義と実際 (1)	遺伝子組み換え実験の基礎を理解し、分子生物学および免疫学的実験手法がどのように微生物・免疫研究にとり入れられているかを学ぶ。
5	10月30日(金)	今井 健一	分子生物学的手法を用いた微生物学研究の意義と実際 (2)	微生物と宿主の遺伝子発現制御機構を理解する。微生物と宿主の相互作用および細菌とウイルスの共感染の観点から感染症を理解する。
6	11月6日(金)	今井 健一	分子生物学的手法を用いた微生物学研究の意義と実際 (3)	微生物・免疫分野におけるトピックスを学び、研究テーマの選択と研究の進め方について議論する。
7	11月13日(金)	田村 宗明	動物実験の実際と分子生物学的手法を用いた細菌検出	ラット歯周病実験モデルと分離菌の分子生物学による同定法の実際を学ぶ。
8	11月20日(金)	田村 宗明	分子生物学的手法を用いた細菌の同定	病原微生物の同定法における生物学性状試験と分子生物学的手法の実際を学ぶ。
9	11月27日(金)	田村 宗明	基礎研究の臨床応用 トランスレーショナルリサーチの実際	病原微生物の同定法における生物学性状試験と分子生物学的手法の実際を学ぶ。
10	12月4日(金)	神尾 宜昌	口腔細菌とインフルエンザ	口腔細菌とウイルスとの共感染がインフルエンザの重症化に与える影響を理解する。
11	12月11日(金)	神尾 宜昌	歯周病とメタボリックシンドローム	歯周病とメタボリックシンドロームの関係について、疫学研究や動物実験による研究などについて理解する。
12	12月18日(金)	神尾 宜昌	微生物間相互作用研究の実際	微生物研究で用いられる分子生物学および免疫学的実験手法を学ぶ。
13	12月25日(金)	田中 一	感染症と化学療法	化学療法薬の分類とその作用機序を理解し、感染症における化学療法の実際を理解する。
14	1月8日(金)	田中 一	口腔感染と化学療法	常在菌叢の特性を知ることにより有効な化学療法薬が選択できることを理解する。
15	1月15日(金)	今井 健一	まとめ	感染・免疫研究の内容を総合的に理解する。

授業科目：口腔衛生学

担当教員：川戸貴行，田中秀樹，中井久美子，尾崎愛美

<p>学年・学期：2年次・後期 単位：4単位</p>
<p>授業の概要： 口腔衛生学分野における疫学・細胞生物学研究の知識を学ぶ。講義後，それらの学修について指導教員と議論・検討することで理解を深める。</p>
<p>一般目標（GIO）： 口腔衛生学領域における疫学・細胞生物学研究に関する知識を習得する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 疫学研究と細胞生物学の基本的な研究方法を理解する。 2. 口腔衛生学領域における疫学・細胞生物学研究の研究動向を知る。</p>
<p>授業の方法： 講義とディスカッション形式で行う。</p>
<p>準備学習(予習・復習)： 各回の課題について，事前に予習をしておくこと。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 適宜プリント配布</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 出席状況やディスカッションへの参加，指導教員との質疑応答などを総合して評価する。</p>
<p>オフィスアワー・e-mail： 川戸 貴行：木曜日：12：00～13：00：kawato.takayuki@nihon-u.ac.jp 田中 秀樹：木曜日：12：00～13：00：tanaka.hideki@nihon-u.ac.jp 中井久美子：木曜日：12：00～13：00：nakai.kumiko10@nihon-u.ac.jp 尾崎 愛美：木曜日：12：00～13：00：ozaki.manami@nihon-u.ac.jp</p>

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月15日(木)	川戸 貴行	疫学研究の概要	疫学研究が集団の健康状態や疾病・異常の観察を基本としていることを学ぶ。
2	10月22日(木)	川戸 貴行	健康状態と疾病・異常の数値化	疫学指標の考え方と, 口腔衛生学領域で用いられる疾病・異常の指標の特徴を学ぶ。
3	10月29日(木)	田中 秀樹	疫学研究方法 1	記述疫学, 生態学的研究, 横断研究について学ぶ。
4	11月5日(木)	川戸 貴行	疫学研究方法 2	コホート研究, 症例対照研究, 介入研究について学ぶ。
5	11月12日(木)	川戸 貴行	疫学研究方法 3	バイアスの種類とその抑制について学ぶ。
6	11月19日(木)	川戸 貴行	高齢化社会における齲蝕と歯周病	高齢者の齲蝕・歯周病の罹患状況に関する研究を例に, 記述疫学の実際について学ぶ。
7	11月26日(木)	川戸 貴行	歯周病と全身疾患	糖尿病とメタボリックシンドロームの関連性に関する研究を例に, 横断研究とコホート研究の実際について学ぶ。
8	12月3日(木)	川戸 貴行 田中 秀樹	ディスカッション I	各大学院生が着目している研究課題について, 疫学研究によるアプローチの可能性をディスカッションする。
9	12月10日(木)	田中 秀樹	歯周病と喫煙 1	日本人の喫煙の実態と喫煙が全身の健康障害に及ぼす影響を学ぶ。 喫煙と歯周病との関係を学ぶ。
10	12月17日(木)	田中 秀樹	歯周病と喫煙 2	細胞生物学の研究論文をもとに, 骨形成と破骨細胞の分化・機能に及ぼすニコチンの影響を学ぶ。
11	12月24日(木)	田中 秀樹	細胞生物学研究 (破骨細胞)	破骨細胞培養の理論と基本操作を学ぶ。
12	1月14日(木)	尾崎 愛美	細胞生物学研究 (骨芽細胞 1)	細胞生物学の研究論文をもとに, 骨芽細胞の骨形成機能に関する研究の実際について学ぶ。
13	1月21日(木)	中井久美子	細胞生物学研究 (骨芽細胞 2)	細胞生物学の研究論文をもとに, 骨芽細胞の細胞外マトリックス代謝調節に関する研究の実際について学ぶ。
14	1月28日(木)	中井久美子	細胞生物学研究 (線維芽細胞と脂肪細胞)	線維芽細胞と脂肪細胞の培養の理論と基本操作を学ぶ。
15	2月4日(木)	川戸 貴行 田中 秀樹	ディスカッション II	各大学院生が現在取り組んでいる(これから取り組もうとしている)研究内容を発表し, 互いに質疑応答する。

授業科目：歯科法医学

担当教員：網干博文，堤 博文，近藤真啓

学年・学期：2年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

歯科法医学は、法医学のなかでもとくに個人識別に貢献するところ大なる領域であり、社会生活の秩序を守るうえで重要な位置を占めている。各種の犯罪による犠牲者や加害者あるいは大量災害死事故による犠牲者の個人識別は、歯科所見をもとに性別と年齢を推定し、個人的特徴を捉えて行われている。そのための方法として、形態学的、血清学的および分子生物学的手法が用いられ、さらには新たな検査法を開発しなければならないこともある。本授業では、これらの手技を習熟させ、鑑定結果がもたらす社会的な意義について考察させることをねらいとする。

一般目標（GIO）：

歯科法医学の対象は、死体だけでなく、生体、さらには医療文書にもおよぶことを知り、社会生活において歯科法医学が役立つ場面のあることを知る。歯からの性別判定、年齢推定および身元確認に関する演習を行い、導き出された結果が犯罪捜査や裁判等において証拠価値としてきわめて重要な位置を占めることを理解する。

到達目標（SBOs）：

1. 法医学の対象は、死体のみならず生体、文書、各種残留物など多岐にわたることが理解できる。
2. 歯科医学的知識をもとに個人識別に役立て社会に寄与できる。
3. 歯を含む骨・硬組織からの性別判定および年齢推定ができる。
4. 血液痕痕試料を用いた血液型判定法について、その原理を説明できる。
5. DNAを用いた個人識別法について、その原理が説明できる。
6. 歯科所見による個人識別作業の流れを説明できる。
7. 生前および死後の歯科記録が作成できる。
8. 生前および死後の歯科所見の比較・照合検査ができる。

授業の方法：

講義を中心に行い、適宜、論文抄読および実習を行う。

準備学習(予習・復習)：

指定された教科書を事前に熟読し、授業内容の目的を把握しておく。

教材（教科書・参考書等）：

教科書 1) 法医学 改訂3版 福島弘文著 南山堂

2) 歯科六法コメンタール 社会歯科学会編 ヒョーロン・パブリッシャーズ

参考書 1) 法歯科医学 基礎知識から臨床・災害時の対応まで 都築民幸他編 永末書店

成績評価の方法及び基準：

講義範囲の中から課題を決めてレポートの提出を課し、評価の対象とする。

オフィスアワー・e-mail：

網干 博文：月曜日 12:00～13:00 aboshi.hirofumi@nihon-u.ac.jp

堤 博文：月曜日 12:00～13:00 tsutsumi.hirofumi@nihon-u.ac.jp

近藤 真啓：月曜日 12:00～13:00 kondou.masahiro@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月7日(水)	網干 博文	法医学概論	法医学とはどんな学問であるかを知る。 医学や歯学が司法, 立法および行政にどのように係っているか, その意義について考える。
2	10月14日(水)	近藤 真啓	医事法学1	人権の保障, 医療事故の責任, 生命倫理の尊重, 保健医療行政の後見的役割など, 医事法学の課題を理解する。 医師, 歯科医師法等の解釈について理解する。
3	10月21日(水)	堤 博文	医事法学2	医療事故, 医療過誤とは何かを知る。 医療過誤における医療従事者に対する処分の動向を知る。 歯科医事紛争の防止策について考える。
4	10月28日(水)	網干 博文	歯科法医学	歯科法医学がどのように社会と関わってきたかという歴史の変遷について学ぶ。 歯科所見が身元確認における有効性について考える。
5	11月4日(水)	網干 博文	個人識別	生体, 死体, 人体由来のものおよび人体が他の物体に残したものについて, その由来を決定する効果的な個人識別法について, その関連法規も含め理解する。
6	11月11日(水)	網干 博文	骨による個人識別	骨硬組織による性別判定および年齢推定法について理解する。 人類学的計測を用いた統計的手法による性別判定および年齢推定の手順について学ぶ。
7	11月18日(水)	網干 博文	歯による個人識別	歯による性別判定法と年齢推定法について学ぶ。 歯科所見による身元確認法について理解する。 歯列模型やエックス線写真を使用した性別判定および年齢推定法について学ぶ。
8	11月25日(水)	近藤 真啓	血液型1	血液型検査の意義について学ぶ。 血液型検査による個人識別の基本となる多型について学ぶ。 ABO式, Rh式, MN式システムの抗原構造や抗体について学ぶ。
9	12月2日(水)	堤 博文	血液型2	血痕予備試験としてロイコマラカイトグリーン検査, 人血試験としてOCヘモキャッチ法, 解離試験によりABO式血液型検査を行い, 血痕検査の手順を理解する。・院生個人の試料を用い

				ABO 式, Rh 式, MN 式血液型検査を行う。
10	12 月 9 日(水)	堤 博文	DNA 型 1	DNA 型検査の意義について学ぶ。 DNA 型が個人識別においてどのように利用されるのかについて理解する。 DNA 鑑定の事件例を検討し, その有効性を知る。
11	12 月 16 日(水)	堤 博文	DNA 型 2	院生個人の試料から DNA を抽出し, DNA 型を検査する手順について学ぶ。
12	12 月 23 日(水)	近藤 真啓	新しい年齢推定法 1	DNA のメチル化とはどのような現象化かについて理解する。 DNA メチル化を用いた年齢推定法の原理および手技について学ぶ。
13	1 月 13 日(水)	近藤 真啓	新しい年齢推定法 2	院生個人から抽出した DNA を試料として, メチル化特異的リアルタイム PCR を行い, DNA のメチル化による年齢推定法の手順を学ぶ。
14	1 月 20 日(水)	網干 博文	法医解剖の見学 1	身元不明死体の個人識別について学ぶ。
15	1 月 27 日(水)	網干 博文	法医解剖の見学 2	身元不明死体の個人識別について学ぶ。

授業科目：歯科放射線学

担当教員：本田 和也, 新井 嘉則, 松本 邦史, 江島 堅一郎, 澤田 久仁彦

学年・学期：3年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

臨床系を専攻する大学院学生は、全ての診療科が的確な診断・治療を行う為に歯科放射線とくに画像診断に関わっている事を十分理解している筈である。たとえ研究主題に直接関わらなくとも、現代の医療用画像について充分理解しておくことは、将来の研究発展の為に大きな力になることを理解しておくべきである。また基礎系の専攻分野に属する大学院学生でも、研究主題によっては直接、または間接的に画像を用いることから、歯科放射線において使用される modality を中心に授業を進める予定である。

一般目標（GIO）：

最新の画像診断装置の特徴を理解し、総合的な画像診断を実施できる。

到達目標（SBOs）：

1. 各装置の原理と特徴および適応症を説明できる。
2. 各装置を使用して、実際の撮像ができる。
3. 各画像診断の根拠を説明できる。
4. 総合的な画像診断ができる。

授業の方法：

スライドを使用した講義と実際の画像診断装置を使用したのハンズオンセミナー形式で講義を進める。

準備学習(予習・復習)：

各画像診断の特徴に関して事前に予習を行うこと。

教材（教科書・参考書等）：

特に指定せず、必要に応じて文献、資料等をコピーして配付する。

成績評価の方法及び基準：

授業の出席状況および講義のノートの提出によって評価する。

オフィスアワー・e-mail：

本田 和也：金曜日 17：00～18：00 ・e-mail：honda.kazuya@nihon-u.ac.jp

新井 嘉則：金曜日 17：00～18：00 ・e-mail：arai.yoshinori@nihon-u.ac.jp

松本 邦史：金曜日 17：00～18：00 ・e-mail：matsumoto.kunihito@nihon-u.ac.jp

江島堅一郎：金曜日 17：00～18：00 ・e-mail：ejima.ken-ichiro@nihon-u.ac.jp

澤田久仁彦：金曜日 17：00～18：00 ・e-mail：sawada.kunihiko@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	9月4日(金)	本田 和也	放射線学総論	総合画像診断の考え方を説明できる。CT, MRI などの各装置の特徴を説明できる。
2	9月11日(金)	澤田 久仁彦	放射線画像学	検査法と画像機器の特徴を説明できる。各検査装置の被曝量を説明できる。
3	9月18日(金)	松本 邦史	画像の解釈	歯科放射線臨床画像の考え方を説明できる。各装置の特徴と病態の画像の関係を説明できる。
4	9月25日(金)	松本 邦史	コンピュータ断層撮影法Ⅰ	CT装置の原理とその進歩を説明できる。医用CTと歯科用CTの原理と特徴を説明できる。
5	10月2日(金)	松本 邦史	コンピュータ断層撮影法Ⅱ	顎口腔領域での基本的なCT診断ができる。CTの特徴を理解し、その画像の診断根拠を説明できる。
6	10月9日(金)	新井 嘉則	in vivo micro CT (μ CT) Ⅰ	μ CTの原理を説明できる。 μ CTの特徴を説明できる。
7	10月16日(金)	新井 嘉則	in vivo micro CT (μ CT) Ⅱ	μ CTの応用を説明できる。差分画像の応用方法を説明できる。
8	10月23日(金)	新井 嘉則	歯科用コーンビームCT	歯科用コーンビームCT (CBCT)の特徴を説明できる。CBCTによる顎骨病変の診断根拠を説明できる。
9	10月30日(金)	澤田 久仁彦	摂食機能の画像診断	Videofluorography (VF)の実際を説明できる。VFの診断基準を説明できる。
10	11月6日(金)	松本 邦史	磁気共鳴映像法	MRI装置の原理とその進歩を説明できる。顎口腔領域におけるMRI診断の根拠を説明できる。
11	11月13日(金)	江島 堅一郎	超音波断層撮像法Ⅰ	超音波断層撮像法の理論を説明できる。超音波断層撮像法の画像の特徴を説明できる。
12	11月20日(金)	江島 堅一郎	超音波断層撮像法Ⅱ	歯科臨床における超音波断層撮像法を実施できる。超音波ガイド下穿刺法などの応用法を説明できる。
13	11月27日(金)	澤田 久仁彦	放射線管理	歯科における放射線管理と防護の必要性について説明できる。医療従事者における放射線防護の意義を説明できる。
14	12月4日(金)	江島 堅一郎	遠隔画像診断	画像転送と遠隔診断の実際を説明できる。遠隔診断を実施できる。
15	12月11日(金)	本田 和也	IVRとまとめ	Interventional Radiology (IVR)の手法について説明できる。歯科領域でのIVRの特徴を説明できる。

授業科目：小児歯科学

担当教員：白川哲夫，高森一乗，武井浩樹，石山未紗

学年・学期：3年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

摂食機能に関連する中枢の発達の基本的なプロセスを理解する。また実験動物を用いた電気生理学的ならびに分子生物学的研究法，遺伝子変異あるいはDNAメチレーションの変化が中枢機能に及ぼす影響についての研究方法を学修する。また，頭蓋・顎顔面ならびに歯の形成とそれらの異常についての基本的なメカニズムに関して理解を深める。

一般目標（GIO）：

小児歯科学ならびに小児の歯科医療に関する最新の知見についての知識を得る。

到達目標（SBOs）：

1. 小児歯科学に関する基礎的ならびに臨床的な知識を得る。
2. 科学的根拠に基づく歯科医療の重要性を理解する。
3. 小児歯科学分野における先端的な医療について理解する。
4. 小児歯科学分野における最新の研究について理解する。

授業の方法：

講義形式で課題についてディスカッションを行う。また，個別の課題についてプレゼンテーションする。

準備学習(予習・復習)：

指定の参考書，学術論文を事前に予習しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

小児歯科学 第5版（医歯薬出版），Principles of Neural Science (McGraw-Hill Medical)

成績評価の方法及び基準：

出席状況や態度，各テーマに関する質疑応答などを総合して評価する。

オフィスアワー・e-mail：

白川 哲夫：月曜日：17：00～18：00：shirakawa.tetsuo@nihon-u.ac.jp

高森 一乗：木曜日：17：00～18：00：takamori.kazunori@nihon-u.ac.jp

武井 浩樹：金曜日：17：00～18：00：takei.hiroki@nihon-u.ac.jp

石山 未紗：木曜日：17：00～18：00：ishiyama.misa@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月7日(水)	白川 哲夫	中枢神経発達の基礎知識	中枢神経系の発達の基本原理を理解する。 運動機能および知覚伝達を司る中枢の局在について知識を深める。
2	10月14日(水)	白川 哲夫	咀嚼機能および中枢の発達の基礎知識	咀嚼機能の発達の特徴を理解し研究の遂行に必要な知識を身につける。 咀嚼中枢の発達と機能調節機序について学ぶ。
3	10月21日(水)	白川 哲夫	口腔機能の発達 (I)	摂食機能の発達とその障害について理解する。 摂食機能を調節している中枢と疾患との関係について知識を深める。
4	10月28日(水)	白川 哲夫	口腔機能の発達 (II)	発語・発音の発達と中枢の障害との関連について理解する。 発達障害と口腔機能障害の関係について学ぶ。
5	11月4日(水)	白川 哲夫	遺伝子異常と疾患	遺伝子異常に起因する主な疾患について学ぶ。 口腔機能発達と遺伝子異常との関連性について学ぶ。
6	11月11日(水)	白川 哲夫	摂食行動の分子生物学 (I)	摂食行動に関わる遺伝子・ペプチドの脳内発現パターンについて学ぶ。 摂食調節に関わる神経伝達物質について学ぶ。
7	11月18日(水)	白川 哲夫	摂食行動の分子生物学 (II)	摂食行動に関わる遺伝子の発現と転写調節メカニズムの基本を理解する。 摂食中枢での遺伝子発現調節について学ぶ。
8	11月25日(水)	武井 浩樹	幼若期の動物実験法 (I)	電気生理学的手法による、幼若期動物あるいはその組織を用いた実験方法について学ぶ。 動物実験データの解析方法について学ぶ。
9	12月2日(水)	白川 哲夫	幼若期の動物実験法 (II)	分子生物学的手法による、幼若期動物あるいはその組織を用いた実験方法について学ぶ。 遺伝子発現解析の手法を学ぶ。
10	12月9日(水)	白川 哲夫	幼若期の動物実験法 (III)	免疫・組織学的手法による、幼若期動物あるいはその組織を用いた実験方法について学ぶ。 顕微鏡画像の解析手法を理解する。
11	12月16日(水)	石山 未紗	DNAメチル化研究法 (I)	ヒト試料あるいは実験動物からのDNAの抽出と塩基配列の解析方法を学ぶ。 バイサルファイト処理の技法と留意点を学ぶ。

12	12月23日(水)	石山 未紗	DNAメチル化研究 法(Ⅱ)	バイサルファイト変換後の塩基配列の解析手順について学ぶ・DNAメチル化が遺伝子発現に及ぼす影響について理解する。
13	1月13日(水)	武井 浩樹	頭蓋・顎顔面の発育	頭蓋・顔面・歯列の発育の特徴ならびに疾患との関連性を理解する。頭蓋・顔面・歯列の発育の分析法を修得する。
14	1月20日(水)	高森 一乗	頭蓋・顎顔面の発生・ 発育と遺伝子	頭蓋・顎顔面の発生・発育に関わる遺伝子群と、遺伝子異常が骨の発育に及ぼす影響について理解する。
15	1月27日(水)	高森 一乗	歯の発生・発育と遺伝子	歯の発生・発育に関わる遺伝子群と、遺伝子異常が歯の形成および萌出に及ぼす影響について理解する。

授業科目：口腔診断学，口腔ペインクリニック学

担当教員：今村佳樹，岡田明子，野間 昇，篠崎貴弘

学年・学期：3年次・後期

単位：4単位

授業の概要：

口腔顔面痛を歯科の立場からだけでなく，神経学的な見地から診る力をつける。痛みの種類の概念を理解し，病態から治療法を導くことを学ぶ。慢性痛とは何かを理解し，歯原性疼痛と非歯原性疼痛の鑑別診断を学ぶ。診断力を高め，炎症性疾患，神経障害性疼痛，特発性口腔痛の治療方針を明確に示すことができる。

一般目標（GIO）：

1. 歯科医師の立場から口腔顔面痛を理解し，口腔顔面の痛みについて診断する力を身に付ける。
2. 各種口腔顔面痛の病態を理解し，口腔顔面痛のメカニズムを説明する力を身に付ける。

到達目標（SBOs）：

1. 歯原性疼痛・非歯原性疼痛の鑑別方法を理解し，診断基準，診断方法を説明することができる。
2. 非歯原性疼痛としての筋筋膜痛の治療法を理解し，患者に説明することができる。

授業の方法：

口腔診断学ならびに口腔ペインクリニック学に関する系統的な講義を行う。講義内容に関しては，事前学修を行うことを前提とし，講義の際の対話をもって理解を進める。

準備学習(予習・復習)：

あらかじめ，授業の内容については，開示しておくので，各自，該当する部分の参考書を参考に事前学修を行うこと。事前学修における授業内容の理解度は，実際の授業において，対話形式で評価を行う。

教材（教科書・参考書等）：

Orofacial Pains (ed. Barry J Sessle) IASP Press, Washington

Bell's Oral and Facial Pain. 7th edition (ed. Jeffrey P Okeson) Quintessence, Chicago

Bonica's Management of Pain. 5th edition (ed. Jane C Ballantyne) Walters Kluwer, New York

成績評価の方法及び基準：

講義の際の対話において理解度の評価を行う。

授業への参加時の準備状況によって評価を行う。

オフィスアワー・e-mail：

今村 佳樹：水曜日 17：00-18：00 imamura.yoshiki@nihon-u.ac.jp

岡田 明子：水曜日 17：00-18：00 okada.akiko1@nihon-u.ac.jp

野間 昇：水曜日 17：00-18：00 noma.noboru@nihon-u.ac.jp

篠崎 貴弘：水曜日 17：00-18：00 shinozaki,takahiro@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月2日(金)	今村 佳樹	Introduction 痛みの概念	痛みの定義を述べるができる。 急性痛と慢性痛の違いを説明できる。
2	10月16日(金)	岡田 明子	疼痛の発症機序(1)	疼痛の伝導路を述べるができる。 痛みの調節機構について理解する。
3	10月23日(金)	岡田 明子	疼痛の発症機序(2)	神経伝達物質について述べるができる。
4	10月30日(金)	篠崎 貴弘	疼痛の発症機序(3)	中枢における痛みの受容を理解する。
5	11月6日(金)	今村 佳樹	疼痛の評価と分類	疼痛の程度と性質の評価法について学ぶ。 口腔顔面痛の分類を述べるができる。 感覚と運動機能, 反射の診査を理解する。 脳神経の種類とそれぞれの機能を理解する。
6	11月13日(金)	篠崎 貴弘	侵害受容性疼痛・炎症性 疼痛の種類	体表痛と深部痛(解剖学的特徴)を理解する。 外傷, 炎症による疼痛とは何かを理解する。
7	11月20日(金)	岡田 明子	侵害受容性疼痛 ー深部痛	口腔周囲組織からの疼痛を説明できる。 咀嚼筋・頸部構造物の疼痛を説明できる。 関連痛を説明できる。
8	11月27日(金)	岡田 明子	神経血管性頭痛, 血管性顔面痛	頭痛の種類と臨床症状を説明できる。
9	12月4日(金)	野間 昇	神経障害性疼痛 (特発性神経痛)	特発性神経痛の発症機序を説明できる。 特発性神経痛の症状, 治療法を理解する。 有痛性三叉神経ニューロパチーの病態と 神経症状を理解する。
10	12月11日(金)	野間 昇	神経炎	帯状疱疹と帯状疱疹後神経痛の病態, 診 断, 治療法について説明できる。
11	12月18日(金)	野間 昇	麻痺・痙攣・運動失調	末梢性・中枢性顔面神経麻痺を理解する。 片側顔面痙攣, ジストニアを理解する。
12	12月25日(金)	篠崎貴弘	精神疾患による疼痛 疼痛における心理的要因	痛みを生じる精神疾患について学ぶ。 慢性痛と心理的要因を説明できる。
13	1月8日(金)	野間 昇	疼痛の治療法	ペインクリニックに用いる薬物療法につ いて学修する。
14	1月15日(金)	野間 昇	疼痛の治療法	ペインクリニックに用いる神経ブロック 療法(感覚神経, 交感神経)について学修 する。
15	1月22日(金)	今村 佳樹	総括	これまで学んだ内容を総合的に理解する。

授業科目：摂食機能療法学

担当教員：植田耕一郎，阿部仁子，中山渕利，佐藤光保

<p>学年・学期：3年・後期 単位：4単位</p>
<p>授業の概要： 少子超高齢化社会における「障害の医学」についての概念と摂食嚥下リハビリテーションの理念を理解する。その上で、基礎的な手技・臨床的な知識を習得する。講義後に、各講義の学修内容について指導教員と議論・検討し、より理解を深める。</p>
<p>一般目標（GIO）： 摂食機能療法の理念，診断，技術について臨床的視点に立った学修し理解する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 要介護高齢者・有病高齢者に対する摂食機能療法におけるリハビリテーションの理念を理解する。 2. 摂食嚥下障害の診断法，摂食機能療法のアプローチ・手技を理解する。 3. 高齢者歯科医療に関する基本的な知識を習得する。 4. これからの高齢者歯科医療における歯科医師のあり方を理解する。 5. 発達期障害の患者に対する摂食機能療法を理解する。</p>
<p>授業の方法： 摂食機能療法学に必要な基礎的・臨床的内容についての講義を行い，講義終了後にディスカッションを行う。全ての講義終了後に総まとめとしてレポートを提出する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)： 指定の教科書，参考書を事前に予習しておくこと。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 脳卒中患者の口腔ケア第2版，摂食嚥下リハビリテーション第3版，よくわかる高齢者歯科学，小児の摂食・嚥下リハビリテーション</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 講義の出席状況およびレポートの内容，質疑応答を総合して成績評価を行う。</p>
<p>オフィスアワー・e-mail： 植田耕一郎：木曜日 12：00～13：00：ueda.kouichirou@nihon-u.ac.jp 阿部 仁子：木曜日 12：00～13：00：abe.kimiko@nihon-u.ac.jp 中山 渕利：木曜日 12：00～13：00：nakayama.enri@nihon-u.ac.jp 佐藤 光保：木曜日 12：00～13：00：sato.mitsuyasu@nihon-u.ac.jp</p>

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月1日(木)	植田耕一郎	1. 障害を持った口腔とは	障害者の口腔病態(摂食機能障害の病態を中心)について理解する。
2	10月8日(木)	植田耕一郎	2. 摂食機能療法のための脳卒中の理解	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害について理解する。
3	10月15日(木)	阿部 仁子	3. 摂食機能障害の診断法について	視診, 触診, 聴診等の臨床診断について学び, 理解する。
4	10月22日(木)	阿部 仁子	4. 嚥下造影検査の実際	嚥下造影検査の手法と独壇を学び理解する。
5	10月29日(木)	阿部 仁子	5. 摂食嚥下の生理学	摂食嚥下の生理学的, 解剖学的メカニズムを学ぶ。
6	11月5日(木)	阿部 仁子	6. 摂食嚥下の臨床的病態	摂食, 嚥下障害が起きるメカニズム, 誤嚥性肺炎発症のメカニズムについて学び理解する。
7	11月12日(木)	阿部 仁子	7. 嚥下内視鏡検査の実際	嚥下内視鏡検査の手法と読影を学び理解する。
8	11月19日(木)	中山 洵利	8. 摂食機能障害に対する治療的アプローチ(1)	間接訓練(食べ物を使用しない基礎的訓練)について学び理解する。
9	11月26日(木)	中山 洵利	9. 摂食機能障害に対する治療的アプローチ(2)	直接訓練(食べ物を使用する訓練)について学び理解する。
10	12月3日(木)	中山 洵利	10. 摂食機能障害に対する代償的アプローチ	利き手交換, 経管栄養, 中心静脈栄養等の代償方法について学び理解する。
11	12月10日(木)	佐藤 光保	11. 摂食機能障害に対する環境改善的アプローチ	環境の改善位よる自立支援による考え方, 手法を学び理解する。
12	12月17日(木)	佐藤 光保	12. 摂食機能障害に対する心理的アプローチ	心理的支援に関する考え方, 医療従事者の取り組むべき姿勢について学ぶ。
13	12月24日(木)	阿部 仁子	13. 摂食機能障害に対する検査法	咀嚼と嚥下に関係する各種筋の筋電図活動記録方法, 口腔粘膜刺激による体性感覚誘発電位法・味覚検査法, 唾液量検査法, 触覚検査法について学日理解する。
14	1月14日(木)	佐藤 光保	14. 21世紀の歯科医療のあり方を考える	日常生活動作の中の在宅口腔ケア, 医療, 介護, 福祉, 保健における歯科医療の責務, チーム医療について考察する。
15	1月21日(木)	植田耕一郎	15. 摂食機能療法学を学んで考えること	全講義で学んだ知識を整理し, 理解を深める。

授業科目：統合科目 I [審美歯科学 Esthetic dentistry]

担当教員：宮崎真至，高見澤俊樹，辻本暁正，小峰 太，小泉寛恭，月村直樹，外木守雄
本吉 満

<p>学年・学期：3年次・後期 単位：4単位</p>
<p>授業の概要： 審美歯科学における一般的な原則に基づき，治療計画から審美歯科治療の実践を系統的に行うかについて，保存，補綴，外科および矯正分野の見地から基礎ならびに臨床的知識を統合させることを目的としている。すなわち，顔貌，口唇，発音，歯，歯肉の分析に関する審美的要素を理解し，どのように修復物を生物学的および機能的に一体化させることで審美歯科治療を実践する能力を獲得する。さらに，最新の審美修復材料について，それらの生体材料としての特性および最新の臨床技法について理解を深める。</p>
<p>一般目標（GIO）： 審美歯科学という治療概念とともに最新の修復材料について学び，その適切な臨床技法を知ることによって，科学的根拠に基づいた審美歯科治療を理解する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 審美歯科の基準と目標を適切に説明できる。 2. 審美歯科の治療法あるいは管理法を適切に選択できる。 3. 審美歯科の治療・管理に関わる材料を適切に説明できる。 4. 臨床予後に関する評価法を適切に説明できる。</p>
<p>授業の方法： 保存，補綴，外科および矯正分野の教員が審美歯科学という項目について各々の立場から講義を行うとともに，境界領域，種々の分野の連携についても教授する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)： 事前に教科書等を精読し，授業内容を理解しておくこと。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： テーマに即した英語論文あるいは専門図書を必要に応じて提示する。 教科書：特に指定しない。 参考書：歯科矯正学第4版，葛西一貴ら編，医歯薬出版 顎顔面補綴の臨床，大山喬史ら編，医学情報社</p>
<p>成績評価の方法及び基準： テーマに対するディスカッションによって評価を行う。</p>
<p>オフィスアワー・e-mail： 宮崎 真至：月曜日 17：00～18；00 miyazaki.masashi@nihon-u.ac.jp 高見澤俊樹：月曜日 17：00～18；00 takamizawa.toshiki@nihon-u.ac.jp 辻本 暁正：月曜日 17：00～18；00 tsujimoto.akimasa@nihon-u.ac.jp 小峰 太：月曜日 17：00～18；00 komine.futoshi@nihon-u.ac.jp 小泉 寛恭：月曜日 17：00～18；00 koizumi.hiroyasu@nihon-u.ac.jp 月村 直樹：月曜日 17：00～18；00 tsukimura.naoki@nihon-u.ac.jp 外木 守雄：木曜日 17：00～18；00 tonogi.morio@nihon-u.ac.jp 本吉 満：月曜日 17：00～18；00 motoyoshi.mitsuru@nihon-u.ac.jp</p>

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月15日(木)	宮崎 真至	審美修復の基準と目標	審美修復の基準と目標について学修する。
2	10月22日(木)	高見澤俊樹	成形修復材料による審美歯科治療	成形修復材料による審美歯科治療について学修する。
3	10月29日(木)	辻本 暁正	デジタルデンティストリーによる審美歯科治療	デジタルデンティストリーによる審美歯科治療について学修する。
4	11月5日(木)	辻本 暁正	生活歯および失活歯のホワイトニング	生活歯および失活歯のホワイトニングについて学修する。
5	11月12日(木)	小峰 太	ラミネートベニアによる審美歯科治療	ラミネートベニア修復の基本的考え方を学修する。
6	11月19日(木)	小峰 太	ラミネートベニアにおける接着技法	ラミネートベニア修復の接着技法を学修する。
7	11月26日(木)	小泉 寛恭	歯冠補綴におけるシェードマッチング	歯冠補綴におけるシェードマッチングについて学修する。
8	12月3日(木)	小泉 寛恭	審美修復材料による補綴治療の術後管理	審美修復材料による補綴治療の術後管理について学修する。
9	12月10日(木)	月村 直樹	顎欠損の補綴治療	顎欠損の補綴治療について学修する。
10	12月17日(木)	月村 直樹	顔面補綴治療	顔面補綴治療について学修する。
11	12月24日(木)	月村 直樹	口蓋裂の補綴治療	口蓋裂の補綴治療について学修する。
12	1月7日(木)	外木 守雄	顎骨欠損の再建手術	顎骨欠損の再建手術について学修する。
13	1月14日(木)	外木 守雄	顎変形症の外科手術	顎変形症の外科手術について学修する。
14	1月21日(木)	本吉 満	口元の審美評価	口元の審美評価について学修する。
15	1月28日(木)	本吉 満	顎矯正による審美回復	顎矯正による審美回復について学修する。

授業科目：統合科目Ⅱ [口腔インプラント学]

担当教員：外木守雄，篠塚啓二，高橋富久，今村佳樹，本田和也，池田貴之，小峰 太，
岡 俊一，萩原芳幸，菅野直之，浅野正岳，月村直樹

<p>学年・学期：3年次・後期 単位：4単位</p>
<p>授業の概要： これまでに学んだ歯科インプラント学に関する知識を整理し、歯科インプラント領域のみならず関連分野における歯科インプラント学の位置付けの理解およびその技術を習得し、さらに高度でかつ専門性の高い治療術式を学ぶ。</p>
<p>一般目標（GIO）： 骨結合理論を理解し、歯科インプラント治療の利点欠点を理解し、適切な治療を実践する。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 1. 歯科インプラントの適応診断と最適な治療法を説明できる。 2. 歯科インプラントによる有害事象を説明できる。 3. 有害事象の対応を説明できる。 4. 有害事象の予防方法を説明できる。 5. 安全で適切な歯科インプラント治療を実践できる。</p>
<p>授業の方法： 各関連項目で講師による座学，授業が行われる。</p>
<p>準備学習(予習・復習)： テーマに関する関連書籍等によって予習すること。欠席した場合は、原則として補講は行わずレポート等を課す。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： テーマにより講師より関連書籍等を指示する。</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 出席状況と態度，各テーマに関する質疑応答などを総合して評価する。</p>
<p>オフィスアワー・e-mail： 外木 守雄：火，木曜日 17：00～18：00 tonogi.morio@nihon-u.ac.jp 篠塚 啓二：火，木曜日 17：00～18：00 shinozuka.keiji@nihon-u.ac.jp 高橋 富久：火，木曜日 8：00～9：00 takahashi.tomihisa@nihon-u.ac.jp 今村 佳樹：月曜日 17：00～18：00 imamura.yoshiki@nihon-u.ac.jp 本田 和也：金曜日 17：00～18：00 honda.kazuya@nihon-u.ac.jp 池田 貴之：月曜日 17：00～18：00 ikeda.takayuki@nihon-u.ac.jp 小峰 太：水曜日 17：00～19：00 komine.futoshi@nihon-u.ac.jp 岡 俊一：水曜日 17：00～19：00 oka.shunnichi@nihon-u.ac.jp 萩原 芳幸：月曜日 17：00～18：00 hagiwara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp 菅野 直之：月曜日 17：00～18：00 sugano.naoyuki@nihon-u.ac.jp 浅野 正岳：月曜日 17：00～18：00 asano.masatake@nihon-u.ac.jp 月村 直樹：火曜日 17：00～18：00 tsukimura.naoki@nihon-u.ac.jp</p>

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月9日(土)	外木 守雄 篠塚 啓二	総論	歯科インプラントの歴史とその変貌を理解できる。
2	10月17日(土)	高橋 富久	顎顔面領域の局所解剖	インプラントに必要な解剖学の知識を理解できる。
3	10月24日(土)	今村 佳樹 本田 和也	埋入前診断から治療計画	インプラントに関する一般診査および画像診断に基づく治療計画の立案と説明ができる。
4	10月31日(土)	池田 貴之	咬合理論	欠損形態に即した適正な咬合の付与について理解できる。
5	11月7日(土)	小峰 太	上部構造の選択基準	欠損状態に応じた上部構造の種類と選択基準を理解できる。
6	11月14日(土)	岡 俊一	埋入前処置	インプラント埋入前の全身状態の把握と前処置について理解できる。
7	11月21日(土)	萩原 芳幸	硬組織のマネジメント	歯槽骨の状態に応じた硬組織の前処置と対応について説明できる。
8	11月28日(土)	萩原 芳幸	軟組織のマネジメント	周囲粘膜の状態に応じた軟組織の前処置と対応について説明できる。
9	12月5日(土)	萩原 芳幸	埋入術式	インプラント埋入の基本術式について述べることができる。
10	12月12日(土)	小峰 太	印象と咬合採得	上部構造物作製のための印象と咬合採得の術式について説明できる。
11	12月19日(土)	萩原 芳幸	メンテナンス	上部構造物の装着から定期検査と管理法を理解できる。
12	12月26日(土)	菅野 直之	インプラント周囲炎への対応	インプラント周囲炎への対応と予防管理法について説明できる。
13	1月9日(土)	浅野 正岳	インプラントの病理学	インプラント周囲炎の病理学的所見の理解と整理について説明できる。
14	1月16日(土)	月村 直樹	顎顔面補綴への対応 1	顎顔面欠損症例への対応と管理法について理解できる。
15	1月23日(土)	月村 直樹	顎顔面補綴への対応 2	顎顔面欠損症例への対応と管理法について理解できる。

授業科目：統合科目Ⅲ [画像解析学]

担当教員：本田 和也, 新井 嘉則

学年・学期：2年次・前期

単位：4単位

授業の概要：

最新のコンピュータ言語である C#を使用して、基本的なソフトウェアの開発方法について学ぶ。カメラからの動画を処理して、動きを検出するソフトウェアの開発を目指す。

また、実験動物用の μ CTについて、理論から使用方法、さらに画像処理によって骨塩定量方法を学ぶ。歯科用CTについても、その正しい使用方法と留意点についても学ぶ。

一般目標 (GIO)：

1. 基本的な画像処理のソフトを制作し、それを活用できる。
2. 実験動物用 μ CTおよび歯科用CTの活用ができる。

到達目標 (SBOs)：

1. C#を使用して画像処理ソフトの開発ができる。
2. 実験動物用 μ CTおよび歯科用CTで撮影ができる。
3. 歯科用CTで診断ができる。
4. 画像処理によって骨塩の定量ができる。

授業の方法：

受講者は自身の Windows のノート PC を持参し、必要なソフトウェア (VisualStudio2019 MicroSoft Co. 他) をインストールし実際のソフトウェアの開発を行う。

最新の歯科用CTおよび実験動物用の μ CTを使用して、ハンズオンセミナー形式で授業を実施する。

準備学習(予習・復習)：

ノート PC を Up Date して、整備しておくこと。

教材 (教科書・参考書等)：

プログラムを作ろう！ Microsoft Visual C# 2010 入門 (MSDN プログラミングシリーズ) 日経 BP 社
15 ステップで学ぶ歯科用CTの有効活用 医歯薬出版 東京,1-97 2009

成績評価の方法及び基準：

授業の出席状況および課題の提出によって評価

オフィスアワー・e-mail：

本田 和也：火曜日 17：00～18：00 honda.kazuya@nihon-u.ac.jp

新井 嘉則：火曜日 17：00～18：00 arai.yoshinori@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月14日(火)	本田 和也 新井 嘉則	ソフトウェア開発環境の構築	C#でプログラムを開発でき環境をPC上に構築することができる。
2	4月21日(火)	新井 嘉則	簡単なソフトの開発	C#での基本的なソフトの開発を実際に行うことができる。
3	4月28日(火)	新井 嘉則	画像を取り込む	画像処理を行う画像をPCに取り込み、ソフトウェアを開発できる。
4	5月12日(火)	新井 嘉則	動きを検出する	画像上の動体の重心をもとめ、その軌跡を描くことができる。
5	5月19日(火)	新井 嘉則	パノラマ撮影法の原理	パノラマ撮影法の原理を、シミュレーションソフトを使用して説明できる。
6	5月26日(火)	新井 嘉則	X線CTの原理	X線CTの画像再構成方法を、シミュレーションソフトを使用して説明できる。
7	6月2日(火)	新井 嘉則	実験動物用 μ CTの実際(1)	実験動物用 μ CTの基本的な撮影ができる。
8	6月9日(火)	新井 嘉則	実験動物用 μ CTの実際(2)	実験動物用のガス麻酔装置を使用できる。
9	6月16日(火)	新井 嘉則	実験動物用 μ CTの実際(3)	差分ソフトを使用して骨塩量を測定できる。
10	6月23日(火)	新井 嘉則	歯科用CT(1)	歯科用CTの開発の歴史を解説できる。被ばく線量を説明できる。
11	6月30日(火)	新井 嘉則	歯科用CT(2)	歯科用CT(X800 モリタ製作所)を使用して撮像することができる。
12	7月7日(火)	新井 嘉則	歯科用CT(3)	歯科用CTの画像処理ソフトの基本的な操作ができる。
13	7月14日(火)	新井 嘉則	歯科用CT(4)	歯科用CTの症例について、実際に診断を行うことができる。
14	7月21日(火)	新井 嘉則	歯科用CT(5)	歯科用CTについて今後の展望や課題について、説明できる。
15	7月28日(火)	本田 和也 新井 嘉則	総括	画像処理の基本・実験動物用 μ CT・歯科用CTについて今後の展望について、解説できる。

授業科目：総合特別講義（一般）

担当教員：佐藤秀一，高橋富久，米原啓之，浅野正岳，小野雅章，宮崎洋一，C.S.Langham

学年・学期：1年次・前期

単位：2単位

授業の概要：

学位論文を作成，提出するために必要な全般的な知識を総合講義形式で段階的に学修する。講義後，それらの学修について指導教員と議論・検討し理解を深める。

一般目標（GIO）：

研究方法や論文を作成するために必要な全般的な知識を理解，習得する。

到達目標（SBOs）：

1. 研究に必要な倫理について理解する。
2. 研究に必要な統計について理解する。
3. 教育者として必要な教育学について理解する。
4. 研究に必要な英語を理解する。
5. 論文の読み方，書き方について理解，習得する。

授業の方法：

学位論文を作成，提出するために必要な全般的な知識を総合講義形式で学修する。講義後，それらの学修について指導教員と議論・検討することで理解を深める。

準備学習(予習・復習)：

学修項目に関する関連書籍等を用いて予習しておくこと。

教材（教科書・参考書等）：

教科書：特に指定しない。必要に応じて文献，資料等をコピーして配布。

参考書：実践！クリティカル・シンキングのすすめ 八重垣健監修 クインテッセンス出版
必ずアクセプトされる医学英語論文・完全攻略50の鉄則，康永秀生著，金原出版

成績評価の方法及び基準：

出席状況や態度，各テーマに関する質疑応答などを総合して評価する。

オフィスアワー・e-mail：

佐藤 秀一：月曜日：17：00～18：00：satou.shuuichi@nihon-u.ac.jp

高橋 富久：月・金曜日：8：00～9：00：takahashi.tomihisa@nihon-u.ac.jp

米原 啓之：月曜日：17：00～18：00：yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

浅野 正岳：月曜日：17：00～18：00：asano.masatake@nihon-u.ac.jp

小野 雅章：ono.masaaki@nihon-u.ac.jp

宮崎 洋一：月曜日：17：00～18：00：miyazaki.yoichi86@nihon-u.ac.jp

C.S.Langham：langham@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月13日(月) 10:00~11:50 第1実習室	高橋 富久	図書館の活用法	<ul style="list-style-type: none"> 研究における図書館の役割と活用法について理解する。 研究に必要な論文の検索方法を理解する。
2	5月8日(金) 10:00~11:50 第8講堂	米原 啓之	研究倫理	医学研究を行うとき、考えなければならない倫理規定について理解する。
3	5月13日(水) 10:00~11:50 第8講堂	浅野 正岳	倫理指針(動物)	<p>実験動物の倫理的取り扱い方法ガイドラインについて理解する。</p> <p>実験動物の取り扱い方法及び麻酔投与方法を理解する。</p> <p>麻酔動物を用いた実験方法を理解する。</p> <p>なお、本講義は動物実験に関する教育訓練を兼ねるものとする。</p>
4	5月15日(金) 10:00~11:50 第8講堂	米原 啓之	倫理指針(ヒト)	ヒトを対象として医学研究を行うとき、考えなければならない倫理規定について理解する。
5	5月25日(月) 10:00~11:50 第8講堂	佐藤 秀一	英語論文の構成及び投稿から掲載までの課程	英語の原著論文の種類と構成を理解する。英語の原著論文を学術雑誌に投稿後、掲載されるまでの課程を理解する。
6	5月27日(水) 10:00~11:50 第8講堂	佐藤 秀一	英語の原著論文の書き方	英語論文の実例を基に、論文の書き方を理解する。
7	6月5日(金) 15:00~16:50 第8講堂	小野 雅章	教育学	大学、特に医科歯科系の学部における教授法についての最新の動向を考察する。
8	6月12日(金) 15:00~16:50 第8講堂	小野 雅章	教育学	大学史について、中世大学のなかの医学系学問の取り扱いとその後の状況についての考察を行う。
9	6月19日(金) 15:00~16:50 第8講堂	小野 雅章	教育学	日本の高等教育史における日本大学歯学部(日本大学専門部歯科)の特色を考察することで、日本大学における歯科教育の位置づけを考察する。
10	6月26日(金) 10:00~11:50 第8講堂	宮崎 洋一	統計の基礎1	統計の基本的な考え方を理解する。
11	7月3日(金) 10:00~11:50 第8講堂	宮崎 洋一	統計の基礎2	代表的な統計手法を理解する。
12	9月3日(木) 10:00~11:50 第8講堂	C.S.Langham	Reading scientific Papers 1	<ul style="list-style-type: none"> Reading skills Vocabulary building Setting personal goals
13	9月10日(木) 10:00~11:50 第8講堂	C.S.Langham	Reading scientific Papers II	<ul style="list-style-type: none"> Reading skills Vocabulary building Setting personal goals
14	未定		海外客員教授・共同研究者による特別	レポートを提出すること。
15	未定		講義1・2	レポートを提出すること。

授業科目：総合特別講義（社会人）

担当教員：佐藤秀一，高橋富久，米原啓之，浅野正岳，宮崎洋一

学年・学期：1年次・前期

単位：2単位

授業の概要：

学位論文を作成，提出するために必要な知識全般を総合講義形式で段階的に学修する。講義後，それらの学修について指導教員と議論・検討し理解を深める。

一般目標（GIO）：

研究方法や論文を作成するために必要な全般的な知識を理解，習得する。

到達目標（SBOs）：

1. 研究に必要な倫理について理解する。
2. 研究に必要な統計について理解する。
3. 研究に必要な英語を理解する。
4. 論文の読み方，書き方について理解する。

授業の方法：

学位論文を作成，提出するために必要な全般的な知識を講義形式で学修する。講義後，それらの学修について指導教員と議論・検討することで理解を深める。

準備学習(予習・復習)：

学修項目に関する関連書籍等を用いて予習すること。

教材（教科書・参考書等）：

教科書：特に指定しない。必要に応じて文献，資料等をコピーして配布。

参考書：実践！クリティカル・シンキングのすすめ 八重垣健監修 クインテッセンス出版
必ずアクセプトされる医学英語論文・完全攻略 50 の鉄則，康永秀生著，金原出版

成績評価の方法及び基準：

出席状況や態度，各テーマに関する質疑応答などを総合して評価する。

オフィスアワー・e-mail：

佐藤 秀一：月曜日：17：00～18：00：satou.shuuichi@nihon-u.ac.jp

高橋 富久：月・金曜日：8：00～9：00：takahashi.tomihisa@nihon-u.ac.jp

米原 啓之：月曜日：17：00～18：00：yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

浅野 正岳：月曜日：17：00～18：00：asano.masatake@nihon-u.ac.jp

宮崎 洋一：月曜日：17：00～18：00：miyazaki.yoichi86@nihon-u.ac.jp

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	4月9日(木) 13:00~13:30 第3会議室	佐藤 秀一	オリエンテーション	教務(履修方法等)および学生生活に関連する事項について説明を受ける。
2	4月13日(月) 17:00~18:50 第1実習室	高橋 富久	図書館の活用法	・研究における図書館の役割と活用法について理解する。 ・研究に必要な論文の検索方法を理解する。
3	5月8日(金) 17:00~18:50 第8講堂	米原 啓之	研究倫理	医学研究を行うとき、考えなければならない倫理規定について理解する。
4	5月13日(水) 17:00~18:50 第8講堂	浅野 正岳	倫理指針(動物)	・実験動物の倫理的取り扱い方法ガイドラインについて理解する。 ・実験動物の取り扱い方法及び麻酔投与方法を理解する。 ・麻酔動物を用いた実験方法を理解する。 なお、本講義は動物実験に関する教育訓練を兼ねるものとする。
5	5月15日(金) 17:00~18:50 第8講堂	米原 啓之	倫理指針(ヒト)	ヒトを対象として医学研究を行うとき、考えなければならない倫理規定について理解する。
6	5月25日(月) 17:00~18:50 第8講堂	佐藤 秀一	英語論文の構成及び投稿から掲載までの課程	・英語の原著論文の種類と構成を学ぶ。 ・英語の原著論文を学術雑誌に投稿後、掲載されるまでの課程を学ぶ。
7	5月27日(水) 17:00~18:50 第8講堂	佐藤 秀一	英語の原著論文の書き方	英語論文の実例を基に、論文の書き方を理解する。
8	6月26日(金) 17:00~18:50 第8講堂	宮崎 洋一	統計の基礎1	統計の基本的な考え方を理解する。
9	7月3日(金) 17:00~18:50 第8講堂	宮崎 洋一	統計の基礎2	代表的な統計手法を理解する。
10	未定	講座の主任教授	英語論文の抄読1	指導教授が指定した英語論文を抄読して、その内容を理解する。
11	未定	講座の主任教授	英語論文の抄読2	指導教授が指定した英語論文を抄読して、その内容を理解する。
12	未定	講座の主任教授	英語論文の抄読3	指導教授が指定した英語論文を抄読して、その内容を理解する。
13	未定	講座の主任教授	英語論文の抄読4	指導教授が指定した英語論文を抄読して、その内容を理解する。
14	未定		海外客員教授・共同研究者による特別	レポートを提出すること。
15	未定		講義1・2	レポートを提出すること。

日本大学学則（大学院）抜粋

第1章 総 則

第1節 目的及び使命

第1条 本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

第2条 本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。

第2節 大学組織

第3条 本大学は、学部及び大学院をもって、これを組織する。

(表省略)

第3節 教職員及び教授会

第4条 本大学の教員を分けて教授・准教授・講師・助教及び助手とする。

2 教職員に関する規定は、別に定める。

第5条 本大学各学部に教授会を置き、専任教授全員、3名以内の専任准教授代表及び事務局長をもって、これを組織する。

第6条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

第7条 教授会は、総会員の半数以上の出席によって成立する。

第8条 議長は、議事録を作成し、出席者中2名の署名押印を得るものとする。

第9条 教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- ① 学生の入学及び卒業に関すること。
- ② 学位の授与に関すること。
- ③ 前2号に掲げる事項のほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項。

2 前項第3号の事項については、別に定める「学長裁定」による。

3 教授会は、第1項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について教育研究上の専門的な観点から審議し、並びに学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。なお、本大学の諸規程において教授会が審議することと定められている事項については、教授会はこれを審議し、意見を述べなければならない。

4 教授会の意見を集約する必要がある場合は、出席者の過半数によるものとする。

第10条 前条の教授会における審議とは、論議・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

第11条 教授会は、次の事項について報告を受けるものとする。

- ① 大学院に関すること。
- ② 学位論文の審査に関すること。
- ③ 当該学部の予算及び決算に関すること。
- ④ その他学長及び学部長が必要と認めたこと。

第5節 学年・学期及び休業日

第13条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第14条 学期は、次のとおりとする。ただし、事情によって異なる場合がある。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

第15条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日でも特に授業又は試験を行うことがある。

- ① 日曜日
- ② 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ③ 本学創立記念日（10月4日）
- ④ 春季休業 3月11日から3月31日まで
- ⑤ 夏季休業 7月11日から9月10日まで
- ⑥ 冬季休業 12月21日から翌年1月10日まで

2 休業日の変更及び臨時の休業日については、そのつどこれを定める。

第6節 入学・在学・転学・転籍・休学・復学・留学・退学及び除籍

第16条 入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。

第17条 学部に入學できる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を持ち、本大学の選抜試験に合格した者とする。

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)

- ③ 外国において学校教育による12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ⑤ 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - ⑥ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む)
 - ⑧ 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - ⑨ 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
- 2 前項の規定にかかわらず、高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者(これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む)であって、本大学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めるものであり、かつ、本大学の選抜試験に合格した者を入学させることができる。

第18条 入学を志願する者は、各学部所定の手続によって願い出るものとする。

第19条 入学の選抜試験に合格した者は、所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

第20条 修業年限とは、本大学の教育課程を修了するために必要な期間のことをいう。

- 2 在学年限とは、本大学において学生の身分を有することができる期間のことをいう。
- 3 修業年限は、最低4年とし、在学年限は、8年とする。
- 4 医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部獣医学科及び薬学部の修業年限は、最低6年とし、在学年限は、12年とする。
- 5 前2項の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて在学年限の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。
- 6 第3項の規定にかかわらず、文部科学大臣の定めるところにより、本大学に3年以上在学した者(これに準ずる文部科学大臣の定める者を含む)が、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、その卒業を認めることができる。ただし、第21条第2項第1号から第4号の資格で編入学した場合は、この規定による卒業は認められない。

第21条 編入学とは、他の種類の学校を卒業した者が、教育課程の一部を省いて途中から履修すべく本大学に入学することをいう。ただし、大学を卒業した者又は大学に1年以上在学した者が、教育課程の一部を省いて途中から履修すべく本大学に入学する場合も編入学とする。

- 2 学部に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を持ち、本大学の編入学試験に合格した者とする。ただし、定員に余裕があり、かつ在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上編入学を許可することができる。
 - ① 短期大学(専門職短期大学、外国の短期大学及び我が国における外国の短期大学相当として指定された学校(文部科学大臣指定外国大学(短期大学相当)日本校)を含む)を卒業した者
 - ② 高等専門学校を卒業した者
 - ③ 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部の専攻科の課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
 - ④ 専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
 - ⑤ 大学(専門職大学、外国の大学及び我が国における外国の大学相当として指定された学校(文部科学大臣指定外国大学(大学相当)日本校)を含む)を卒業した者
 - ⑥ 大学(専門職大学、外国の大学及び我が国における外国の大学相当として指定された学校(文部科学大臣指定外国大学(大学相当)日本校)を含む)に1年以上在学し、編入学できる学部等が定める単位数を修得している者
- 3 編入学を願い出た者については、学部等の所定の手続によって願い出るものとする。
- 4 編入学の選抜試験に合格した者は、学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。
- 5 編入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。
- 6 編入学の年次は、2年次又は3年次とする。
- 7 編入学者の在学年限は、許可された編入学年次に応じ、第20条第3項又は第4項に定める在学年限から編入学年次数を控除し、それに1を加えて得た年数とする。
- 8 編入学者は、編入学年次の教育課程によって履修するものとする。
- 9 編入学者の既修単位は、低年次配当科目を優先し、原則として2年次編入学者は、40単位、3年次編入学者

は、70単位を基準とし、認定することができる。

10 通信教育部における編入学については、別に定める規程による。

第22条 転部とは、所属する学部とは異なる学部（通信教育部内を含む）へ異動することをいう。なお、法学部における第一部及び第二部間の異動についても転部とする。

2 転科とは、所属する学部の異なる学科へ異動することをいう。

3 転籍とは、通信教育課程を有する学部において、同一学部の通学課程と通信教育課程の間を異動することをいう。ただし、通学課程と通信教育課程の間で異なる学部への異動については、転部とする。

4 転部・転科及び転籍できる者は、次の各号に該当する資格を持つものとする。ただし、定員に余裕があり、かつ、在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上、許可することがある。

① 本大学に在学中の者で、転部・転科及び転籍できる学部等が定める単位数を修得しているもの

② 人物及び在学中の成績が妥当な者

5 転部・転科及び転籍を願い出た者については、学部等の所定の手続によって願い出るものとする。

6 転部・転科及び転籍の選考に合格した者は、学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。

7 転部・転科及び転籍の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。

8 転部・転科及び転籍の年次は、2年次又は3年次とする。ただし、4年次への転籍（同一学科間）は、許可することができる。

9 転部・転科及び転籍した者の在学年限は、許可された転部・転科及び転籍年次に応じ、第20条第3項又は第4項に定める在学年限から転部・転科及び転籍が許可された年次数を控除し、それに1を加えて得た年数とする。

10 転部・転科及び転籍した者は、転部・転科及び転籍が許可された年次の教育課程によって履修するものとする。

11 転部・転科及び転籍した場合、既修の授業科目は、異動した課程の定める基準の範囲内において認定することができる。

12 通信教育部における転部・転科及び転籍については、別に定める規程による。

第23条 （削除）

第24条 （削除）

第25条 休学とは、病気その他やむを得ない事由により、3か月以上修学できない状態のことをいう。

2 復学とは、休学期間満了によって、再び修学することをいう。

3 休学しようとする者は、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で願い出て、その許可を得て原則として入学年度を除き、休学することができる。ただし、入学年度の後学期については、修学困難な事由の場合認められることがある。

4 休学期間は、1学期又は1年とし、通算して在学年限の半数を超えることができない。

5 休学者は、その事由が解消された場合、保証人連署で願い出て、許可を得て復学することができる。

6 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。

7 休学期間は、在学年数に算入する。

第26条 （削除）

第27条 留学とは、本大学が教育上有益と認めたときは、休学することなく、外国の大学において、許可を得て一定期間修学することをいう。

2 留学の期間は、修業年数に算入する。

第28条 退学とは、在学の中途において在籍関係を解除することをいう。退学には、その手続きにより、次のものがある。

① 病気その他やむを得ない事由による、学生の意志に基づく願い出によるもの。ただし、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で退学願を提出して、許可を受けなければならない。

② 学生が死亡したことによる、保証人からの届出によるもの

③ 第30条に基づく除籍によるもの

④ 第76条及び第77条に基づく懲戒によるもの

2 第36条に基づく年度のGPAが1.50未満で、修学指導の結果、改善が見込まれないと判断した場合は、退学勧告を行う。

第29条 再入学とは、病気その他やむを得ない事由によって退学した者が、当該学部等に再び入学することをいう。

2 病気その他やむを得ない事由によって退学した者が、その事由が解消し、当該学部等に再入学を志望したときは、退学前に在籍していた学科の定員に余裕があり、かつ在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上再入学を許可することがある。この場合には、既修の授業科目の全部又は一部の再履修を命ずることがある。

3 再入学できる者は、次の各号に該当するものとする。

① 本大学に原則として1年以上在学し、再入学しようとする学部等が定める単位数を修得している者

- ② 病気その他やむを得ない事由で退学した者
- ③ 人物及び在学中の成績が妥当な者
- 4 除籍によって退学になった者については、事情勘案の上、前項に準じて再入学を認めることができる。
- 5 再入学の学科については、原則として退学時の学科とする。
- 6 再入学を願い出た者については、学部等の所定の手続によって願出のものとする。
- 7 再入学の選考に合格した者は、学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。
- 8 再入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。
- 9 再入学の年次は、退学時の学年次を原則とするが、修得単位数等の事情により年次を下げても許可することができる。また、学年末の退学者については、修得単位数等の事情により年次を上げて入学を許可することができる。
- 10 再入学者の在学年限は、許可された再入学年次に応じ、第20条第3項又は第4項に定める在学年限から再入学年次数を控除し、それに1を加えて得た年数とする。ただし、医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部獣医学科及び薬学部においては、在学年限を定めることができる。
- 11 再入学者は、再入学年次の教育課程によって履修するものとする。ただし、学則変更等の事情により再入学前の入学年度の教育課程によることができる。
- 12 退学前の既修単位は認定する。ただし、教育課程等の変更により、退学前の既修単位が認定されないことがある。
- 13 通信教育部における再入学については、別に定める規程による。

第30条 除籍とは、学生の帰すべき事由により在籍関係を強制的に解除し、退学させることをいう。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍することができる。

- ① 故なくして学費の納付を怠った者
- ② 故なくして欠席が長期にわたる者
- ③ 在学年限を超えた者

第31条 (削除)

第7節 履修規定

第32条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。また、教育上必要と認められる場合には、修得すべき単位の一部の修得について、これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。

- ① 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術学部における個人指導による実技の授業については15時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第32条の2 前条に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところによって、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第33条 教育職員の免許状を得ようとする者は、別に定める規定によって教職課程を履修しなければならない。

第34条 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によっては、その他の方法で査定することができる。

2 試験には、平常試験・定期試験・追試験及び再試験がある。

- ① 平常試験とは、当該授業科目履修者を対象に授業科目担当教員が学期の途中に適宜行う試験のことをいう。
- ② 定期試験とは、当該授業科目履修者を対象に大学の定めた試験期間中に行う試験のことをいう。定期試験は学期末又は学年末に行う。
- ③ 追試験とは、やむを得ない事由のため定期試験を受けることのできなかった者のために行う試験のことをいう。
- ④ 再試験とは、受験の結果不合格となった者のために行う試験のことをいう。

3 追試験及び再試験は、当該学部において必要と認めるときに限り、これを行う。

第35条 修学についての所定の条件を備えていない者は、受験資格を失うことがある。

第36条 学業成績の判定は、S、A、B、C、D及びEの6種をもってこれを表し、S(100~90点)、A(89~80点)、B(79~70点)、C(69~60点)、D(59点以下)、E(履修登録したが成績を示さなかったもの)をもって表し、S、A、B、Cを合格、D、Eを不合格とする。合格した授業科目については、所定の単位数

が与えられる。

- 2 第1項の学業成績の学修結果を総合的に判断する指標として、総合平均点（Grade Point Average、以下「GPA」という）を用いることができる。
- 3 前項に定めるGPAは、学業成績のうち、Sにつき4、Aにつき3、Bにつき2、Cにつき1、D及びEにつき0をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、総履修単位数（P又はNとして表示された科目を除く）で除して算出する。GPAは、小数点第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで有効とする。
- 4 第1項の規定にかかわらず、履修登録後、所定の中止手続きを取ったものはP、修得単位として認定になったものはNと表示する。
- 5 GPA算出の対象科目は、卒業要件単位数に含まれる授業科目（単位認定科目としてNと表示された科目を除く）とする。
- 6 GPAは、学期のGPA、年度のGPA及び入学時からの累積のGPAとする。
- 7 通年科目は、学期のGPA算出の際には、後学期のGPAに算入する。
- 8 授業科目を再履修した場合、累積のGPA算出の際には、直近の履修による学業成績及び単位数のみを算入するものとし、以前の学業成績及び単位数は算入しない。
- 9 試験において不正行為を行った場合は、処分を受けた条件に基づき、評価をE、評価点はなしとして取り扱う。

第37条 各学部を卒業するために必要な最低単位数は、第2章教育課程及び履修方法に定めるところによる。

- 2 学生が許可を受けて在籍する学部以外の学部で履修した授業科目の単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前項に定める授業科目の履修については、別に定める。
- 4 学生が許可を受けて他の大学、専門職大学、短期大学又は専門職短期大学で履修した授業科目の単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 5 前項の規定は、学生が許可を受けて外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
- 6 学生が許可を受けて行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修は、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
- 7 学生が本大学に入学する前に大学、専門職大学、短期大学又は専門職短期大学において履修した授業科目について修得した単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 8 学生が本大学に入学する前に行った第6項に規定する学修は、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
- 9 第2項、第4項、第5項及び第7項により修得したものとみなす単位並びに第6項及び第8項により与えることのできる単位は、合わせて60単位を超えない範囲で、卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第37条の2 第32条の2に規定する授業によって修得した単位は、60単位を超えない範囲で、卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第9節 学費及び貸給費

第40条 授業料その他所定の学費は、別表2の定めるところにより納付するものとする。

- 2 編入学・再入学・転部・転科及び転籍の学費の取扱いについては、別に定める。
- 3 休学及び留学を許可された学生の休学及び留学期間中の学費の取扱いについては、別に定める。

第41条 授業料を分納しようとする者は、事由を述べた書面により、保証人連署で願い出るものとする。

第42条 証明手数料等については別表3の定めるところにより納付するものとする。

第43条 既納の学費は、いかなる理由があっても返還しない。

第44条 停学を命ぜられた学生は、停学期間中も授業料を納付しなければならない。

第45条 学業人物ともに優秀な学生であって、学費支弁の方法のない者には、学費を減免し、又は貸与・給付することがある。

- 2 減免・貸給費については、別に定める。

第14節 賞 罰

第75条 人物及び学業成績が優秀な者には、受賞することがある。

- 2 受賞に関する規定は、別に定める。

第76条 学生が本大学の規則・命令に背き若しくは大学の秩序を乱し、又は学生としての本分に反する行為があった場合にはその情状によって懲戒を行うことがある。

第77条 懲戒は、退学・停学及び訓告の3種とする。

2 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

- ① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- ② 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- ③ 正当の理由がなくて出席常でない者
- ④ 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

3 停学とは、一定期間、授業の受講及び施設設備の利用等を禁止し、その他の課外活動等についても禁止することをいう。

4 訓告とは、文書で戒めることをいう。

5 懲戒の手続に関する規定は、別に定める。

第15節 寄宿舍

第78条 寄宿舍に関する規定は、別に定める。

第3章 大学院

第1節 総則

第104条 本大学に、大学院を置く。

2 大学院は、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

第105条 本大学院の課程は、修士課程、博士課程及び専門職学位課程とする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

3 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

4 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

5 本大学院の専門職学位課程に、法科大学院を置き、その目的は、専ら法曹養成のための教育を行うこととする。

6 修士課程の標準修業年限は、2年とする。

7 前項の規定にかかわらず、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年とする。

8 前項に該当する研究科、専攻又は学生の履修上の区分は次のとおりとする。

法学研究科政治学専攻1年コース

国際関係研究科国際関係研究専攻1年コース

9 博士課程の標準修業年限は、5年（医学研究科・歯学研究科・松戸歯学研究科・獣医学研究科及び薬学研究科は4年）とする。

10 博士課程は、前期2年及び後期3年の課程に区分し、前期2年の課程はこれを修士課程として取り扱う。医学研究科・歯学研究科・松戸歯学研究科・獣医学研究科及び薬学研究科の博士課程については前期及び後期の区分をしない。

11 法務研究科専門職学位課程（法科大学院）の標準修業年限は、3年とする。

12 第6項、第7項、第9項及び第11項の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて第106条第14項に規定する在学年限の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

第106条 修士課程は、所定の年限在学し、専攻科目について30単位以上を修得、必要な研究指導を受け、更に修士論文の審査（芸術学研究科、理工学研究科建築学専攻及び生産工学研究科建築工学専攻に限り、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる）及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 修士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりである。ただし、学術の専攻分野の名称は、学際領域等専門別に区分しがたい分野を専攻した者について授与する。

（表省略）

3 博士課程は、所定の年限在学し、専攻科目について30単位以上（修士課程を修了した者については、その修得単位を含む）を修得、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた業績を上げた者については、大学院に3年（修士課程に2年以上在学し当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。また、第1項ただし書きの規定による在学期間をもって修士課程を修了した者及び第105条第7項及び第8項の規定による標準修業年限を1年とした修士課程を修了した者にあつては、修士課程における1年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

4 前項の規定にかかわらず、経済学研究科における修得すべき単位数は、36単位以上（修士課程を修了した者については、当該課程で修得した30単位を含む）、商学研究科における修得すべき単位数は、40単位以上（修士課程を修了した者については、当該課程で修得した32単位を含む）、芸術学研究科における修得すべき単位数は、40単位以上（修士課程を修了した者については、当該課程で修得した30単位を含む）、新聞学研究科及び総合社会情報研究科における修得すべき単位数は42単位以上（修士課程を修了した者については、当該課程で修得した30単位を含む）、国際関係研究科における修得すべき単位数は、44単位以上（修士課程を修了した者については、当該課程で修得した32単位を含む）、生物資源科学研究科における修得すべき単位数は47単位以上（修士課程を修了した者については、当該課程で修得した30単位を含む）、工学研究科における修得すべき単位数は、49単位以上（修士課程を修了した者については、当該課程で修得した35単位を含む）とする。

5 前2項の規定にかかわらず、第116条第3項第2号から第8号までの規定により、博士課程の後期3年の課

程に入学した者又は専門職学位課程を修了し、博士課程の後期3年の課程に入学した者については、大学院(専門職大学院を除く)に3年(法科大学院の課程を修了した者にあつては、2年)以上在学し(経済学研究科においては6単位以上、商学研究科においては8単位以上、芸術学研究科においては10単位以上、新聞学研究科、国際関係研究科及び総合社会情報研究科においては12単位以上、工学研究科においては14単位以上、生物資源科学研究科においては17単位以上を当該課程で専攻科目について修得し)、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた業績を上げた者については、大学院に1年(標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間)以上在学すれば足りるものとする。

6 博士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりである。ただし、学術の専攻分野の名称は、学際領域等専門別に区分しがたい分野を専攻した者について授与する。

(表省略)

7 博士課程に標準修業年限在学し、所定の単位だけを修得して、課程を修了しない者が、引き続き学生として在学する場合は、第14項に定める在学年限の範囲内において、当該大学院分科委員会の許可を受けなければならない。

8 法務研究科専門職学位課程(法科大学院)は、所定の年限在学し、専攻科目について所定の単位を修得し、研究科が別に定める要件を満たした者に専門職学位の学位を授与する。

9 前項の規定にかかわらず、第117条第5項の規定により法務研究科専門職学位課程(法科大学院)に入学する前に修得した単位(学校教育法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限り)を法務研究科専門職学位課程(法科大学院)において修得したものとみなす場合であつて、当該単位の修得により法務研究科専門職学位課程(法科大学院)の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その履修に要した期間その他を勘案し、1年を超えない範囲で法務研究科専門職学位課程(法科大学院)に在学したものとみなすことができる。

10 第8項の規定にかかわらず、法務研究科専門職学位課程(法科大学院)において必要とされる法学の基礎的な学識を有すると認めるもの(以下「法学既修者」という)に関しては、在学期間については1年を超えない範囲で在学し、単位については専門職大学院設置基準第25条第1項に規定された範囲で修得したとみなすことができる。なお、単位の取扱いについては別に定める。

11 前項の規定により、法学既修者について在学したものとみなすことのできる期間は、第9項の規定により在学したとみなす期間と合わせて1年を超えないものとする。

12 第10項の規定により、法学既修者について修得したものとみなすことのできる単位数(専門職大学院設置基準第25条第1項ただし書きの規定により30単位を超えて算入できる単位を除く)は、第117条第6項の規定により修了するために必要な単位数に算入することのできる単位数と合わせて30単位(専門職大学院設置基準第21条第1項ただし書きの規定により30単位を超えて算入できる単位を除く)を超えないものとする。

13 専門職学位課程の授与する専門職学位は、次のとおりである。

(表省略)

14 大学院における在学年限は、修士課程4年(第105条第7項及び第8項の規定による標準修業年限を1年とした修士課程にあつては2年)、博士後期課程6年とする。ただし、医学研究科・歯学研究科・松戸歯学研究科・獣医学研究科及び薬学研究科の在学年限は8年とする。また、法務研究科専門職学位課程(法科大学院)は6年とする。

第107条 本章に規定しない事項については、第1章総則による。

第2節 教員及び運営機構

第108条 本大学院の授業及び指導は、大学院教員資格に該当する本大学の教授がこれを行う。ただし、このうち特別の事情がある場合には、准教授、講師又は助教がこれを担当することができる。

第109条 本大学院の学事管理のため、大学院委員会を置く。

2 大学院委員会は、研究科長をもって組織し、各研究科に共通の重要事項の審議に当たる。

3 大学院委員会は、学長が招集し、その議長となる。

第110条 各研究科に分科委員会を置く。

2 分科委員会は、その科の授業科目を担当する専任教員をもって組織する。

第111条 分科委員会は、研究科長が招集し、その議長となる。

第112条 分科委員会は、総会員の半数以上の出席によって成立する。

第113条 分科委員会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

① 学生の入学及び課程の修了に関すること。

② 学位論文の審査及び学位の授与に関すること。

③ 前2号に掲げる事項のほか、教育に関する重要な事項で、分科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2 前項第3号の事項については、別に定める「学長裁定」による。

3 分科委員会は、第1項に規定するもののほか、学長及び研究科長がつかさどる教育に関する事項につい

て教育研究上の専門的な観点から審議し、並びに学長及び研究科長の求めに応じ、意見を述べることができる。なお、本大学の諸規程において分科委員会が審議することと定められている事項については、分科委員会はこれを審議し、意見を述べなければならない。

4 分科委員会の意見を集約する必要がある場合は、出席者の過半数によるものとする。

第114条 分科委員会における審議とは、論議・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

第115条 大学院の学務は、学長が総轄し、各研究科の学務は、各研究科長がこれを管掌する。

2 研究科長は、当該学部長がこれに当たる。

3 前項の規定にかかわらず、総合社会情報研究科、法務研究科専門職学位課程（法科大学院）の研究科長については、次の各号のとおりとする。

- ① 総合社会情報研究科については、学長又は当該研究科の教授のうちから学長が任命する者がこれに当たる。
- ② 法務研究科専門職学位課程（法科大学院）については、当該研究科の教授のうちから学長が任命する者がこれに当たる。ただし、当該研究科の運営上特に必要と大学が認めた場合には、学長又は当該関連学部の学部長がこれに当たることができる。

第3節 入学及び入学資格

第116条 修士課程及び専門職学位課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、本大学院の選抜試験に合格した者とする。

- ① 大学を卒業した者
 - ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
 - ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - ⑥ 外国の大学等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - ⑧ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - ⑩ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの
- 2 前項の規定にかかわらず、大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であって、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるものであり、かつ、本大学院の選抜試験に合格した者を入学させることができる。
- 3 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、本大学院の選抜試験に合格した者とする。
- ① 修士の学位若しくは専門職学位を有する者
 - ② 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - ⑤ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - ⑥ 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代える審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - ⑦ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑧ 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの
- 4 医学研究科・歯学研究科及び松戸歯学研究科博士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、本大学院の選抜試験に合格した者とする。
- ① 大学医学部又は医科大学を卒業した者
 - ② 大学歯学部又は歯科大学を卒業した者

- ③ 大学における修業年限6年の獣医学又は薬学を履修する課程を卒業した者
 - ④ 外国において学校教育における18年の課程を修了した者
 - ⑤ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
 - ⑥ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - ⑦ 外国の大学等において、修業年限が5年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - ⑧ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であつて、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - ⑩ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの
- 5 前項の規定にかかわらず、大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であつて、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるものであり、かつ、本大学院の選抜試験に合格した者を入学させることができる。
- 6 獣医学研究科博士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、本大学院の選抜試験に合格した者とする。
- ① 大学における修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者
 - ② 大学における医学又は歯学を履修する課程を卒業した者
 - ③ 外国において学校教育における18年の課程を修了した者
 - ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
 - ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - ⑥ 外国の大学等において、修業年限が5年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - ⑦ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であつて、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - ⑨ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの
- 7 前項の規定にかかわらず、大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であつて、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるものであり、かつ、本大学院の選抜試験に合格した者を入学させることができる。
- 8 薬学研究科博士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、本大学院の選抜試験に合格した者とする。
- ① 大学における修業年限6年の薬学を履修する課程を卒業した者
 - ② 大学における医学又は歯学を履修する課程を卒業した者
 - ③ 外国において学校教育における18年の課程を修了した者
 - ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
 - ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - ⑥ 外国の大学等において、修業年限が5年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - ⑦ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であつて、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - ⑨ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの
- 9 前項の規定にかかわらず、大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であつて、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるものであり、かつ、

本大学院の選抜試験に合格した者を入学させることができる。

- 10 本大学院においては、他大学大学院からの編入学及び所属する研究科を変更することはできない。ただし、所属する研究科内において専攻の変更を許可する場合がある。

第4節 教育課程及び履修方法

第117条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行うものとする。

- 2 総合社会情報研究科における授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導は、通信教育により行う。
- 3 各研究科における授業科目・単位数及び研究指導並びに履修方法は次条以下による。
- 4 学生が許可を受け、他の研究科又は他大学大学院において履修した授業科目について修得した単位については、当該学生が在籍する研究科の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 5 学生が本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位については、当該学生が在籍する研究科の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 6 前2項により修得したものとみなす単位は、10単位を超えない範囲（法務研究科専門職学位課程（法科大学院）については、30単位（専門職大学院設置基準第21条第1項ただし書きの規定により30単位を超えて算入できる単位を除く）を超えない範囲）で、修了するために必要な単位数に算入することができる。
- 7 各研究科において、教育研究上有益と認めるときは、あらかじめ協議の上、学生が他の研究科、他大学大学院の研究科又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。
- 8 第4項から第7項までの規定は、学生が各研究科の許可を受けて外国の大学に留学する場合にこれを準用する。

第117条の2 教育上特別の必要がある場合は、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行う。

- 2 前項に該当する研究科、専攻は次のとおりとする。

修士課程・博士前期課程

(表省略)

博士課程・博士後期課程

研 究 科	専 攻
新 聞 学 研 究 科	新 聞 学 専 攻
芸 術 学 研 究 科	芸 術 専 攻
歯 学 研 究 科	歯 学 専 攻

専門職学位課程

(表省略)

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

学位請求論文審査に関する要項

昭和 34 年 12 月 24 日制定	平成 16 年 12 月 22 日改正
昭和 37 年 5 月 1 日改正	平成 17 年 4 月 1 日施行
昭和 38 年 12 月 1 日改正	平成 19 年 4 月 26 日改正
昭和 40 年 1 月 1 日改正	平成 19 年 4 月 1 日施行
昭和 41 年 7 月 22 日改正	平成 21 年 3 月 5 日改正
昭和 52 年 4 月 1 日改正	平成 21 年 4 月 1 日施行
昭和 54 年 12 月 27 日改正	平成 21 年 11 月 4 日改正
昭和 56 年 4 月 1 日改正	平成 22 年 4 月 1 日施行
昭和 63 年 12 月 22 日改正	平成 27 年 4 月 2 日改正
平成 元年 4 月 1 日施行	平成 27 年 6 月 4 日改正
平成 10 年 10 月 22 日改正	平成 27 年 4 月 1 日施行
平成 10 年 4 月 1 日施行	平成 28 年 3 月 3 日改正
平成 12 年 11 月 24 日改正	平成 28 年 4 月 1 日施行
平成 13 年 4 月 1 日施行	令和 元年 12 月 12 日改正
平成 14 年 5 月 2 日改正	令和 2 年 4 月 1 日施行
平成 14 年 4 月 1 日施行	

(趣 旨)

- 1 この要項は、日本大学学則及び日本大学学位規程に定めるもののほか、日本大学大学院歯学研究科（以下「研究科」という）が行う学位請求論文審査（以下「学位論文審査」という）について、必要事項を定める。

(申請資格)

- 2 次の資格を得た者は、学位論文審査を申請することができる。ただし、学位論文審査の申請に先だって学位請求論文予備審査（以下「予備審査」という）の申請をしなければならない。

① 課程履修による者

研究科第 4 年次において所定の単位を修得見込で、筆頭著者である原著論文 1 編以上を有する者

② 課程履修によらない者

(1) 本学歯学部専任教員（専修医、専修研究員、歯学部助手を含む）であり、所定の研究歴を有し、筆頭著者である原著論文 1 編を含む原著論文 2 編以上を有する者

(2) 本学歯学部研究講座員であり、所定の研究歴を有し、筆頭著者である原著論文 1 編を含む原著論文 2 編以上を有する者

(研究歴)

- 3 申請資格という所定の研究歴とは、次のとおりとする。

- ① 本学歯学部専任教員（専修医，専修研究員，歯学部助手を含む）
 - (1) 歯学（又は医学）の大学を卒業した者は，原則として満6年以上
 - (2) 歯学（又は医学）以外の理系の大学を卒業した者又はこれに準ずると認められる者は，原則として満8年以上
- ② 本学歯学部研究講座員
 - (1) 歯学（又は医学）の大学を卒業した者は，満6年以上
 - (2) 歯学（又は医学）以外の理系の大学を卒業した者又はこれに準ずると認められる者は，満8年以上
- ③ 次の期間は，日本大学大学院歯学研究科分科委員会（以下「分科委員会」という）に諮った上，所定の研究歴に算入することができる。ただし，本学歯学部研究講座員については，3年の範囲内で算入することができる。
 - (1) 本学歯学部研究生の在籍期間
 - (2) 歯学（又は医学）の大学院退学者の在籍期間
 - (3) 本学歯学部あるいは他の大学等の然るべき研究機関に在籍し，その研究領域が現在の研究領域と同一の研究期間
- ④ その他特別な事由がある場合は，指導教授の申請により分科委員会の審議を経て，所定の研究歴に算入することができる。

（予備審査）

4 予備審査は，次のとおり実施するものとする。

- ① 予備審査を受ける場合は，学位論文予備審査願を歯学研究科長（以下「研究科長」という）に提出しなければならない。
- ② 予備審査の申請を受理したとき，研究科長は分科委員会委員のうちから3名以上を予備審査委員として委嘱し，当該論文の予備審査に当たらせる。必要があるときは，分科委員会委員以外の者を加えることができる。
- ③ 予備審査委員は互選によって予備審査委員長を選出する。ただし，基幹となる論文（学位論文の項参照）の共著者は，当該予備審査の委員長になることはできない。
予備審査委員長は会を主宰して，学位論文提出者の申請資格，学位論文の内容などについて審査を行い，審査終了後，研究科長に学位論文予備審査終了報告書を提出するものとする。
- ④ 研究科長は，予備審査を終了した者について分科委員会に報告しなければならない。
- ⑤ 学位論文審査申請の可否は，分科委員会が審議する。

（予備審査の時期）

5 予備審査の時期は，次のとおりとする。

- ① 課程履修者は，第4年次の4月1日から1月末日までの間
- ② 歯学部専任教員の場合は，随時
- ③ 歯学部研究講座員及び委託論文による者の場合は，毎年3月1日から10月末日までの間

(学位論文審査基準)

6 歯学研究科における論文の審査については、歯学研究科のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の基準により総合的に評価する。

- ① 研究の内容に独創性と新規性があること。
- ② 研究の目的・背景が明確に記述されていること。
- ③ 研究の計画・方法について明確かつ具体的に記載されていること。
- ④ 客観的な研究結果に基づき、論理的な考察が成されていること。
- ⑤ 適切に文献が引用されていること。
- ⑥ 研究倫理を遵守して行われた研究であること。
- ⑦ 学術的価値が認められる研究であること。

(学位論文の様式)

7 学位論文は、申請者が筆頭著者である欧文の原著論文1編以上を基幹として、その内容を充実させた論文、又は、単著の原著論文とする。ただし、共著の場合、主査及び指導教授(准教授、講師、助教を含む)が共著者に含まれない論文も基幹とすることができる。

下表に学位論文の様式規定を記載する。

学位論文A：1編の原著論文の内容を充実させたもの (原著論文の条件) ① 最新の Journal citation reports に掲載され impact factor (IF)を有する雑誌に3年以内に掲載された(印刷中含む)欧文の原著論文。 ② 学位論文として他に使用されない旨の誓約書が必要。
学位論文B：複数編の原著論文をまとめたもの (原著論文の条件) ① 1編の原著論文については学位論文Aの条件①と②が必要。 ② 他の原著論文については学位論文Aの条件②のみ必要。
学位論文C：単著の原著論文 (原著論文の条件) ① 日大歯学等に投稿予定のもので論文掲載証明書が必要。 ② ほかに原著論文が2編以上必要(いずれも筆頭著者でなくても可)。

(学位論文審査の申請)

8 予備審査を経て分科委員会で承認された者は、次により学位論文審査を申請することができる。

- ① 学位論文審査の申請は、研究科長を経て学長に提出するものとする。
- ② 学位論文審査の申請に要する書類は、次のとおりとする。
 - (1) 学位申請書
 - (2) 履歴書

- (3) 戸籍抄本
- (4) 論文目録
- (5) 学位論文
- (6) 原著論文 1 編以上 (学位論文の様式規定を参照)
- (7) 誓約書 (単著の原著論文の場合は不要)
- (8) 写真
- (9) 論文掲載証明書 (ただし、総括論文の場合は不要)
- (10) 論文の内容の要旨

(学位論文審査手数料)

9 学位論文審査手数料については、別に定める。

(学位論文審査及び最終試験)

10 研究科長は、分科委員会の審議を経て主査 1 名、副査 2 名以上から成る審査委員会を設置し、論文内容の審査及び論文提出者に対する最終試験に当たらせる。

① 最終試験については、次のとおりとする。

(1) 課程履修による者の場合には、主査及び副査が学位論文並びに関連事項について口頭試問をもって実施する。

(2) 課程履修によらない者の場合には、主査及び副査が学位論文並びに関連事項について口頭試問を実施し、併せて博士課程を修了して学位を授与される者と同等以上の学識を有することを確認するために、外国語については 2 種類を課する。ただし、外国語については、分科委員会が特別の事由があると認めるときは、1 種類のみを課することができる。

② 審査及び最終試験の終了後、主査は論文審査の結果の要旨を分科委員会に文書で報告するものとする。

(研究科長の内申)

11 学位授与の可否は、学位論文審査結果について分科委員会が審議し、研究科長の内申に基づき学長が決定する。

(委託論文の申請)

12 次の資格を有する者は、委託論文審査を申請することができるものとする。ただし、学位審査権を有する機関からの委託論文は取り扱わないものとする。なお、本学卒業者の場合は考慮することがある。

① 然るべき研究機関において、この要項の 2 の②の(1)又は(2)に該当する者。

② その他の者(大学卒の学歴を有しない者を含む)については、次の事項を充足している者。

(1) 然るべき研究機関及び学会に 15 年以上在籍し、その間歯学(又は医学)に関する研究に従事していること。

(2) 然るべき学会機関誌に掲載した歯学(又は医学)に関する 10 編以上の原著論文を有すること。

(委託論文の受託)

13 学位論文審査の委託の申し出を受けたとき、研究科長は、分科委員会委員の中から若干名の予備審議委員を選び、予備審議委員会を設置する。

① 予備審議委員会は、互選により委員長を選出し、この要項の7の学位請求者の論文の内容等から受託の可否を審議し、分科委員会に報告するものとする。

② 研究科長は、分科委員会の審議を経て、学位論文の受託の可否を決定する。

(受託論文の審査)

14 受託した学位論文は、この要項の10により審査を行う。

附 則

1 この要項は、令和2年4月1日から施行する。

2 平成17年3月31日以前に本学歯学部専任教員（専修医，専修研究員，歯学部助手を含む）及び本学歯学部研究講座員である者の研究歴の取扱いは、この要項の施行にかかわらず、なお従前による。

学位の申請について(課程博士)

誓約書については、
作成例⑤「共同研究
者の承諾・誓約書」
を参照すること

1 学位論文の種類

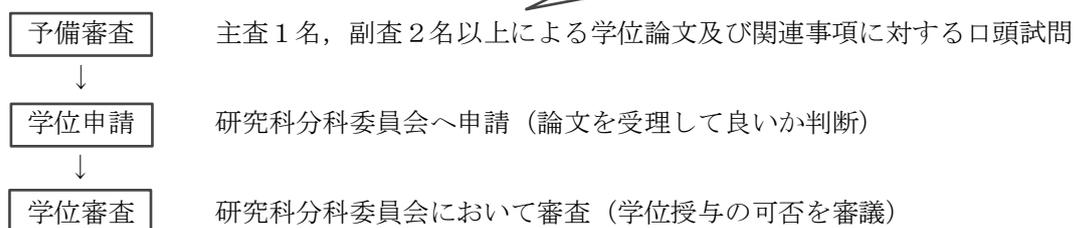
学位論文 A : 1編の原著論文の内容を充実させたもの (原著論文の条件) ① 最新の Journal citation reports に掲載され impact factor (IF)を有する雑誌に 3年以内に掲載された(印刷中含む)欧文の原著論文。 ② 学位論文として他に使用されない旨の誓約書が必要。
学位論文 B : 複数編の原著論文をまとめたもの (原著論文の条件) ① 1編の原著論文については学位論文 A の条件①と②が必要。 ② 他の原著論文については学位論文 A の条件②のみ必要。
学位論文 C : 単著の原著論文 (原著論文の条件) ① 日大歯学等に投稿予定のもので論文掲載証明書が必要。 ② ほかに原著論文が2編以上必要(いずれも筆頭著者でなくても可)。

※注 原著論文の使用について

学位論文として、過去を含め一度使用されたものは、いかなる場合でも使用できません。
(誓約書が必要とされているのはそのためです。)

学位論文 A, 学位論文 B の場合、基幹論文の共著者は、主査になることはできません。

2 学位論文審査までの流れ



〔※研究科分科委員会—原則、8月と3月を除く第4木曜日に開催
(年度末は臨時開催あり)〕

3 予備審査の時期

○ 第4年次の4月1日から1月末日までの間

4 予備審査・学位申請・学位審査に必要な書類一覧

別添資料参照

※講義終了後に学位申請様式データをメールで送付します。

学位申請関係書類 教務課提出一覧（甲種）

予備審査時（1～5は教務課に提出，3～9は予備審査委員に提出）

※教務課へは，予備審査委員へ書類を提出する1週間以上前までに提出すること。

1. 学位論文予備審査願（コピーを予備審査委員に提出）〔1部〕 〔所定様式〕
2. 予備審査委員推薦書〔1部〕 〔所定様式〕
3. 履歴書〔1部〕 〔様式7〕
4. 論文目録〔1部〕 〔様式9〕
5. 論文の内容の要旨〔1部〕 〔所定様式〕
6. 学位論文〔1部〕
7. 原著論文（1編以上）〔各1部〕
8. 業績目録〔1部〕
9. 博士論文の登録・公表依頼書〔1部〕 〔様式11〕

学位申請時（予備審査後，研究科分科委員会の1週間前の正午までに教務課に提出）

1. 学位論文予備審査終了報告書〔1部〕 〔所定様式〕
2. 学位申請書（本人の自著）〔1部〕 〔様式1〕
日付は提出日とすること。
3. 履歴書〔1部〕 〔様式7〕
4. 論文目録〔1部〕 〔様式9〕
5. 論文の内容の要旨〔1部〕 〔所定様式〕
6. 学位論文〔30部〕
両面印刷・ホチキス止め（製本は不要）
7. 原著論文（1編以上）〔各1部〕※
共著論文を学位論文の基幹とする場合，共同研究者の承諾・誓約書も提出すること。
※雑誌掲載前の場合，アクセプトレター（メール等）のコピーを添付すること。
8. 記録媒体（CD-R等）〔1点〕
【Word形式】①履歴書，②論文目録
【Word形式及びPDF/A形式】③論文の内容の要旨，④主論文
9. 戸籍抄本〔1部〕
10. 写真〔4cm×3cm〕（裏面に記名）〔1葉〕
11. 論文掲載証明書（学位論文Cの場合）〔1部〕
日大歯学への投稿の場合は研究事務課で受付

学位審査時（学位申請後の研究科分科委員会の1週間前の正午までに教務課に提出）

1. 論文審査の結果の要旨〔1部〕 〔所定様式〕
2. 最終試験の結果の要旨〔1部〕 〔所定様式〕
3. 博士論文の登録・公表依頼書〔1部〕 〔様式11〕
4. 論文の要約〔1部〕※
※3. 博士論文の登録・公表依頼書〔様式11〕で「全文公表」とした場合は不要
5. 記録媒体（CD-R等）〔1点〕
①【Word形式及びPDF/A形式】論文審査の結果の要旨
②【Word形式】最終試験の結果の要旨
③【Excel形式】博士論文の登録・公表依頼書
④【Word形式及びPDF/A形式】論文の要約※

※ 「博士論文公表の代替措置終了届出書〔様式12〕」

やむを得ない事由により代替措置として論文の要約を公表した場合，事由が解消し，当該博士論文の全文を公表する際に提出。

学位論文予備審査願

学位論文題目	Applications of ~
	(~の応用)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 文字が英語の場合、フォントは Times New Roman を使用し、行を変えて () 内に日本語も記入する 日本語のフォントは MS 明朝 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> タイトルの最後にピリオド (.) や句点 (。) は付けない </div>

著者名	歯学一郎	専攻科目	保存修復学
指導教授名	日大太郎	指導教授承認	印

上記論文の予備審査をお願い申し上げます。

令和 2 年 4 月 30 日

提出日 (他と合わせる)

氏名 歯学一郎 印

戸籍抄本記載表記と合わせる

日本大学大学院歯学研究科長 殿

受理期日	令和 年 月 日	受理番号	第 号
通過期日	令和 年 月 日	通過番号	第 号

予備審査委員長 (主査)	<div style="border: 2px solid gray; border-radius: 20px; padding: 20px; background-color: #f0f0f0;"> ここは教務課が記載するので、何も記入しないこと </div>
予備審査委員 (副査)	

※ 教務課が研究科長の承認印をもらい次第、この審査願(写)を一部渡しますので、必要枚数をコピーし、予備審査委員に提出してください。

予備審査委員推薦書

日本大学大学院歯学研究科長 殿

主査を依頼する先生には○をつける

○ □ □ □ □ 教授

日 大 太 郎 教授

□□□ □ □ 教授

□ □ □ □ 教授

順番は
1 主 査 (○をつける)
2 副 査 (指導教授)
3 副 査 (あいうえお順)
4 副 査 (あいうえお順)

以上、予備審査委員として推薦します。

指導教授 氏名 日 大 太 郎 印

氏名は7文字カウント
□□□○□□□
1 2 3 4 5 6 7
例) 米 山 隆 之
植 田 耕 一 郎
棧 淑 行
本 吉 満
林 誠

研究科長

揃える

履 歴 書

戸籍抄本記載表記と合わせる

報告番号	甲 第 号		
ふりがな氏名	しがく いちろう 歯学 一郎	男	女
生年月日	平成 3 年 5 月 10 日		
本籍	神奈川県		
現住所	東京都文京区白山1-16-7-401		

学 歴

例) 私立日本大学鶴ヶ丘高等学校卒業

平成21年3月 神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校卒業
 平成21年4月 日本大学歯学部歯学科入学
 平成27年3月 日本大学歯学部歯学科卒業
 平成29年4月 日本大学大学院歯学研究科歯学専攻入学
 令和 3年3月 日本大学大学院歯学研究科歯学専攻修了見込

研 究 歴

研究歴がない場合は、項目ごと削除

平成28年4月 日本大学歯学部歯科保存学第 I 講座に研究生として入室
 平成29年3月 同上退室

職 歴

(松戸歯学部の場合) 日本大学松戸歯学部付属病院臨床研修歯科医師採用

平成27年4月 歯科医籍登録 第123456号
 平成27年4月 日本大学歯学部付属歯科病院総合診療科採用
 平成28年3月 同上修了

上記のとおり違いありません。

令和 2 年 4 月 30 日

氏 名 歯 学 一 郎 ㊞

論文目録

日本大学

報告番号	甲第号	氏名	歯学一郎
<p>学位論文</p> <p>題名 Application of ultraviolet photofunctionalized titanium to bone regenerative medicine (紫外線光機能化の骨再生医療への応用) 日大歯学投稿予定 日大歯学掲載予定</p> <div data-bbox="774 862 1340 1019" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>学位論文Cの場合： 予備審査前：上段 予備審査後：下段にして教務課へ提出</p> </div> <p>原著論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>Tsuchiya N</u>, Sato S, Kigami R, Kawano E, Takane M, Arai Y, Ito K (2014) Effect of a chitosan sponge impregnated with platelet-derived growth factor on bone augmentation beyond the skeletal envelope in rat calvaria. J Oral Sci 56, 23-28. 2. 小川麻衣, 高橋康代, <u>伏木怜奈</u>, 堀貫恵利, 馬谷原琴枝, 清水典佳 (2016) 日本大学付属歯科病院歯科矯正科における実態調査—来院患者数およびその分布について— 日大歯学 90, 53-60. <div data-bbox="311 1467 1364 1601" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>書式は英論文：JOS, 和論文：日大歯学の文献記載要領に準ずること。 ただし、著者名は全員を記載し、学位申請者に下線を引くこと。</p> </div> <p>令和 2 年 4 月 30 日</p> <p style="text-align: center;">学位申請者 氏名 歯学一郎 印</p>			

学位論文予備審査終了報告書

日本大学大学院歯学研究科長 殿

君の予備審査を終了しましたので
ご報告申し上げます。

令和 年 月 日

予備審査日

予備審査委員長

印

日付は提出日

令和 年 月 日

日本大学学長 殿

自署（手書き）

学位申請者氏名

歯学一郎 印

学位申請書

学位規程第3条第3項の規定により論文に論文
要旨及び履歴書を添え博士（歯学）の学位の授与を
申請いたします。

作成例③「最終試験の結果の要旨（甲種）」

他の書類の氏名は7文字カウントだが、ここだけは間をあけない

歯学一郎に対する最終試験は、主論文に関連する事項につき、口頭試問によって実施された。その結果、合格と認められた。

以 上

主 査	日本大学教授	歯学博士	□ □ □ □	㊟
副 査	日本大学教授	歯学博士	日 大 太 郎	㊟
副 査	日本大学教授	歯学博士	□□□ □ □	㊟
副 査	日本大学教授	博士（歯学）	□ □ □ □	㊟

※指導教授

あいうえお順

学位の表記に注意！

※平成3年6月30日以前に学位が授与された場合

歯学博士

医学博士

※平成3年7月1日以降に学位が授与された場合

博士（歯学）

博士（医学）

日付は提出日 令和 2 年 5 月 30 日

日本大学学長 殿

日本大学学位規程第16条に基づき、私が執筆した博士論文の全文（やむを得ない理由がある場合は、その内容を要約したもの）及び論文の内容の要旨について、日本大学リポジトリに登録し、公表することを依頼します。

氏名 歯学一郎 ⑩
 所属 歯学研究科
 連絡先 TEL : 03-3219-8002
 E-mail : deit12056@g.nihon-u.ac.jp

氏名を入力する際に、⑩を消さないように注意すること

論文の提出による学位申請者は、論文を提出した研究科名を記入してください。

論文題名	Applications of ~		タイトルが英語の場合は和訳を、日本語の場合は英訳を記入
論文題名(訳) ※和訳又は英訳を記入してください。	~の応用		
論文の内容を表すキーワード ※3つ以上記入してください。()内に英語で記入してください。	1 骨 (bone) 2 疼痛 (pain) 3 脱灰 (demineralization) 4 インプラント質量 (implant mass) 5 マイクロCT (micro-CT)		主論文データは本文・図・表を一つのデータ (word及びPDF/A) にまとめて提出
要約とは、元の文章の内容を筆者の意図に沿ってまとめたもの(論文の概要がすべてわかるもの)であり、 要旨とは異なります。 (全文公表されるまでの間は要約が公表される)	<input checked="" type="checkbox"/> 全文を公表します。 公表時期は、 <input checked="" type="checkbox"/> 即時 (学位授与日以降) <input type="checkbox"/> 期日指定 (公表日： 年 月 日) <input checked="" type="checkbox"/> やむを得ない理由が解消するまで、博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表します。 (事由) <input type="checkbox"/> 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含むため <input type="checkbox"/> 博士論文が、著作権や個人情報に係る制約があるため <input type="checkbox"/> 当該論文が、出版刊行されている、または出版刊行が予定されているため <input type="checkbox"/> 学術雑誌等へ掲載されている、または掲載が予定されているため <input type="checkbox"/> 特許を申請している、または申請が予定されているため <input checked="" type="checkbox"/> その他 (事由を記入してください) { 学位論文のデータの一部が学術雑誌に掲載予定のため } ※「やむを得ない事由」の解消時期に関する情報を、別紙の例を参考に記入してください。 { 未定 }		1年以内に公表できる場合は、期日指定する。
インターネットの利用による公表の内容 こちらにチェックした場合は、別途「論文の要約」の提出が必要になります。また、事由が解消した際には様式12の届出と全文公表が必要になります。			
共同研究者の許諾 ※事前に共同研究者の許諾を得てください。	<input type="checkbox"/> あり (共同研究者全員の氏名を記入してください) この欄は歯学研究科は該当しないので、記入しない。		
指導教員の確認	上記記載の内容について承認します。 指導教員氏名 日大太郎 ⑩		
事務局記入欄	学位記番号：博 甲 / 乙 第 号	学位授与年月日：令和 年 月 日	
	備考：	公表年月日：令和 年 月 日	

「博士論文の登録・公表依頼書」記入上の注意

- 1 学位規程により、学位を授与された日から1年以内にその論文の全文（やむを得ない事由がある場合には、大学院委員会の承認を得て、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したもの）及び論文の内容の要旨をインターネットで公表することが定められていますので、「博士論文の登録・公表依頼書」を必ず提出してください。
- 2 論文の内容を表すキーワードを3つ以上5つ以内、同義の英語についても記入してください。
- 3 博士論文の全文を「日本大学リポジトリ」で公表するに当たり、著作権等の権利者（共著者、図版・写真等の著作権所有者、出版社等）がいる場合は、あらかじめ許諾を得てください。
- 4 博士論文の全文を公表できない「やむを得ない事由」が解消したときは、速やかに全文を公表します。「やむを得ない事由」の解消時期に関する情報を、下記を参考にわかる範囲（予定を含む）で併記してください。

（全文を公表できないやむを得ない事由例）

- ① 当該論文に立体形状による表現を含む場合
- ② 著作権や個人情報に係る制約がある場合

著作権に係る制約は、権利者からインターネットでの公表について許諾が得られなかった場合のみ該当します。

《やむを得ない事由が解消できる時期の記入例》

「図版の著作権者へ許諾申請中」など

- ③ 当該論文が出版刊行されている、または出版刊行が予定されている場合

既に図書として出版刊行されている場合、出版契約等の内容確認が必要です。

版元から「学位論文」のインターネットでの公表が認められなかった場合は、「やむを得ない事由」として該当します。

《やむを得ない事由が解消できる時期の記入例》

「出版社から出版の○年後にはインターネット公表可との許諾を得た」

「出版社からインターネット公表は不可との回答があったため、事由は解消しない」など

図書として出版刊行が予定されている場合、出版後に版元から「学位論文」のインターネットでの公表が認められるまでの期間が、「やむを得ない事由」として該当します。

《やむを得ない事由が解消できる時期の記入例》

「**社より*年に出版予定」

「出版予定(出版社出版時期未定)」など

④ 学術雑誌等へ掲載されている，または掲載が予定されている場合

既に学術雑誌等へ掲載されている場合，出版元から学位論文の公開について許諾が得られなかった場合のみ「やむを得ない事由」として該当します。

《やむを得ない事由が解消できる時期の記入例》

『『掲載雑誌名』 *巻*号に掲載

「版元指定の公開猶予期間を超過する*年*月より公開可能」など

学術雑誌等への掲載が予定されている場合，出版元から学位論文の公開について許諾が得られるまでの期間が「やむを得ない事由」として該当します。

《やむを得ない事由が解消できる時期の記入例》

『『掲載雑誌名』 *巻*号に掲載予定

「版元指定の公開猶予期間を超過する*年*月より公開可能」など

(参考) 各出版元の著作権上の方針については，以下などが参考になります。

・ SHERPA/RoMEO -Publisher copyright policies & self-archiving

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php> (海外出版社，学会)

・ Society Copyright Policy in Japan

<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/> (国内学会)

⑤ 特許を申請している，または申請が予定されている場合

特許申請後未公開の段階である，または申請が予定されている場合，特許の登録要件の新規性（公然知られていないこと）を担保するため，また出願後の戦略上，発明者や出願人の判断でその内容を公表しないことが「やむを得ない事由」として該当します。

特許が登録され「特許公報」が発行された時，もしくは特許出願から1年6か月が経過し「公開特許公報」が出された時のいずれか早い時点で原則として「やむを得ない事由」が解消されます。

《やむを得ない事由が解消できる時期の記入例》

「公開特許公報予定日*年*月 (*年*月*日特許申請)」など

以 上

学位申請時、やむを得ない事由により代替措置として論文の要約を公表した場合に使用。

[様式12]

令和 年 月 日

日本大学学長 殿

氏 名 _____ ㊟

研究科名 _____ 研究科

※「研究科名」欄には、課程の修了による学位取得者は修了した研究科名を、論文の提出による学位取得者は論文を提出した研究科名を記入してください。

博士論文公表の代替措置終了届出書

博士論文公表の代替措置として、論文の要約の公表をしておりましたが、やむを得ない事由が解消しましたので届け出ます。

つきましては、下記の博士論文の全文の公表をお願いいたします。

記

区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 課 程 <input type="checkbox"/> 論 文
学位の種類	博 士 (歯 学)
学位取得年月日	令和 年 月 日
論 文 題 名	
公 表 時 期	<input type="checkbox"/> 即 時 <input type="checkbox"/> 期日指定 (年 月 日)

以 上

2020年度 授業計画

令和2年4月1日発行

日本大学大学院歯学研究科

〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台 1-8-13

電話 03-3219-8002 (教務課)
